

# 弥富市立地適正化計画

## (別冊) 防災指針

2024年4月



## 目 次

---

<b>別冊 防災指針</b> . . . . .	<b>別-1</b>
1 防災指針とは . . . . .	別-1
2 災害リスクの分析 . . . . .	別-2
(1) 本市における災害ハザード情報の整理 . . . . .	別-2
(2) 災害リスク分析の目安 . . . . .	別-7
(3) 各種災害ハザードの整理 . . . . .	別-9
(4) 防災まちづくりの課題 . . . . .	別-49
3 防災上の課題のとりまとめ . . . . .	別-60
4 防災まちづくりの考え方及び取組方針 . . . . .	別-61
(1) 防災まちづくりの考え方 . . . . .	別-61
(2) 取組方針 . . . . .	別-61
5 具体的な取組 . . . . .	別-62
6 評価指標 . . . . .	別-68



**別 冊 防 災 指 針**

# 防災指針

## 1. 防災指針とは

防災指針は、居住や都市機能の誘導を図る上で必要となる都市の防災に関する機能の確保を図るための指針であり、令和2年9月の都市再生特別措置法の改正により、当該指針に基づく具体的な取組と併せて立地適正化計画に定めることとなりました。

様々な災害のうち、洪水、雨水出水等による浸水エリアは広範囲に及び、既に市街地が形成されていることも多いことから、この範囲を居住誘導区域から全て除くことは現実的に困難です。また、地震については、影響範囲や程度を地域ごとに分析し、居住誘導区域から除外することに限界もあります。このため、居住誘導区域における災害リスクをできる限り回避あるいは低減させるため、必要な防災・減災対策を計画的に実施していくことが求められます。

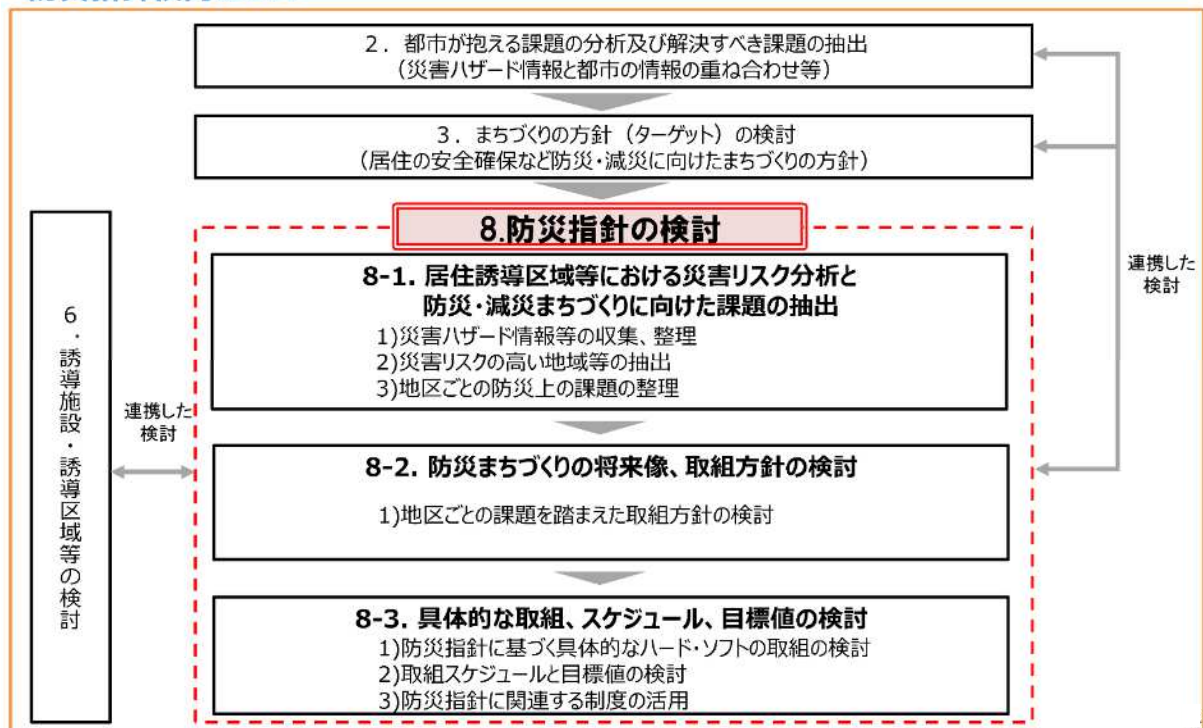
このため、立地適正化計画においては、災害リスクを踏まえた課題を抽出し、都市の防災に関する機能の確保のため、防災指針を定めるとともに、この方針に基づく具体的な取り組みを位置付けることとされています。(都市計画運用指針)

国土交通省の「立地適正化計画作成の手引き」において、以下のような防災指針検討のフローが示されており、このフローを基本に検討を行います。

なお、この防災指針の計画期間は、弥富市立地適正化計画の目標年次である令和17年度とします。

### ■ 防災指針検討のフロー

#### 防災指針検討のフロー



(資料: 立地適正化計画作成の手引き(国土交通省))

## 2. 災害リスクの分析

### (1) 本市における災害ハザード情報の整理

本市で想定されている災害ハザード情報を以下に整理します。なお、地震、液状化については、市全域での対応が求められるため、弥富市地域防災計画や弥富市地域強靱化計画等の防災関連計画に基づいて対応していくこととします。

#### ■本市における災害ハザード情報

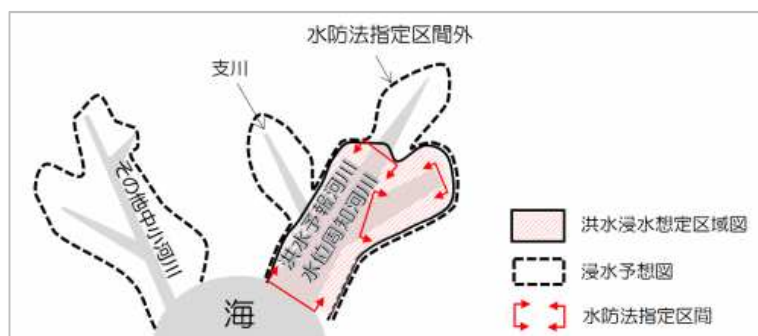
種類		規模	公表日	災害リスク
洪水浸水想定区域	木曽川	■計画規模※ (基準地点(犬山)より下流は200年に一度、上流は100年に一度、木曽川流域の総雨量295mm/48h)による浸水	R2.4.24	・浸水深
		■想定最大規模※※ (木曽川流域の総雨量527mm/48h)による浸水		・浸水深 ・浸水継続時間 ・家屋倒壊等氾濫想定区域(氾濫流)
	日光川	■計画規模※ (100年に一度、日光川流域の総雨量337mm/24h)による浸水	R1.8.30	・浸水深
		■想定最大規模※※ (日光川流域の総雨量713mm/24h)による浸水		・浸水深 ・浸水継続時間 ・家屋倒壊等氾濫想定区域(河岸侵食)
	領内川	■計画規模※ (30年に一度、領内川流域の総雨量277mm/24h)による浸水	R1.8.30	・浸水深
		■想定最大規模※※ (領内川流域の総雨量836mm/24h)による浸水		・浸水深 ・浸水継続時間
洪水浸水予想図※※	日光川流域	■計画規模※ (日光川は100年に一度、総雨量337mm/24h、支川は30年に一度、総雨量277mm/24h)による浸水	R1.9.30	・浸水深
		■想定最大規模※※ (日光川の総雨量713mm/24h、支川の総雨量836mm/24h)による浸水		・浸水深 ・浸水継続時間 ・家屋倒壊等氾濫想定区域(河岸侵食)
	鍋田川流域	■計画規模※ (50年に一度、鍋田川流域の総雨量334mm/24h)による浸水	R4.3.25	・浸水深
		■想定最大規模※※ (鍋田川流域の総雨量836mm/24h)による浸水		・浸水深 ・浸水継続時間 ・家屋倒壊等氾濫想定区域(河岸侵食)

種類		規模	公表日	災害リスク
筏川 流域	■ 計画規模※ (30年に一度、筏川流域の総雨量 277 mm/24h) による浸水	R4.3.25		・ 浸水深
	■ 想定最大規模※※ (筏川流域の総雨量 831 mm/24h) による浸水			・ 浸水深 ・ 浸水継続時間 ・ 家屋倒壊等氾濫想定区域 (河岸侵食)
高潮浸水想定	■ 想定最大規模 (室戸台風規模) 500年から数千年に一度の確率による浸水 (堤防等決壊あり)	R3.6		・ 浸水深 ・ 浸水継続時間
	■ 室戸台風規模 500年から数千年に一度の確率による浸水 (堤防等決壊なし)			・ 浸水深 ・ 浸水継続時間
	■ 伊勢湾台風規模 50年から150年に一度の確率による浸水 (堤防等決壊なし)			・ 浸水深 ・ 浸水継続時間
津波災害 警戒区域	■ 津波災害警戒区域 最大クラス (1000年以上に一度の確率) の津波を対象に津波浸水想定に定める水深に係る水位に建築物等への衝突による津波の水位の上昇を考慮して必要と認められる値を加えて定める基準水位	R1.7.30		・ 基準水位
地震	■ 過去地震最大モデル 南海トラフで繰り返し発生している地震のうち、発生したことが明らかで規模の大きいもの (宝永、安政東海、安政南海、昭和東南海、昭和南海の5地震) を重ね合わせたモデル	H26.5 公表 H27.12 修正		・ 震度 ・ 液状化
	■ 理論上最大想定モデル 南海トラフで発生する恐れのある地震のうち、あらゆる可能性を考慮した最大クラスの地震を想定したモデル			・ 震度 ・ 液状化

※河川整備において基本となる降雨

※※想定し得る最大規模の降雨

※※※浸水予想図:水防法の指定河川における「洪水浸水想定区域図」に加えて、水防法の指定区間外(上流部や支川)の浸水リスク情報として愛知県が公表したもの。「浸水予想図」は、水防法指定区間外や支川からの氾濫も含まれることから、「洪水浸水想定区域図」よりも浸水範囲が広い。



(資料:浸水予想図の対象範囲イメージ(愛知県 HP))



(参考)本市における過去の主な風水害

(1) 昭和9年から平成2年

年 月 日	種 別 (災害の要因)	名古屋の記録			被害の概要 ①災害の特徴 ②被害の程度 ③発生場所 ④被害額
		最低気圧 (hPa)	最大風速 (m/s) 風向	総雨量 (mm)	
S9. 9. 21	暴風雨 (室戸台風)	975. 9	32. 9SSE	24. 0	②死者8名、負傷者68名、家屋全壊85棟
S28. 9. 25	暴風雨・高潮 (台風第13号)	970. 0	22. 6NNW	178. 1	②死者72名、負傷者623名、家屋全壊6,769棟、浸水90,000棟
S34. 9. 26	暴風雨・高潮 (伊勢湾台風)	958. 5	37. 0SSE	165. 7	①台風と高潮による災害で伊勢湾を中心に県下全域の沿岸部に被害が集中した。 ②死者3,168名、行方不明92名、負傷者59,045名、家屋全壊23,334棟、流失3,194棟、半壊97,049棟、一部破損287,059棟、床上浸水53,560棟、床下浸水62,831棟 ③県下全域(沿岸部中心) ④3,224億円
S36. 9. 16	暴風雨 (第二室戸台風)	971. 9	28. 7SSE	96. 4	①集中豪雨による災害で中小河川の氾濫・暴風雨による竜巻等の被害が発生した。 ②死者3名、負傷者146名、家屋全壊168棟、半壊515棟、床上浸水652棟、床下浸水8,868棟 ③尾張部 ④104億円
S37. 8. 26	暴風雨 (台風第14号)	996. 5	23. 3SSE	110	①風水害による災害で県下全域で被害が発生した。 ②死者1名、負傷者9名、家屋全壊26棟、半壊28棟、床上浸水177棟、床下浸水7,556棟 ③県下全域 ④42億円
S46. 8. 30~31	大雨 (台風第23号)	987. 5	10. 0E	321. 5	②死者4名、負傷者15名、家屋全壊19棟、半壊127棟、一部破損228棟、床上浸水6,136棟、床下浸水59,160棟 ③県下全域 ④176億円
S54. 9. 28~10. 1	暴風雨 (台風第16号)	981. 9 小牧978. 2	17. 7SE 伊良湖 21. 3S	50 茶臼山170	①台風の通過による災害で家屋損壊、農水産物、公共土木施設等に被害が発生した。 ②死者1名、負傷者23名、家屋全壊2棟、半壊20棟、一部破損217棟、床上浸水9棟、床下浸水178棟 ③県全域 ④65億円
S54. 10. 18~19	暴風雨 (台風第20号)	971. 9 小牧969. 4	14. 2W 伊良湖 20. 0S	80 作手282 茶臼山279 鳳来233	①台風の通過による災害で家屋損壊、農水産物、公共土木施設等に被害が発生した。 ②行方不明者1名、負傷者8名、家屋全壊4棟、半壊5棟、一部破損26棟、床上浸水39棟、床下浸水314棟 ③県全域 ④113億円
H2. 9. 19~20	台風第19号	972. 5 伊良湖 976. 9	20. 1SSE 伊良湖 26. 2S	95 作手254	①台風の通過による災害で、特に農業用施設、農産物の被害が著しかった。 ②負傷者29名、家屋全壊2棟、半壊28棟、一部破損2,297棟、床上浸水67棟、床下浸水1,408棟 ③県全域 ④約153億円

(2) 平成3年以降

年 月 日	種 別 (災害の要因)	気象観測地			被害の概要 ①災害の特徴 ②被害の程度 ③発生場所 ④被害額
平成3.9.18 ～19	大 雨 (台風第18号・前線)	総 降 水 量 1 時 間 降 水 量	名 古 屋 南 知 多 名 古 屋 東 海 南 知 多	242mm 316mm 57mm 55mm 48mm	①台風第18号の接近に伴い、本州南岸の秋雨前線の活動が活発化した。 このため、名古屋市の3区(北・緑・天白)及び春日井市では、災害救助法が適用された。 ②死者2名、軽傷者1名、住家の全壊2棟、一部損壊9棟。床上浸水3,713棟、床下浸水12,131棟。 ③県全域 ④約60億円
平成6.9.29 ～30	暴風雨・竜巻 (台風第26号)	風 速 瞬 間 風 速 総 降 水 量 1 時 間 降 水 量	名 古 屋 名 古 屋 作 手 作 手	SSE19.4m/s SSE36.7m/s 235mm 48mm	①台風その他、竜巻が発生した。 ②負傷者37名、住家の全壊8棟、半壊113棟一部損壊981棟、床上浸水137棟、床下浸水456棟。 ③県内全域。 ④約53億円。
平成10.9.21 ～23	暴 風 雨 (台風第7・8号)	風 速 瞬 間 風 速 総 降 水 量 1 時 間 降 水 量	名 古 屋 名 古 屋 茶 白 作 手	SSE21.5m/s SSE42.6m/s 329mm 63mm	①台風第8号が21日、第7号が22日と続いて上陸。第8号は雨、第7号は風による被害が大きかった。交通網が大混乱し、農業被害も大きかった。 ②死者3名、負傷者151名、住家の全壊8棟、半壊35棟、一部損壊661棟。 ③県内全域。 ④約33億円。
平成11.9.24 ～26	竜 巻 (台風第18号)	風 速 瞬 間 風 速	名 古 屋 伊 良 湖 名 古 屋 伊 良 湖	SSE11.2m/s S11.0m/s S23m/s S20.5m/s	①台風第18号の外側を取り巻く積乱雲が、東海地方の南海上から県沿岸にかかり、4個の竜巻が相次いで発生した。 このため、豊橋市では、被災者生活再建支援法(法律第66号)が、平成10年11月6日施行されて以来、本県で初めて同法の適用となった。 ②負傷者453名、住家の全壊41棟、半壊311棟、一部損壊1,052棟。 ③主として県東部。 ④約21億円
平成12.9.11 ～12	大 雨 (台風第14号・前線) 東海豪雨	総 降 水 量 1 時 間 降 水 量	名 古 屋 東 海 蟹 江 一 宮 稲 武 蒲 郡 名 古 屋 東 海 蟹 江 一 宮 稲 武 蒲 郡	566.5mm 589mm 365mm 293mm 467mm 249mm 97mm 114mm 78mm 54mm 70mm 55mm	①秋雨前線に台風第14号からの暖かく湿った空気が多量に流れ込んだため、前線の活動が活発となり、愛知県を中心とした東海地方で記録的な大雨となった。このため、23の市町村が避難勧告・指示を発令し、63,000人以上が避難され、21市町村で、災害救助法及び被災者生活再建支援法の適用がされた。また、この災害が、激甚災害に指定され、中小企業支援措置及び農地・農業施設用支援並びに林道の災害復旧事業支援措置がなされ、旭町、稲武町が局地激甚災害(公共土木施設分)の指定を受けた。 ②新川をはじめ県内河川の破堤20箇所、越水319箇所。死者7名、負傷者107名、住家の全壊18棟、半壊154棟、一部損壊147棟、床上浸水22,078棟、床下浸水39,728棟 ③県内全域。 ④約2,800億円

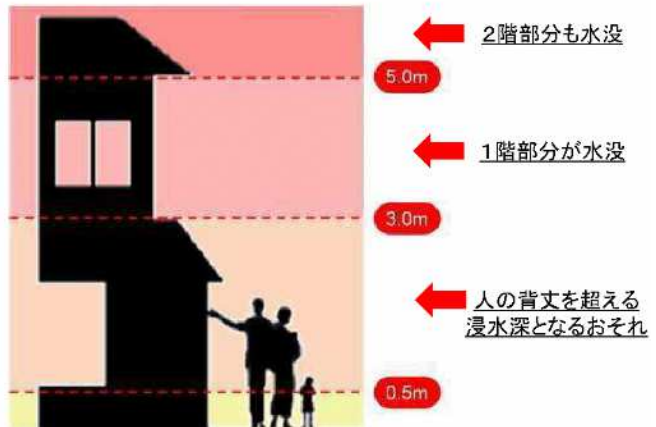
年 月 日	種 別 (災害の要因)	気象観測地				被害の概要 ①災害の特徴 ②被害の程度 ③発生場所 ④被害額
		総降水量	茶 白 山	作 手	330mm	
平成13. 8. 21 ～22	暴風雨 台風第11号	1時間降水量	岡 白 山	崎	313mm	①台風の通過による災害。 ②死者1名、負傷者1名、床上浸水3棟、 床下浸水165棟 ③県内全域。 ④約3億円
			茶 白 山		255mm	
			南 知 山		34mm	
			一 鳳 来		34mm	
					33mm	
平成15. 8. 8 ～9	暴風雨 台風第10号	総降水量	茶 白 山	手	382mm	①台風の通過による災害。 ②負傷者5名、一部損壊5棟、床上浸水1 棟、床下浸水15棟 ③県内全域。 ④約24億円
		瞬間風速	名 古 屋		336mm ESE28m/s	
平成16. 6. 21	暴風雨 台風第6号	総降水量	茶 白 山	屋	248mm	①台風の通過による災害。 ②負傷者27名、半壊1棟、一部損壊16棟、 床上浸水1棟、床下浸水3棟 ③県内全域。 ④約13億円
		瞬間風速	名 古 湖		34m/s	
			伊 良		30m/s	
平成16. 10. 20 ～21	暴風雨 台風第23号	総降水量	茶 白 山	屋	265mm	①台風の通過による災害。 ②死者1名、負傷者18名、一部損壊41棟、 床上浸水21棟、床下浸水160棟 ③県内全域。 ④約17億円
		瞬間風速	伊 古 湖		S33m/s SE35m/s	
平成20. 8. 28 ～30	大雨 8月末豪雨	総降水量	岡 崎	郡	447.5mm	①停滞していた前線に非常に湿った空気が 流れ込んだため、前線の活動が活発とな り、県内各地で記録的な大雨となった。 このため、名古屋市及び岡崎市で、災害 救助法及び被災者生活再建支援法の適用 がされた。 ②広田川が破堤。死者2名、負傷者5名、 住家の全壊5棟、半壊3棟、床上浸水2,4 80棟、床下浸水14,106棟 ③県内全域。 ④約107億円
		1時間降水量	蒲 橋	宮	365mm	
			一 名 古	屋	351.5mm	
			岡 崎	宮	272mm	
			一 宮	崎	237mm	
			豊 橋	郡	146.5mm	
			蒲 郡		104mm	
			名 古 屋		62.5mm	
					58.5mm	
					55mm	

出典：弥富市地域防災計画（R4.3公表）

## (2) 災害リスク分析の目安

災害種別ごとに災害リスクが想定されている地域を整理します。浸水深のリスクについては、右図の「浸水深と人的被害リスクのイメージ」を参照し、1階床上が浸水する浸水深0.5m、2階床上まで浸水し2階への垂直避難が困難になる浸水深3.0mを目安とします。

### ■ 浸水深と人的被害リスクのイメージ



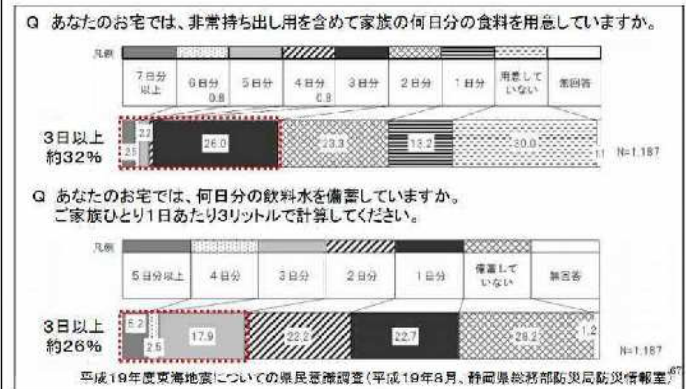
(資料: 立地適正化計画作成の手引き(国土交通省))

浸水深が0.5mになってから0.5mを下回るまでの浸水継続時間(想定最大規模のみ公表)については、右図の「浸水継続時間と避難生活環境」を参照し、健康障害の発生や最悪の場合は生命の危機が生じる恐れがあるとされる浸水継続時間3日以上を目安とします。

### ■ 浸水継続時間と避難生活環境

#### ① 浸水継続時間と避難生活環境

各家庭における飲料水や食料等の備蓄は、3日以内の家庭が多いものと推察され、3日以上孤立すると飲料水や食料等が不足し、健康障害の発生や最悪の場合は生命の危機が生じる恐れがある。  
このため、浸水継続時間が長く長期の孤立が想定される地域の有無に注意する必要がある。



出典: 水害の被害指針分析の手引き (H25 試行版)

(資料: 立地適正化計画作成の手引き(国土交通省))

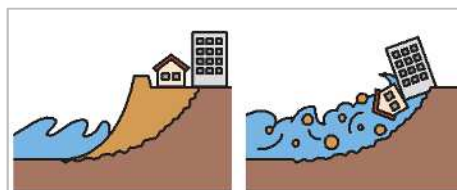
家屋倒壊のリスクについては、家屋倒壊等氾濫想定区域(洪水の想定最大規模のみ公表)の区域内に建物があるかどうかを目安とします。

### ■ 氾濫流(イメージ)



※氾濫流: 洪水時に氾濫した水の力により、木造家屋が流失・倒壊することが想定される区域

### ■ 河岸浸食(イメージ)

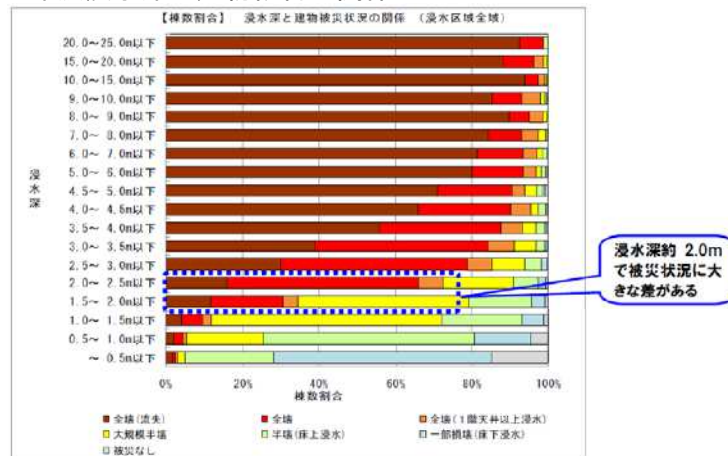


※河岸浸食: 洪水時に、堤防が侵食され、その後にある家屋が流失・倒壊することが想定される区域

(資料: 「避難情報に関するガイドライン」ポスター(内閣府))

■津波浸水深と建物被害の関係

津波浸水深のリスクについては、洪水及び高潮の浸水深の目安に加え、右図の「津波浸水深と建物被害の関係」を参照し、建物の被害が大きくなるとされる浸水深2.0mを目安とします。



(資料:東日本大震災による被害現況調査結果について(第1次報告)(国土交通省))

避難所、緊急時避難場所の立地状況の確認については、「都市構造の評価に関するハンドブック (国土交通省)」を参照し、高齢者の一般的な徒歩圏である半径500mを目安とします。

■避難所・緊急時避難場所の市内立地数

種類		概要	市内立地数
避難所	1次開設避難所	自主避難者がある場合など、優先的に開設	6
	2次開設避難所	弥富市において震度5弱以上の地震が発生した場合、または、避難指示などの発令時に開設	27
	3次開設避難所	上記(1次、2次)避難所を開設しても収容人員が足りない場合など、必要に応じて開設	7
緊急時避難場所		地震・津波や台風・豪雨などによる高潮、洪水、浸水が差し迫っている場合に、緊急的・一時的に避難可能な高い建物を市が指定	72

※避難所・緊急時避難場所数は令和5年12月時点

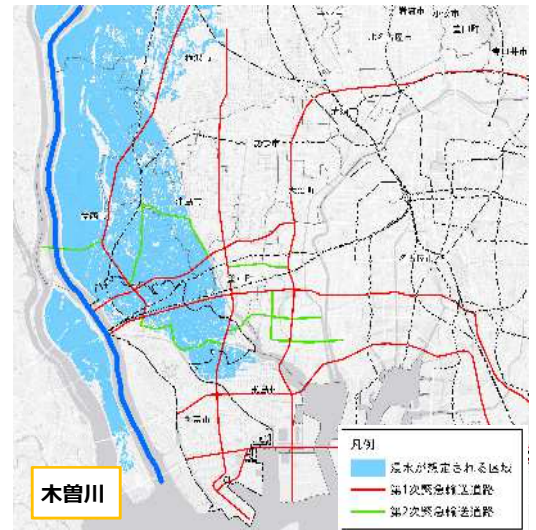
### (3) 各種災害ハザードの整理

#### 1) 洪水浸水想定区域

##### (ア) 木曽川

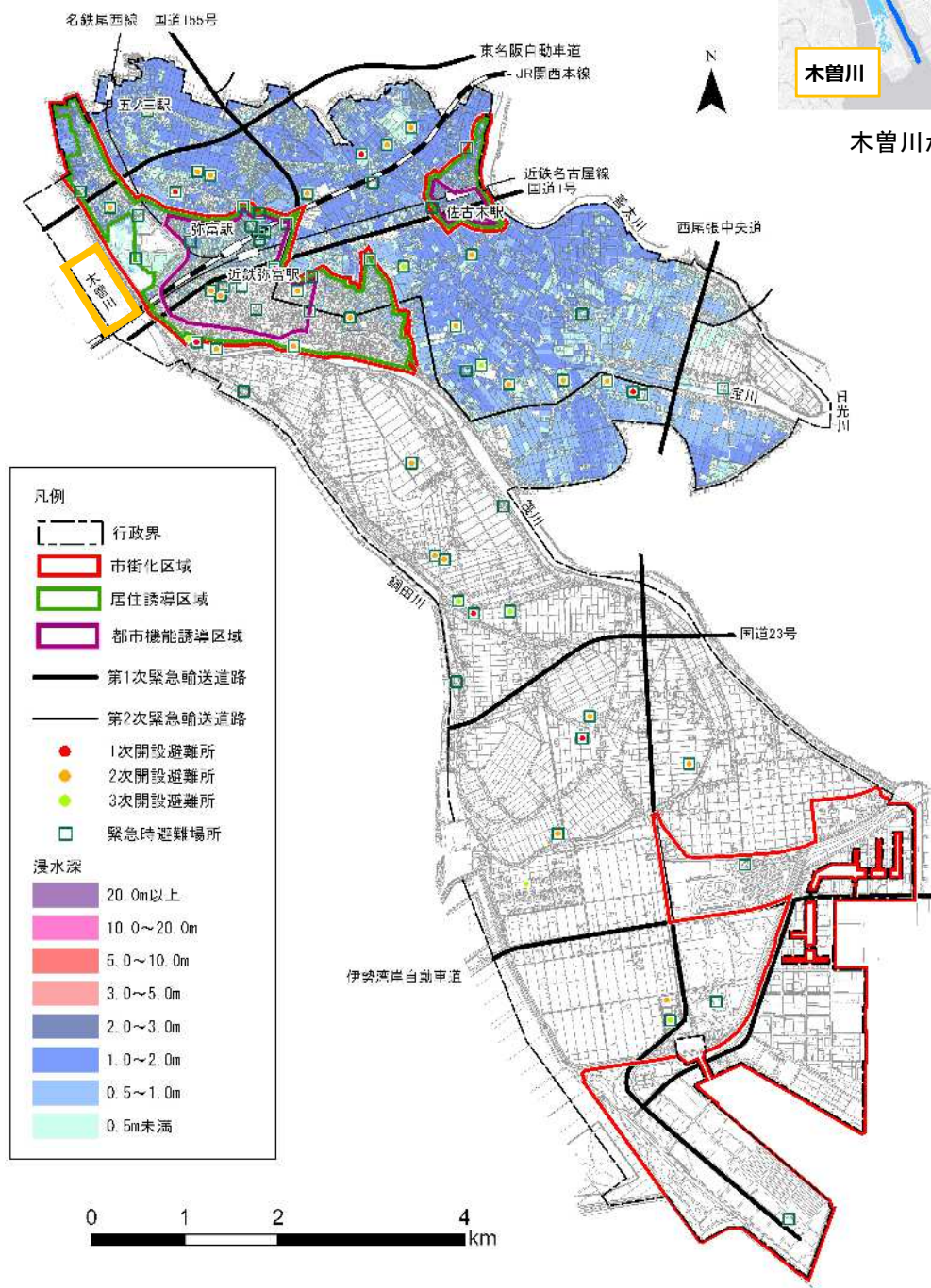
##### ① 計画規模

木曽川の洪水浸水想定区域（計画規模）は、市北部に広がっています。また、床上浸水が想定される浸水深0.5m以上の区域が広範囲で見られます。



木曽川からの浸水想定（広域）

#### ■ 洪水浸水深（木曽川-計画規模）

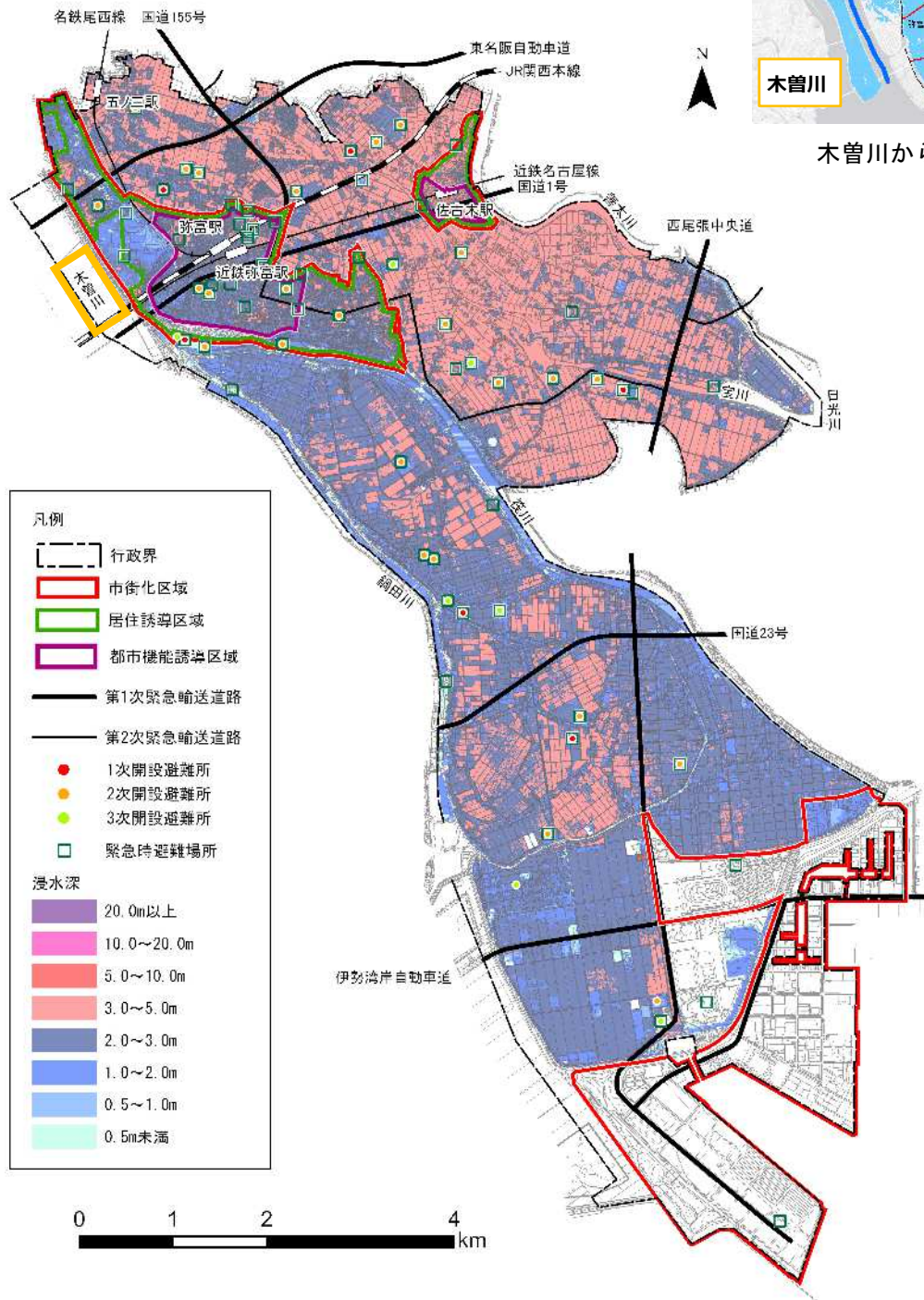


出典：国土交通省中部地方整備局 木曽川水系洪水浸水想定区域図（R2.4.24公表）

## ②想定最大規模

木曽川の洪水浸水想定区域（想定最大規模）は、臨海部の市街化区域周辺を除く、ほぼ市全域に広がっています。また、垂直避難が困難になる浸水深3.0m以上の区域が市北部を中心に広範囲で見られます。

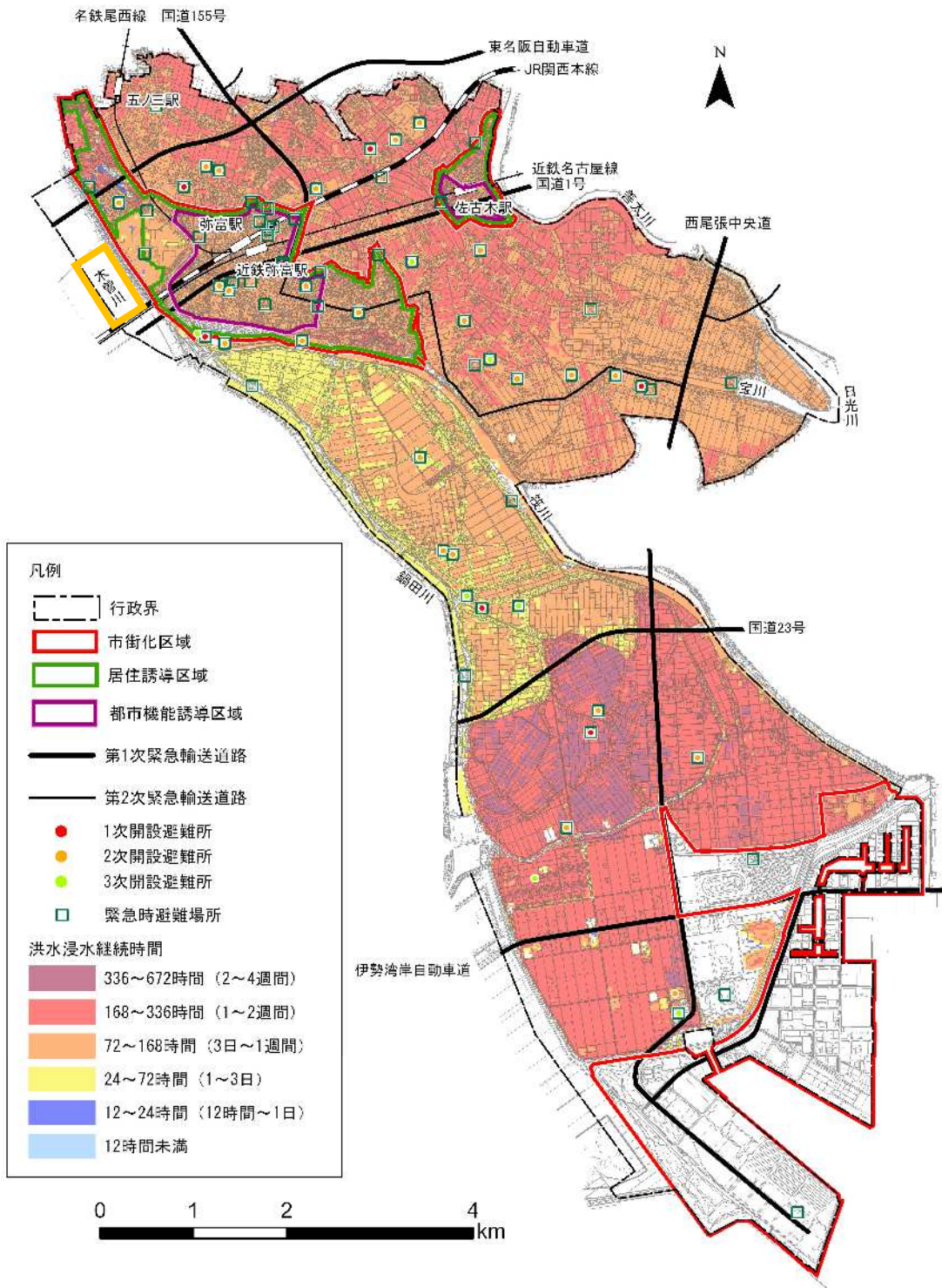
### ■洪水浸水深（木曽川-想定最大規模）



出典：国土交通省中部地方整備局 木曽川水系洪水浸水想定区域図（R2.4.24 公表）

木曾川の浸水継続時間をみると、健康障害の発生や生命の危機が生じる恐れがある 3 日以上  
 の浸水が広範囲で見られ、特に国道 23 号より南側の市街化調整区域では 336～672 時間（2  
 ～4 週間）と長期の浸水が想定されています。また、北部の市街化区域でも 168～336 時間（1  
 ～2 週間）や 72～168 時間（3 日～1 週間）が広範囲を占めるなど、長期の浸水が想定されて  
 います。

■洪水浸水継続時間（木曾川-想定最大規模）

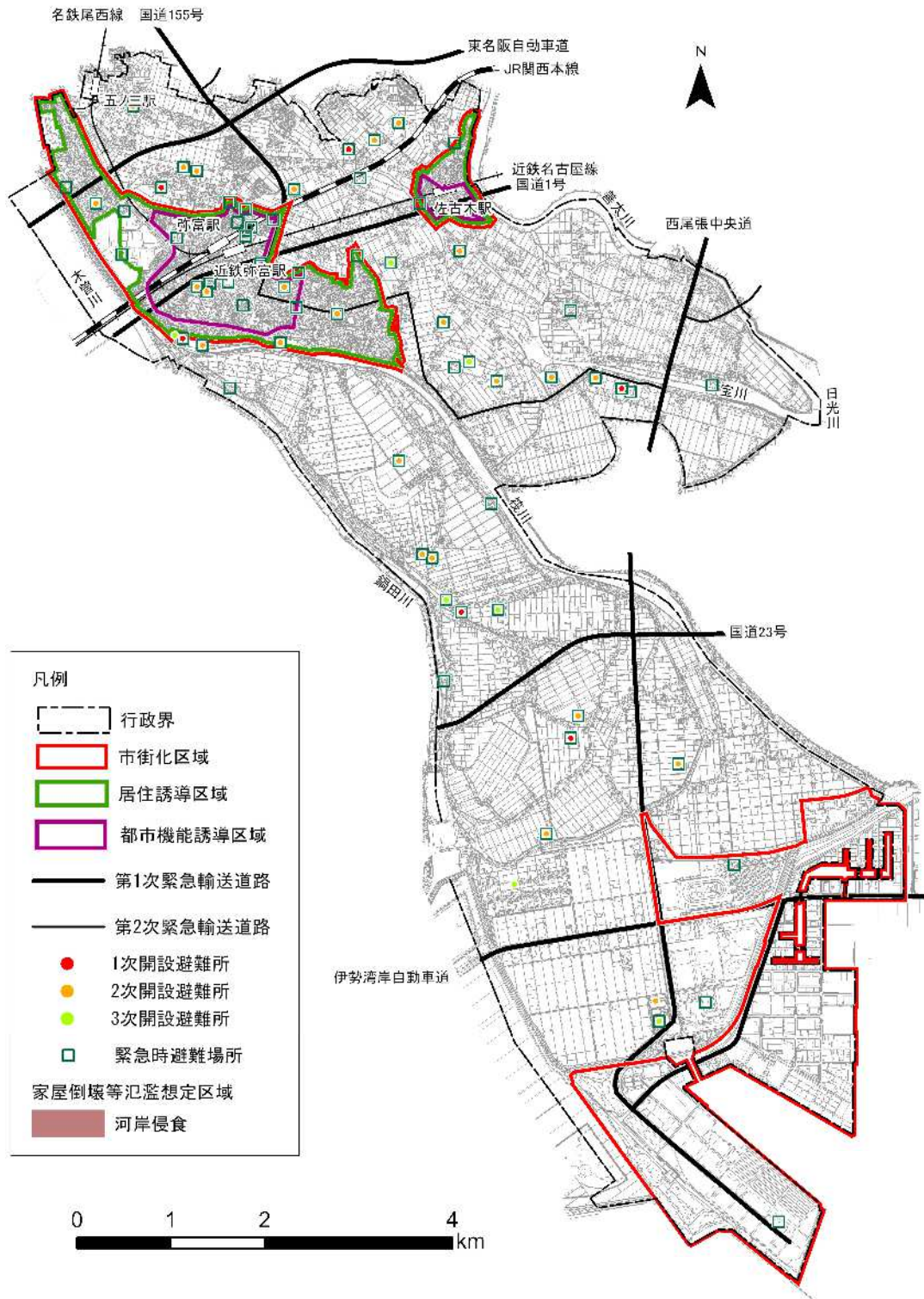


出典：国土交通省中部地方整備局 木曾川水系洪水浸水想定区域図（R2.4.24 公表）



木曾川の家屋倒壊等氾濫想定区域（河岸侵食）は、本市ではみられません。

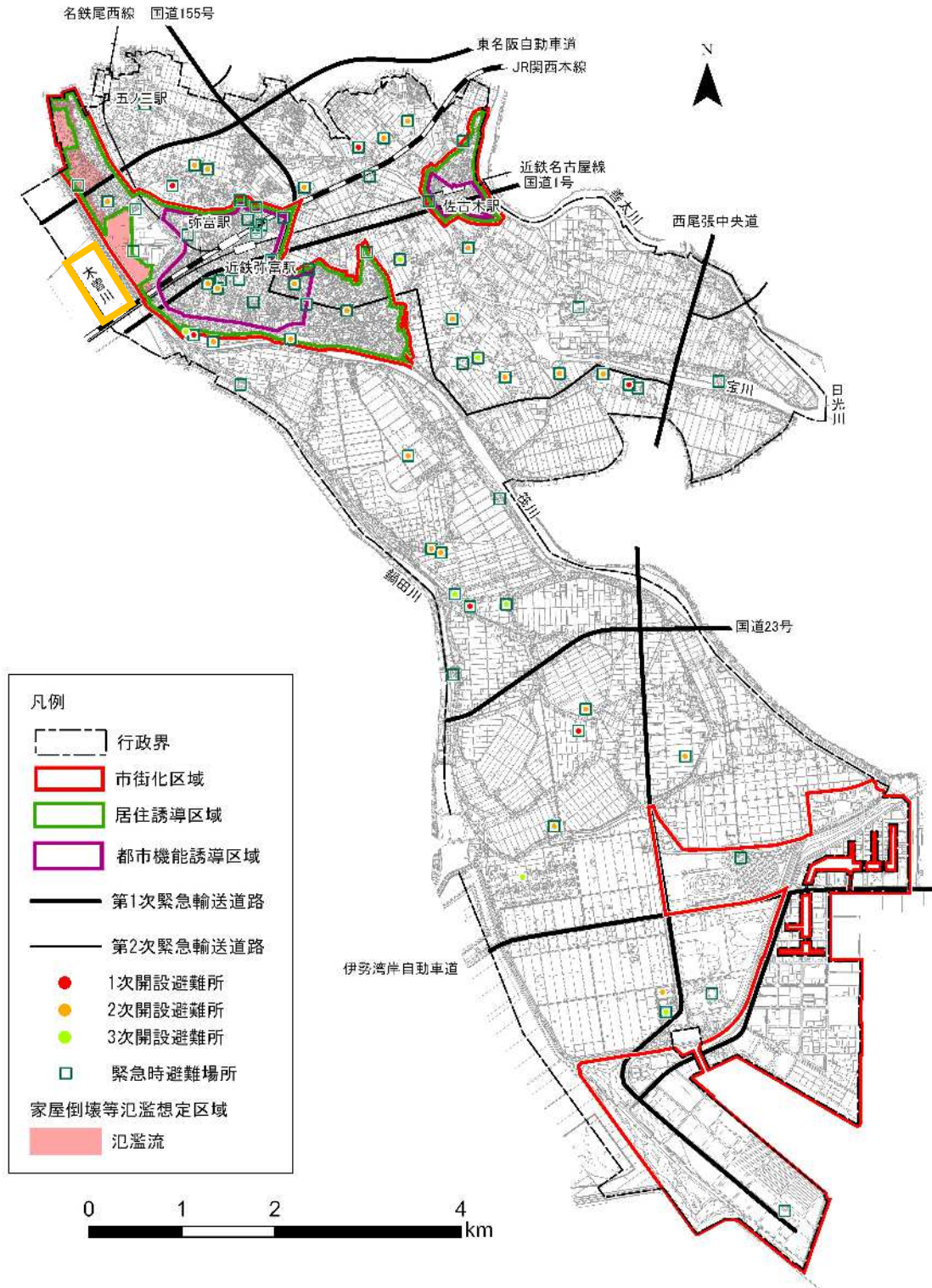
■家屋倒壊等氾濫想定区域（河岸侵食-木曾川-想定最大規模）



出典：国土交通省中部地方整備局 木曾川水系洪水浸水想定区域図（R2.4.24公表）

木曾川の家屋倒壊等氾濫想定区域（氾濫流）は、JR 関西本線より北側の木曾川沿いにみられます。

■家屋倒壊等氾濫想定区域（氾濫流-木曾川-想定最大規模）

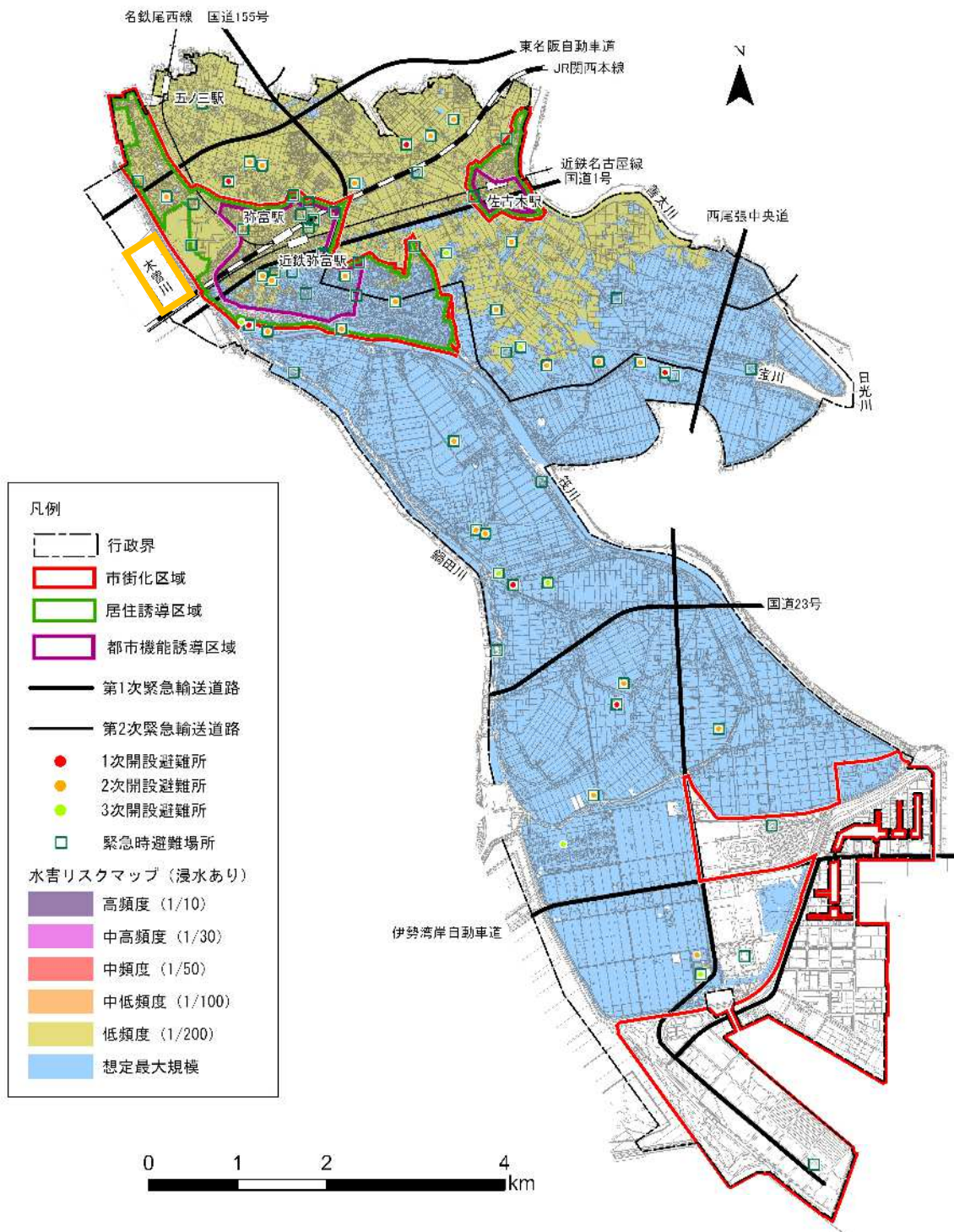


出典：国土交通省中部地方整備局 木曾川水系洪水浸水想定区域図（R2.4.24 公表）

### ③水害リスクマップ

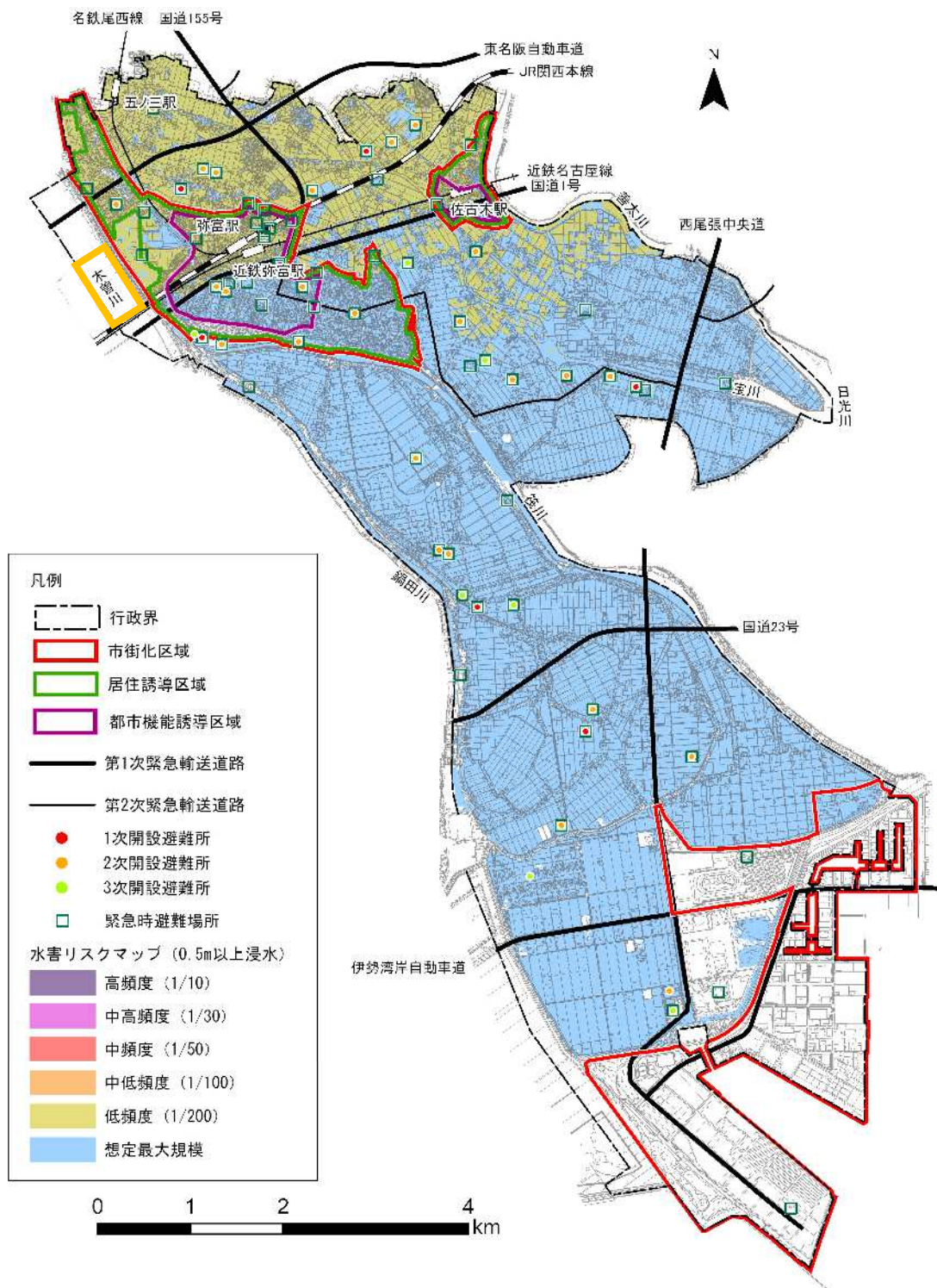
木曽川の水害リスクマップをみると、高頻度（1/10）から中低頻度（1/100）はみられないものの、低頻度（1/200）が市北部に広がっています。また、床上浸水が想定される0.5m以上の浸水も低頻度（1/200）が市北部に広がっています。2階床上まで浸水する3.0m以上の浸水は低頻度（1/200）ではみられません。

#### ■水害リスクマップ（木曽川-浸水あり）



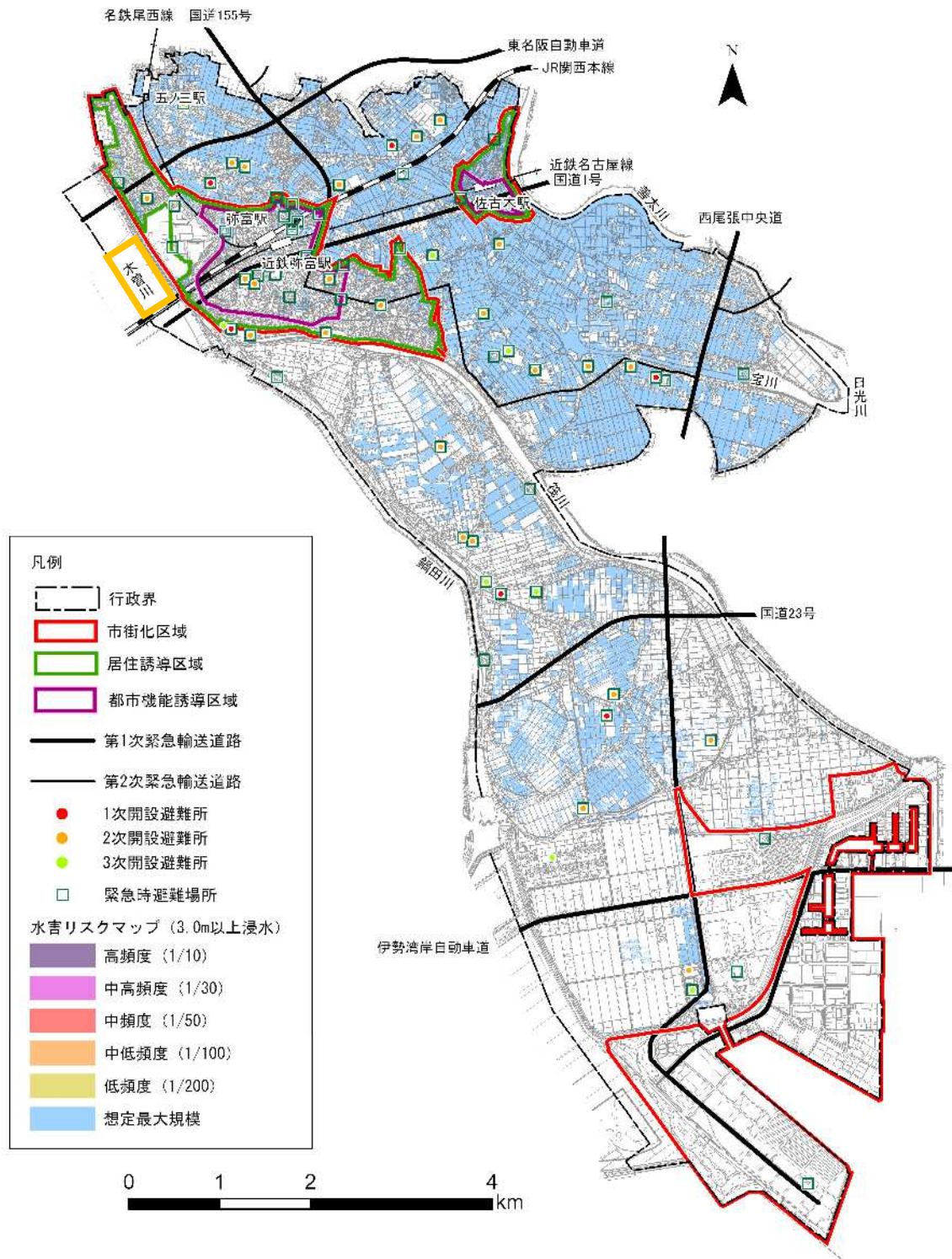
出典：国土交通省中部地方整備局 木曽川水害リスクマップ（R4.9.30公表）

■水害リスクマップ（木曾川-0.5m以上浸水）



出典：国土交通省中部地方整備局 木曾川水害リスクマップ（R4.9.30公表）

■水害リスクマップ（木曾川-3.0m以上浸水）



出典：国土交通省中部地方整備局 木曾川水害リスクマップ（R4.9.30公表）

(イ)日光川

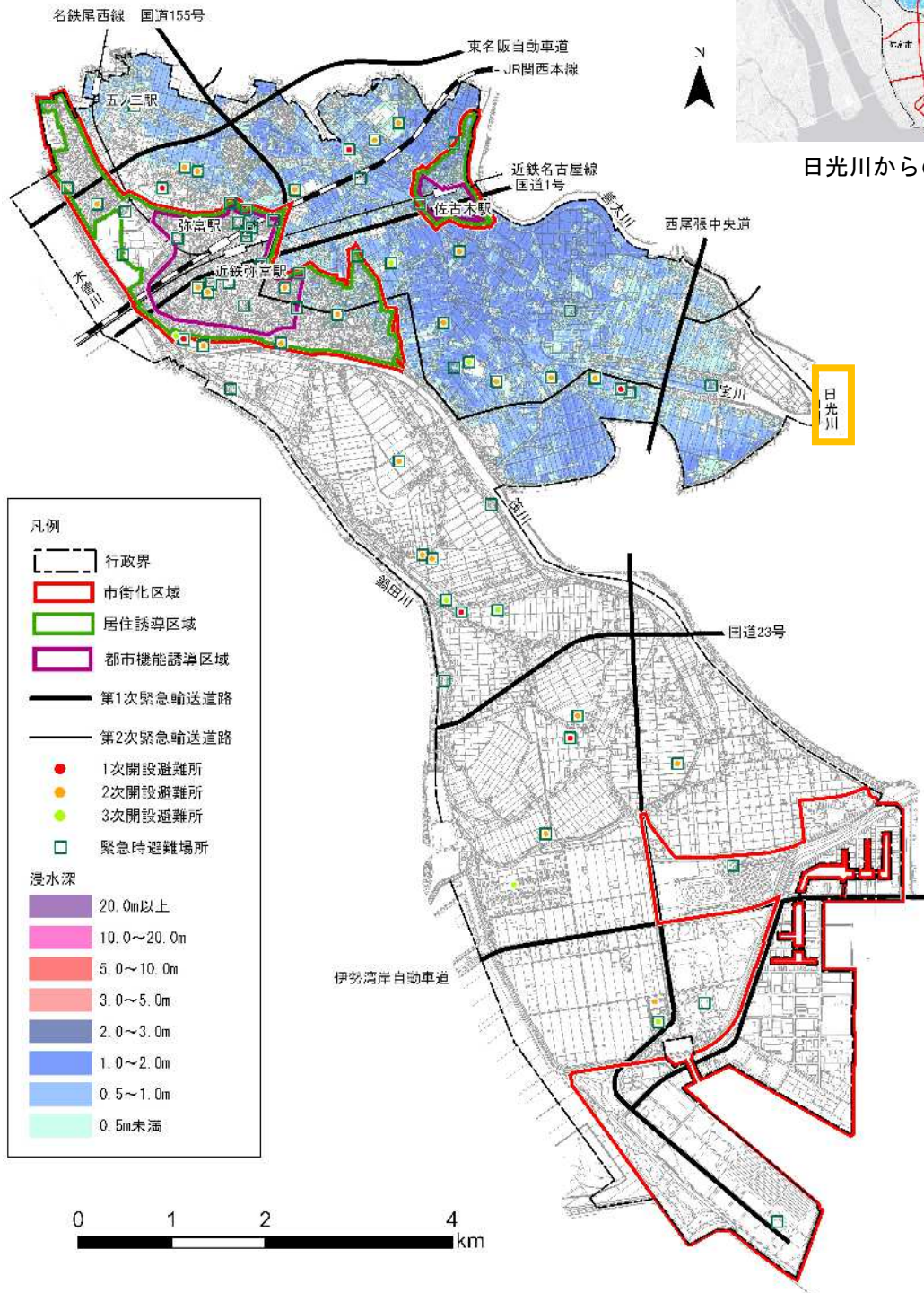
①計画規模

日光川の洪水浸水想定区域（計画規模）は、市北部に広がっています。また、床上浸水が想定される浸水深0.5m以上の区域が広範囲で見られます。



日光川からの浸水想定（広域）

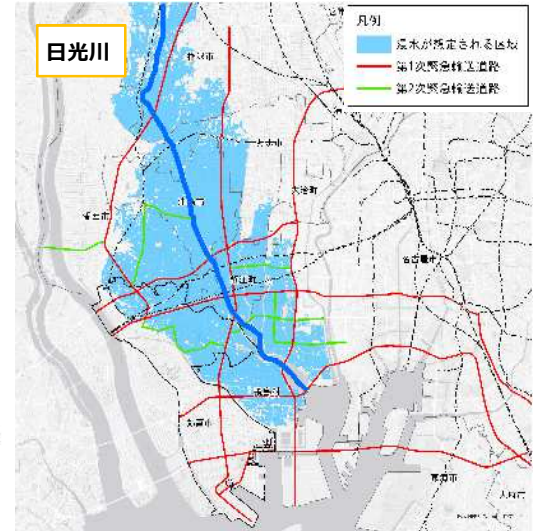
■洪水浸水深（日光川-計画規模）



出典：愛知県 日光川洪水浸水想定区域図（R1.8.30公表）

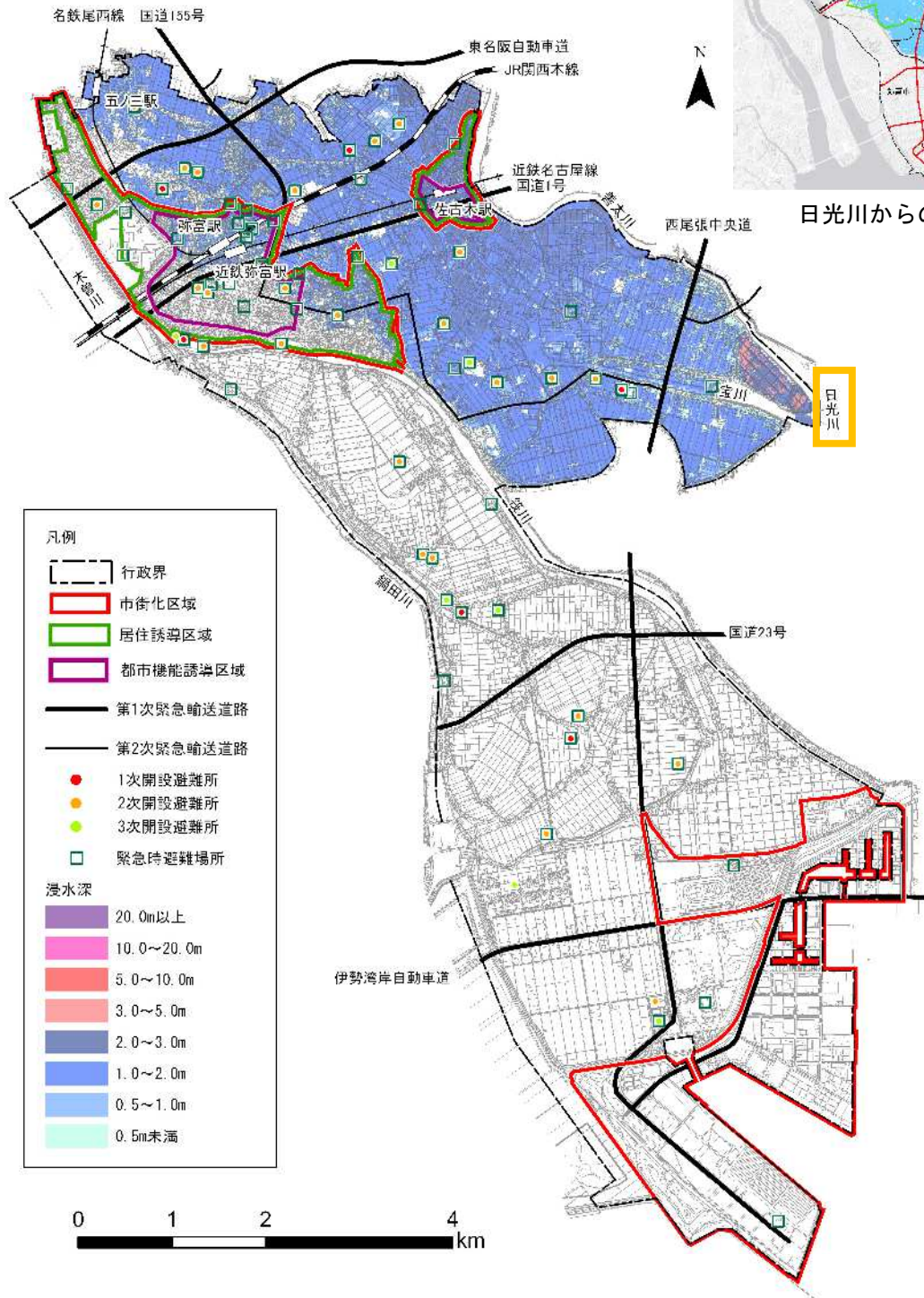
## ②想定最大規模

日光川の洪水浸水想定区域（想定最大規模）は、市北部に広がっており、床上浸水が想定される浸水深0.5m以上の区域が広範囲で見られます。また、市東部の一部では垂直避難が困難になる浸水深3.0m以上の区域が見られます。



日光川からの浸水想定（広域）

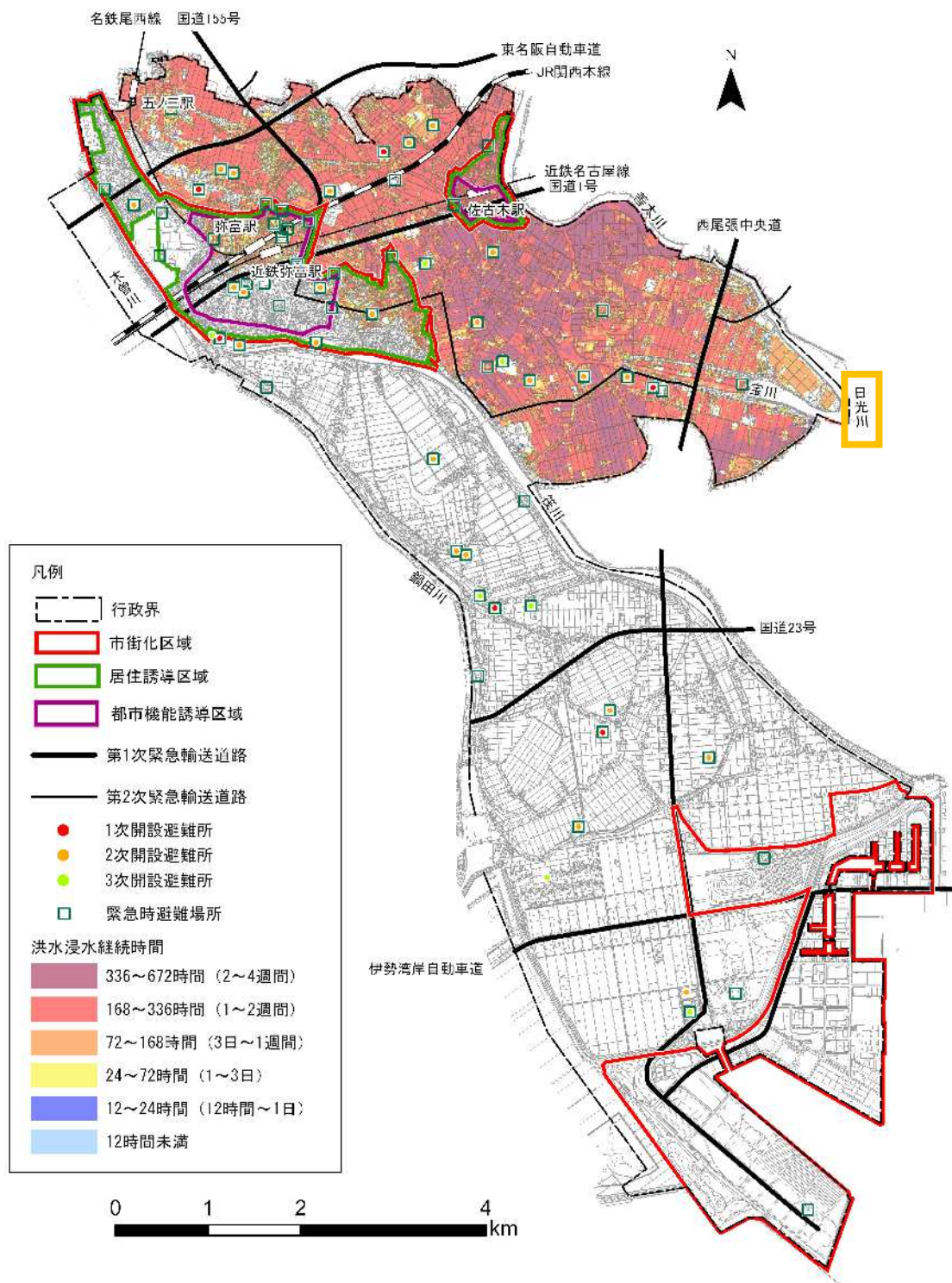
### ■洪水浸水深（日光川-想定最大規模）



出典：愛知県 日光川洪水浸水想定区域図（R1.8.30公表）

日光川の浸水継続時間をみると、健康障害の発生や生命の危機が生じる恐れがある 3 日以上の浸水が市北部の広範囲で見られ、特に国道 1 号の南側の市街化調整区域では 336～672 時間（2～4 週間）と長期の浸水が想定されています。また、北部の市街化区域でも 168～336 時間（1～2 週間）がみられるなど、長期の浸水が想定されています。

■洪水浸水継続時間（日光川-想定最大規模）

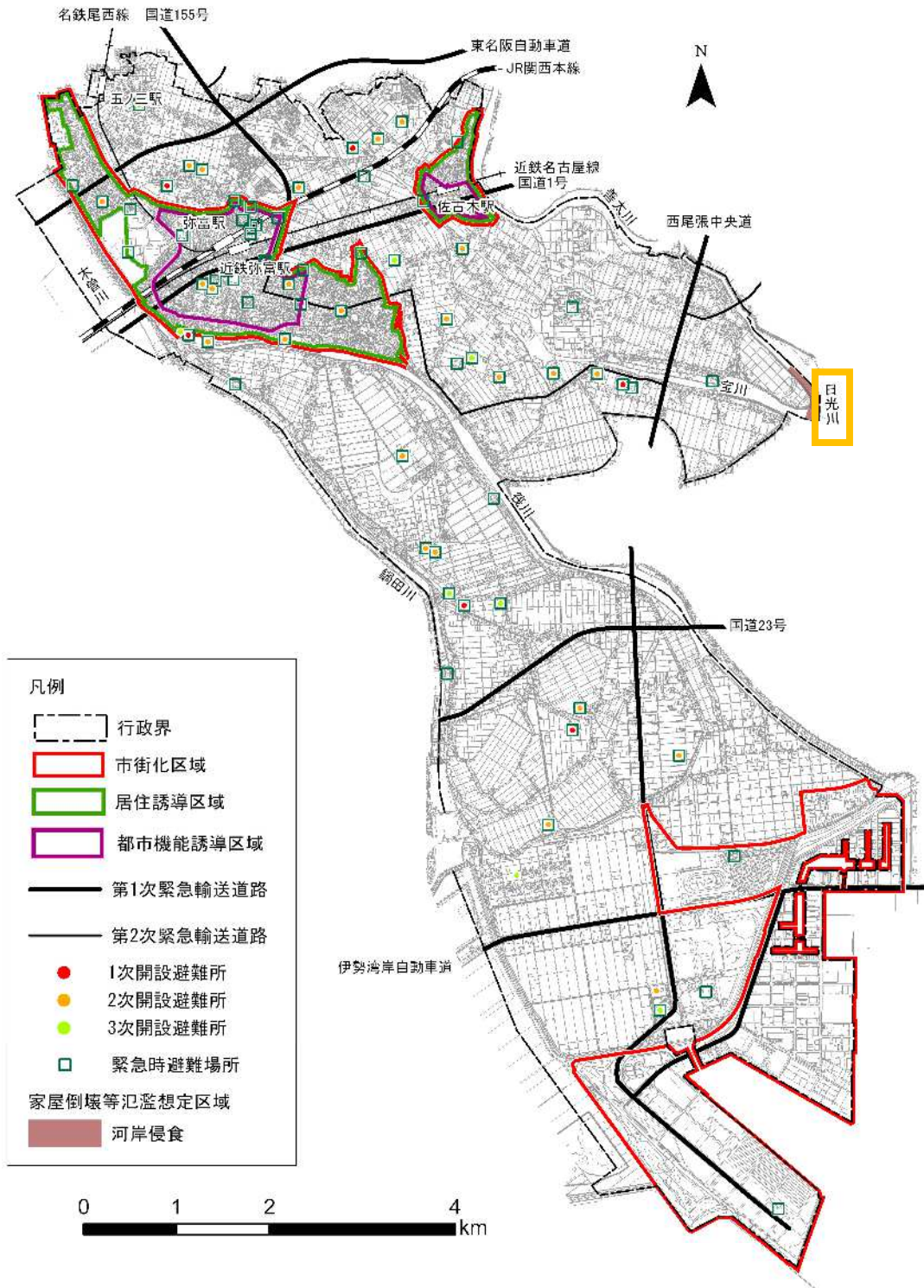


出典：愛知県 日光川洪水浸水想定区域図（R1.8.30 公表）



日光川の家屋倒壊等氾濫想定区域（河岸侵食）は、市東部の一部にみられます。

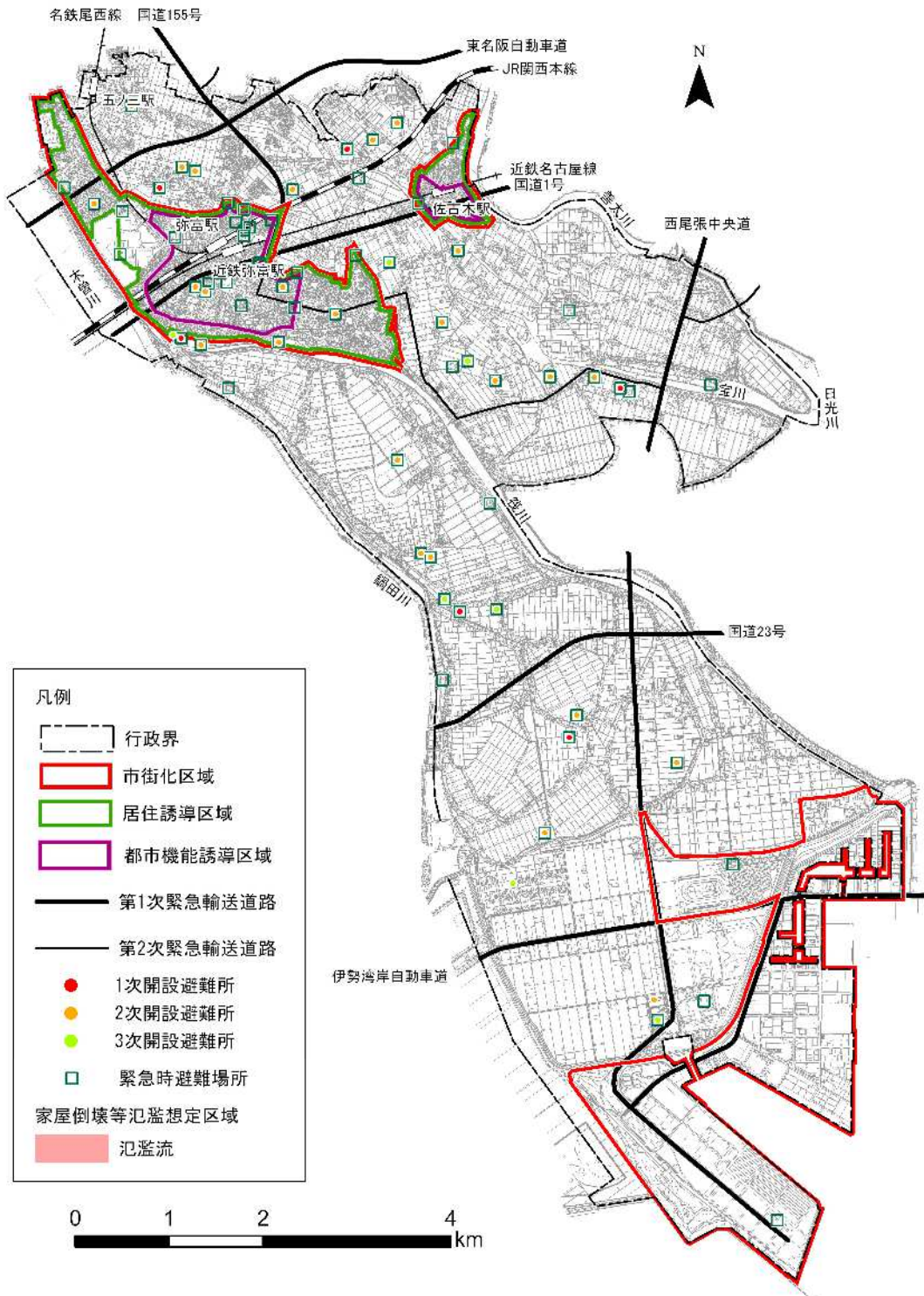
■家屋倒壊等氾濫想定区域（河岸侵食-日光川-想定最大規模）



出典：愛知県 日光川洪水浸水想定区域図（R1.8.30 公表）

日光川の家屋倒壊等氾濫想定区域（氾濫流）の発生は想定されていません。

■家屋倒壊等氾濫想定区域（氾濫流-日光川-想定最大規模）



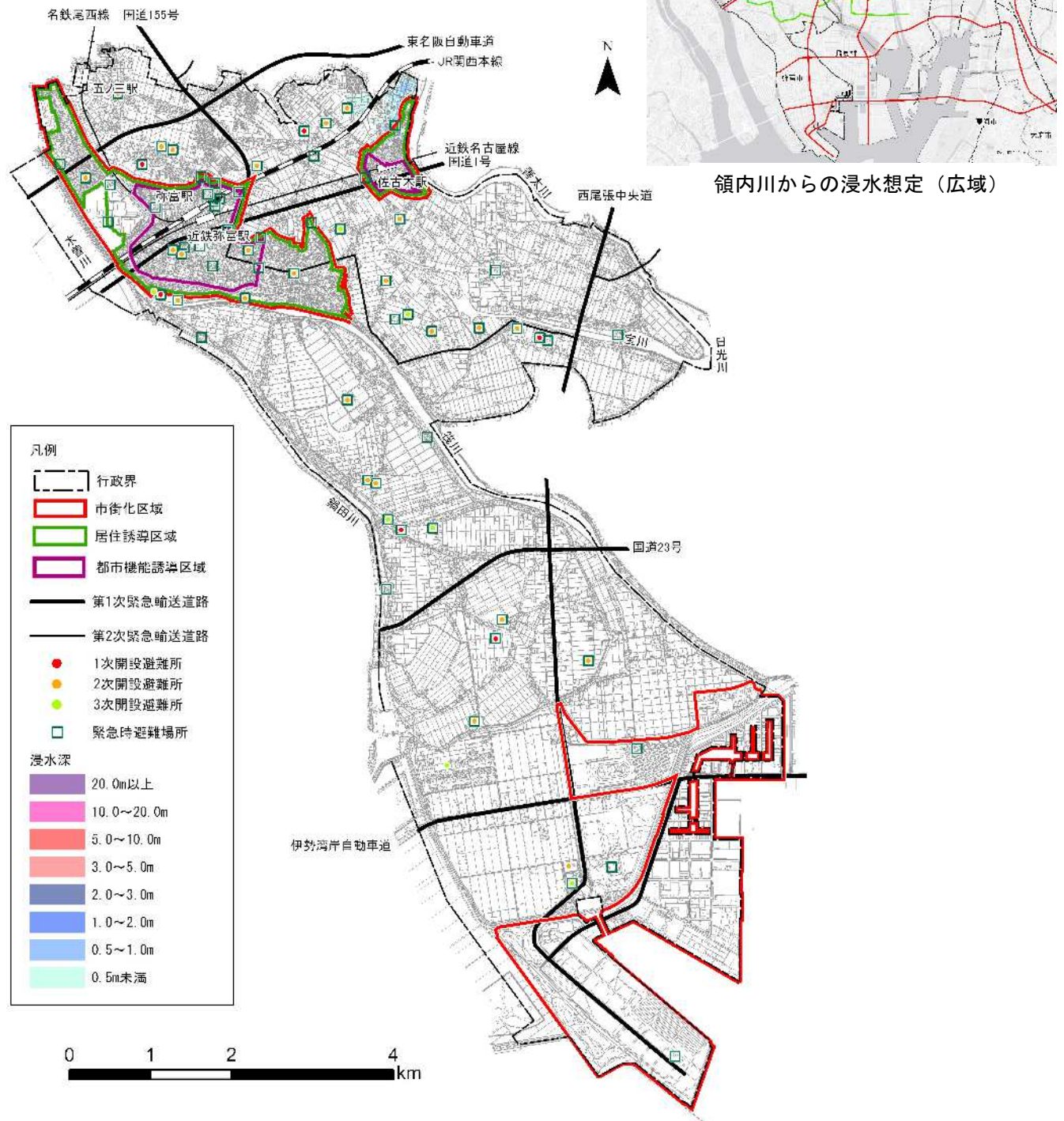
出典：愛知県 日光川洪水浸水想定区域図（R1.8.30公表）

## (ウ) 領内川

### ① 計画規模

領内川の洪水浸水想定区域（計画規模）は、市北東部の一部にみられます。

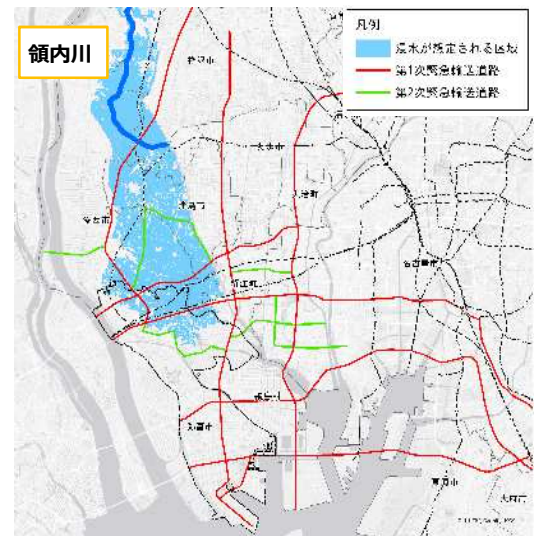
### ■ 洪水浸水深（領内川-計画規模）



出典：愛知県 領内川洪水浸水想定区域図（R1.8.30 公表）

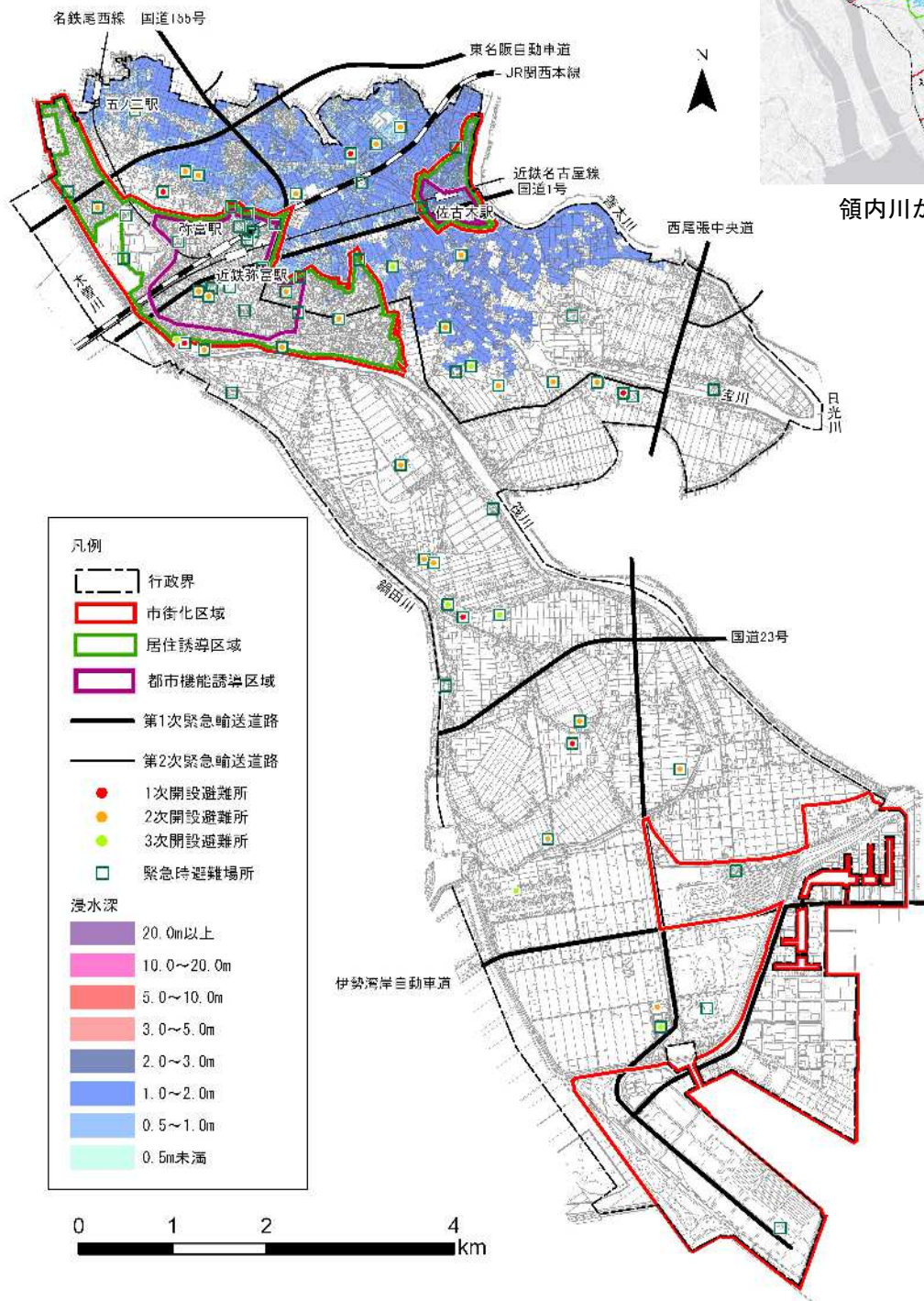
## ②想定最大規模

領内川の洪水浸水想定区域（想定最大規模）は、市北部に広がっています。また、床上浸水が想定される浸水深0.5m以上の区域が広範囲で見られます。



領内川からの浸水想定（広域）

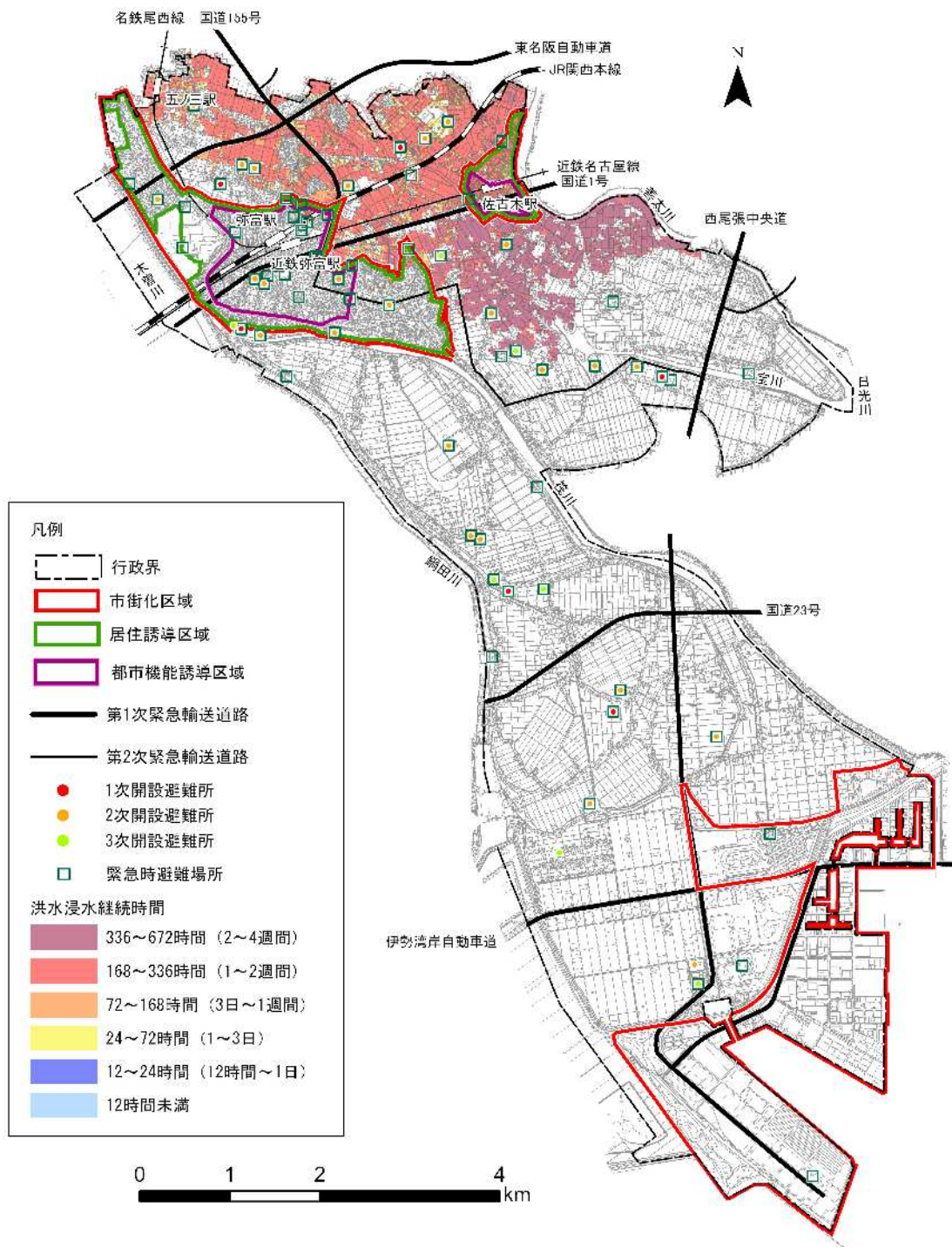
### ■洪水浸水深（領内川-想定最大規模）



出典：愛知県 領内川洪水浸水想定区域図（R1.8.30公表）

領内川の浸水継続時間をみると、健康障害の発生や生命の危機が生じる恐れがある 3 日以上の浸水が市北部の広範囲で見られ、特に国道 1 号の南側の市街化調整区域では 336～672 時間（2～4 週間）と長期の浸水が想定されています。また、北部の市街化区域でも 168～336 時間（1～2 週間）がみられるなど、長期の浸水が想定されています。

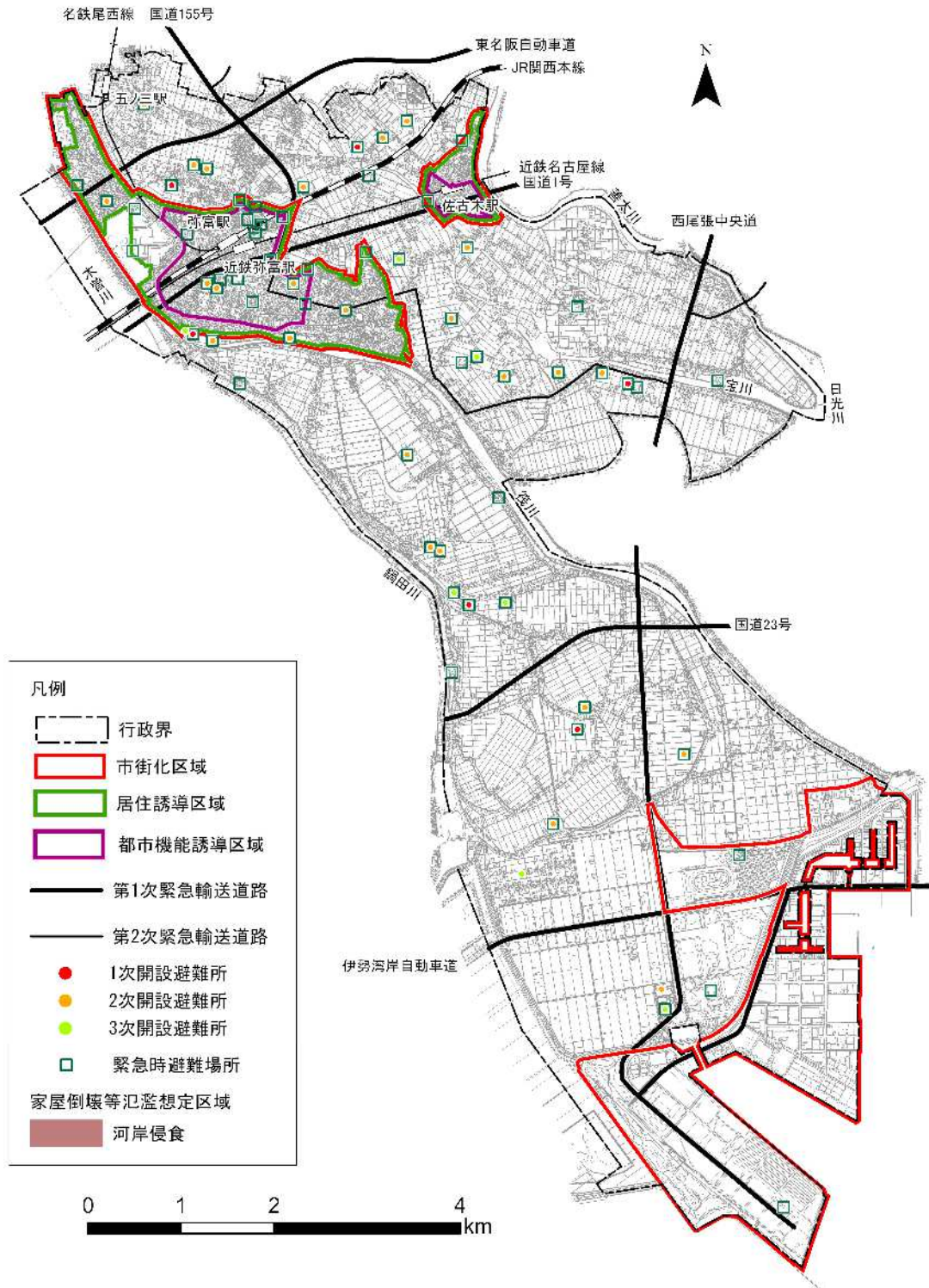
■洪水浸水継続時間（領内川-想定最大規模）



出典：愛知県 領内川洪水浸水想定区域図（R1.8.30 公表）

領内川の家屋倒壊等氾濫想定区域（河岸侵食）は、本市ではみられません。

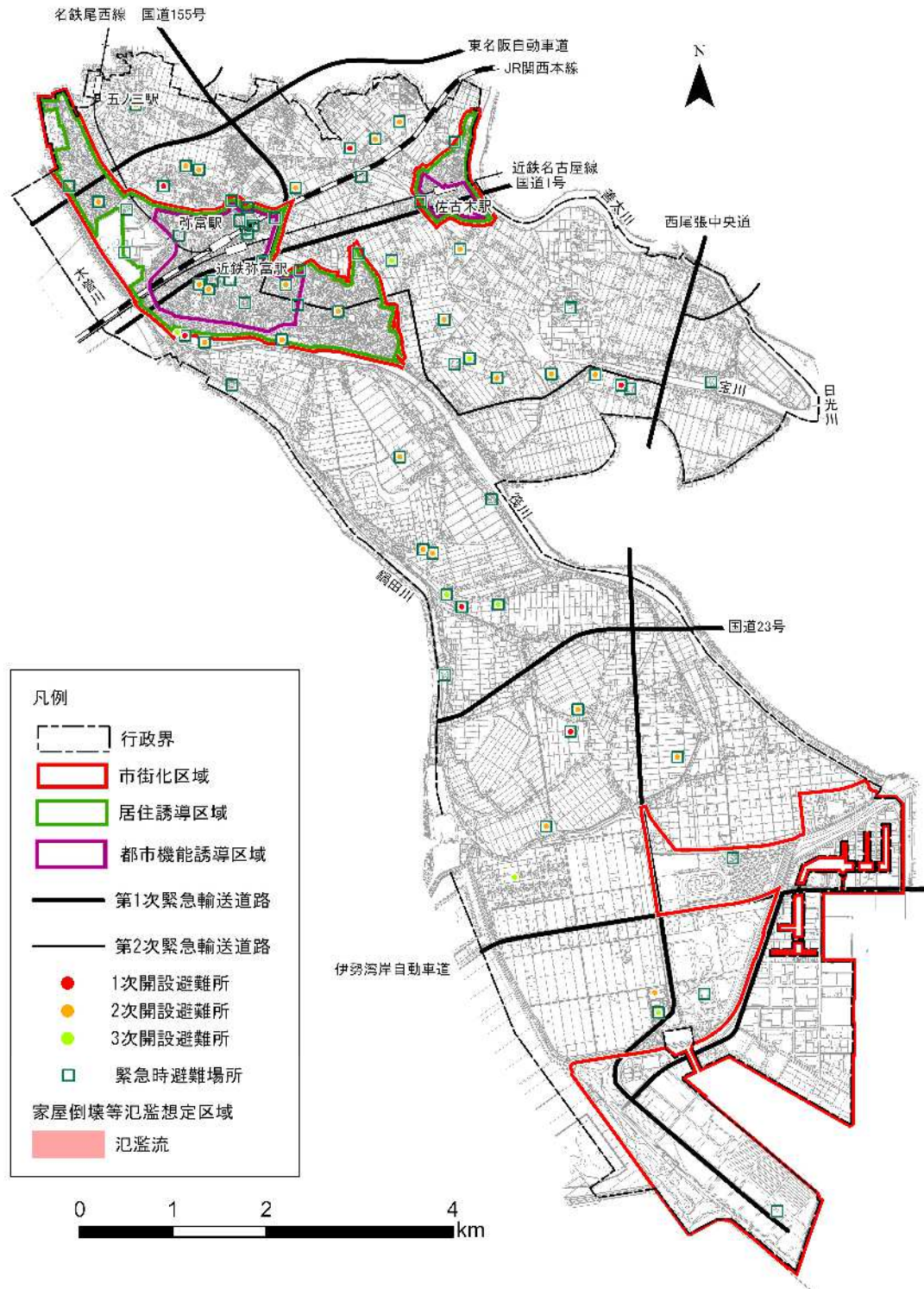
■家屋倒壊等氾濫想定区域（河岸侵食-領内川-想定最大規模）



出典：愛知県 領内川洪水浸水想定区域図（R1.8.30公表）

領内川の家屋倒壊等氾濫想定区域（氾濫流）の発生は想定されていません。

■家屋倒壊等氾濫想定区域（氾濫流-領内川-想定最大規模）



出典：愛知県 領内川洪水浸水想定区域図（R1.8.30公表）

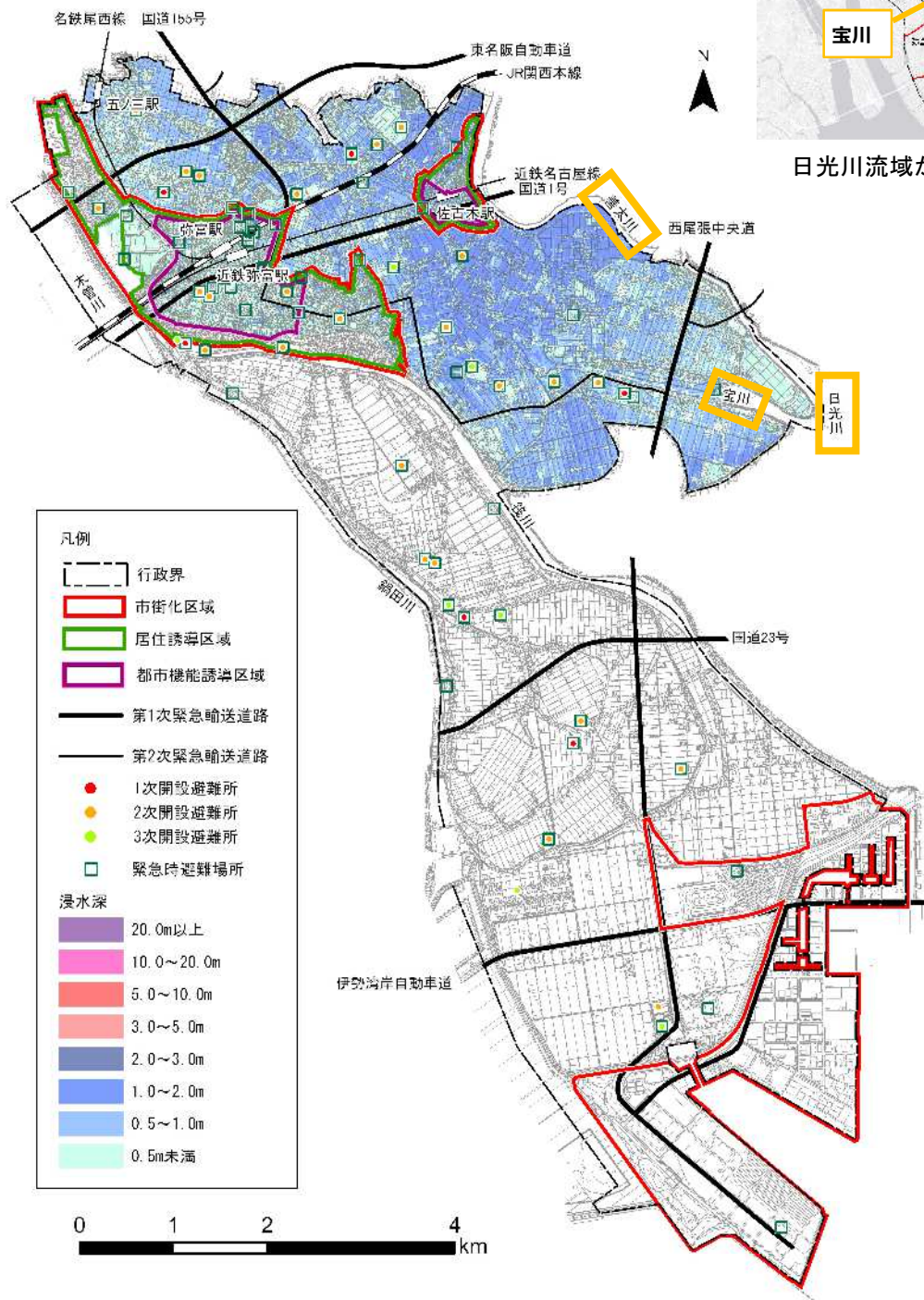
## 2) 洪水浸水予想図

### (ア) 日光川流域

#### ① 計画規模

日光川流域の洪水浸水予想図（計画規模）における浸水範囲は、市北部に広がっています。また、床上浸水が想定される浸水深0.5m以上の区域が広範囲で見られます。

#### ■ 洪水浸水深（日光川流域-計画規模）



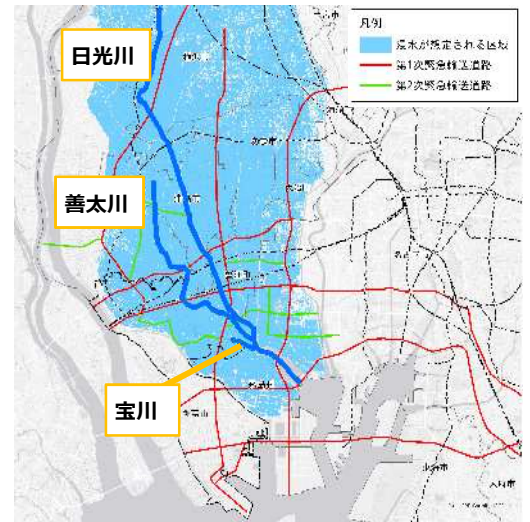
日光川流域からの浸水想定（広域）

出典：愛知県 日光川流域洪水浸水予想図（R1.8.30公表）



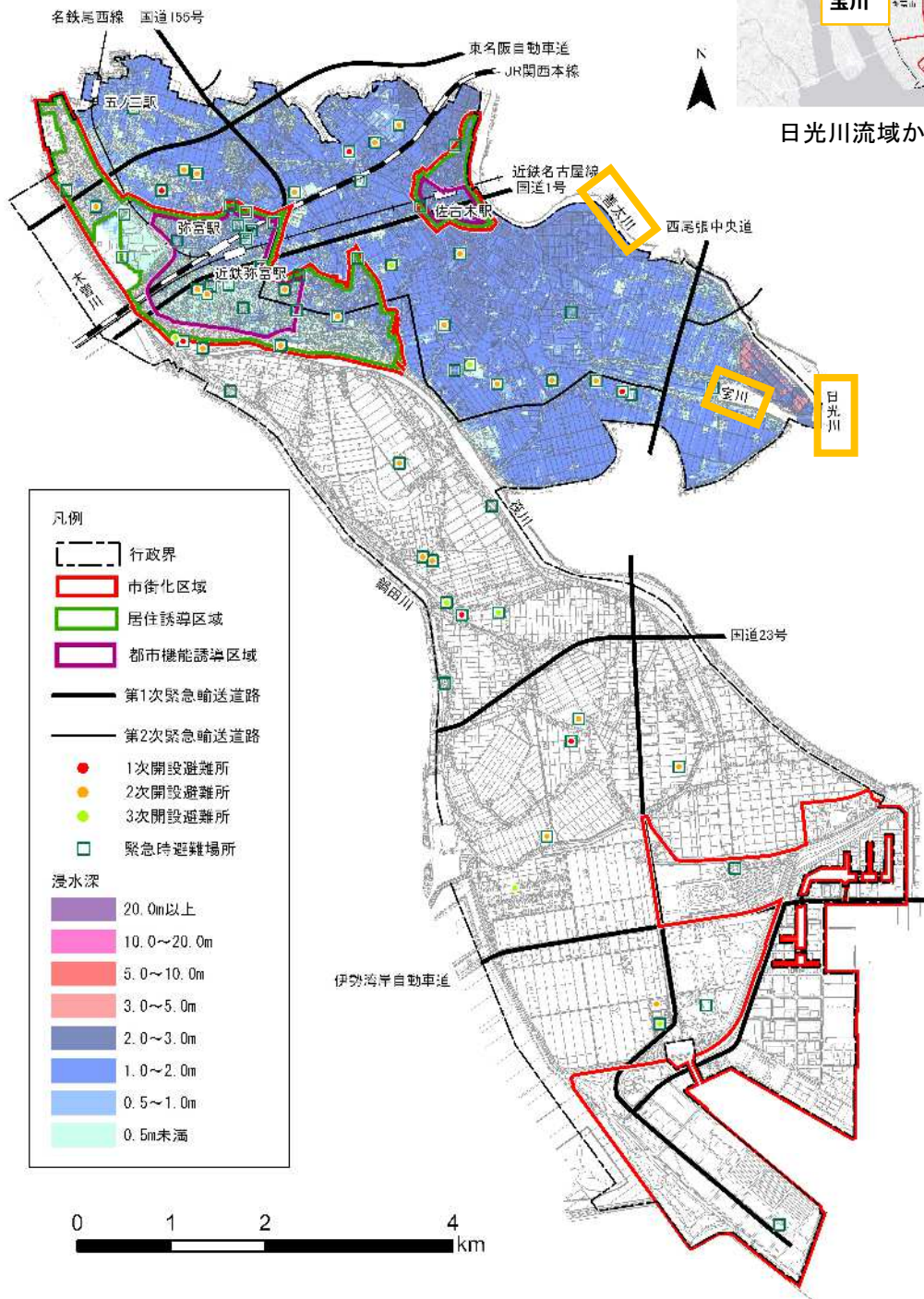
## ②想定最大規模

日光川流域の洪水浸水予想図（想定最大規模）における浸水範囲は、市北部に広がっており、床上浸水が想定される浸水深0.5m以上の区域が広範囲で見られます。また、西尾張中央道より東側の一部では垂直避難が困難になる浸水深3.0m以上の区域がみられます。



日光川流域からの浸水想定（広域）

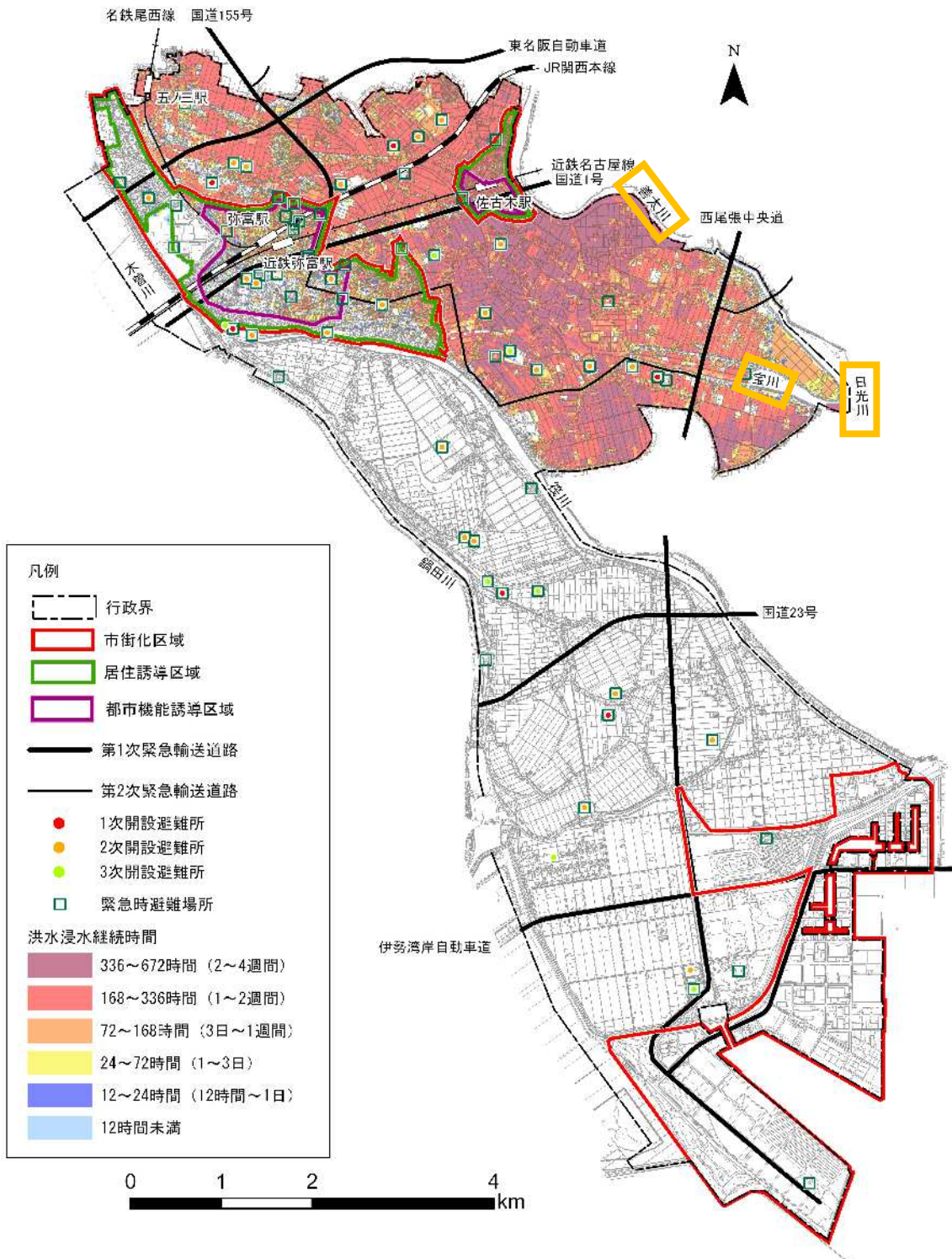
### ■洪水浸水深（日光川流域-想定最大規模）



出典：愛知県 日光川流域洪水浸水予想図（R1.8.30公表）

日光川流域の浸水継続時間をみると、健康障害の発生や生命の危機が生じる恐れがある 3 日以上（336～672 時間）の浸水が市北部の広範囲で見られ、特に国道 1 号の南側の市街化調整区域では 336～672 時間（2～4 週間）と長期の浸水が想定されています。また、北部の市街化区域でも 168～336 時間（1～2 週間）が見られるなど、長期の浸水が想定されています。

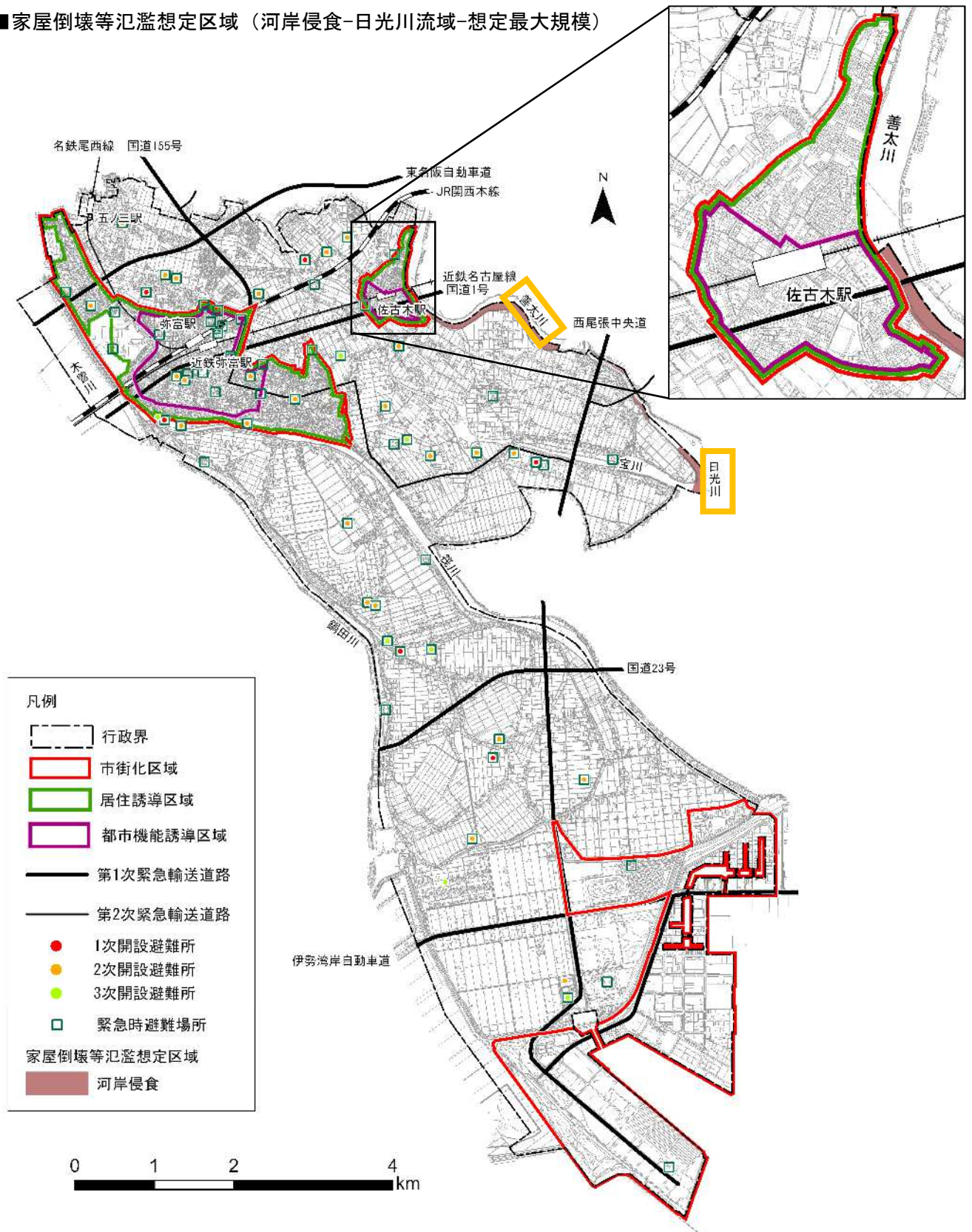
■洪水浸水継続時間（日光川流域-想定最大規模）



出典：愛知県 日光川流域洪水浸水予想図（R1.8.30 公表）

日光川流域の家屋倒壊等氾濫想定区域（河岸侵食）は、市北東部の善太川沿いでみられます。

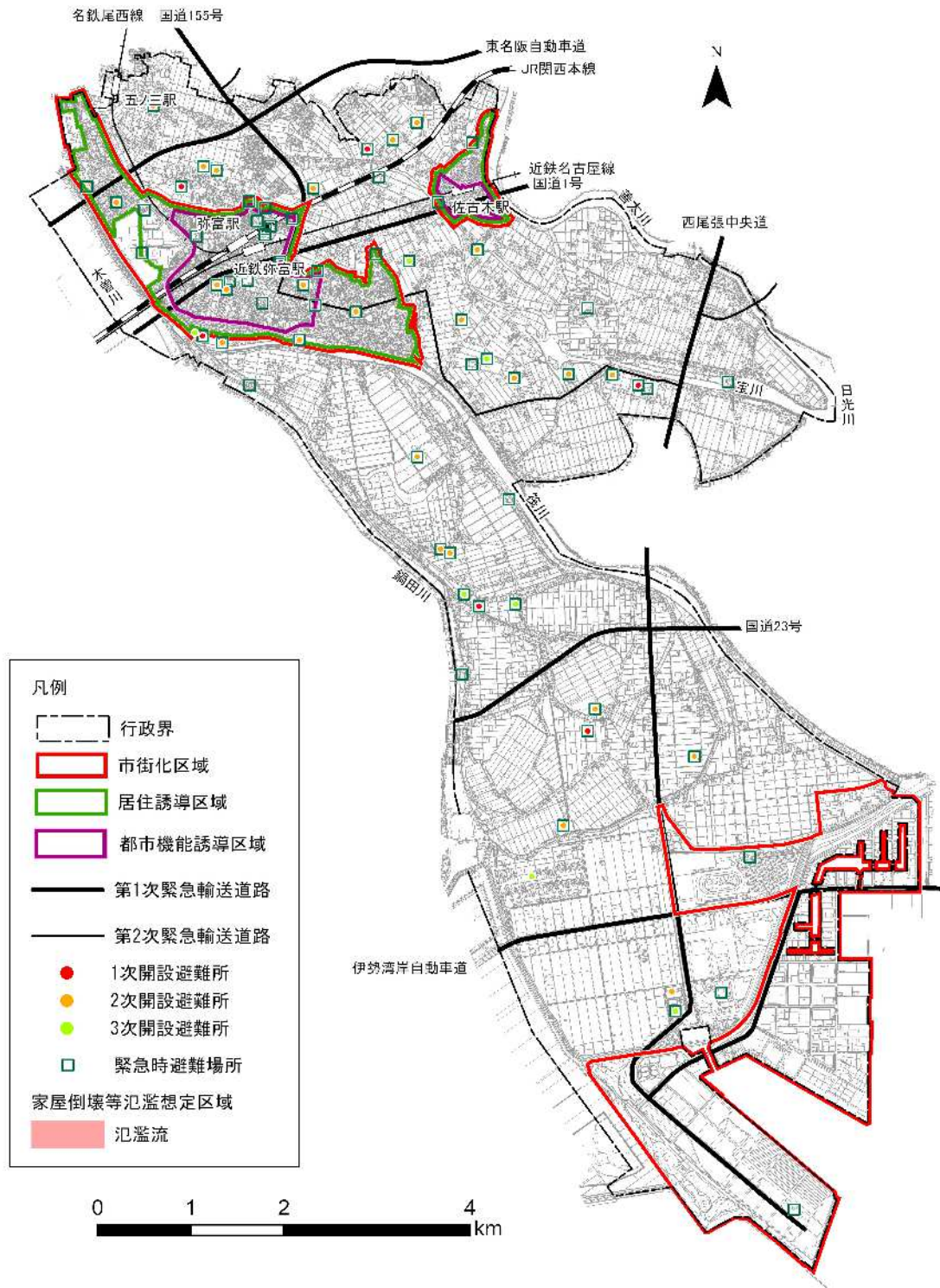
■家屋倒壊等氾濫想定区域（河岸侵食-日光川流域-想定最大規模）



出典：愛知県 日光川流域洪水浸水予想図（R1.8.30公表）

日光川流域の家屋倒壊等氾濫想定区域（氾濫流）の発生は想定されていません。

■家屋倒壊等氾濫想定区域（氾濫流-日光川流域-想定最大規模）



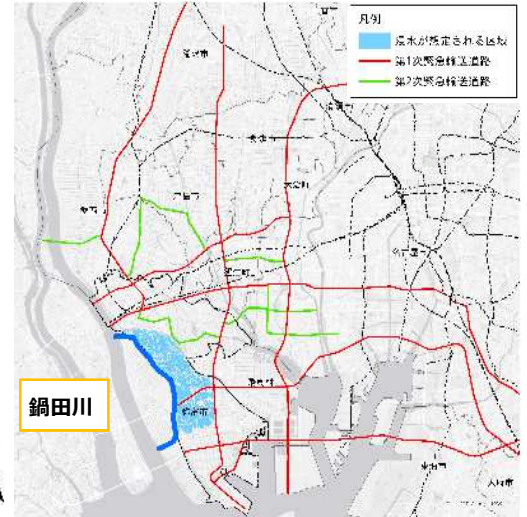
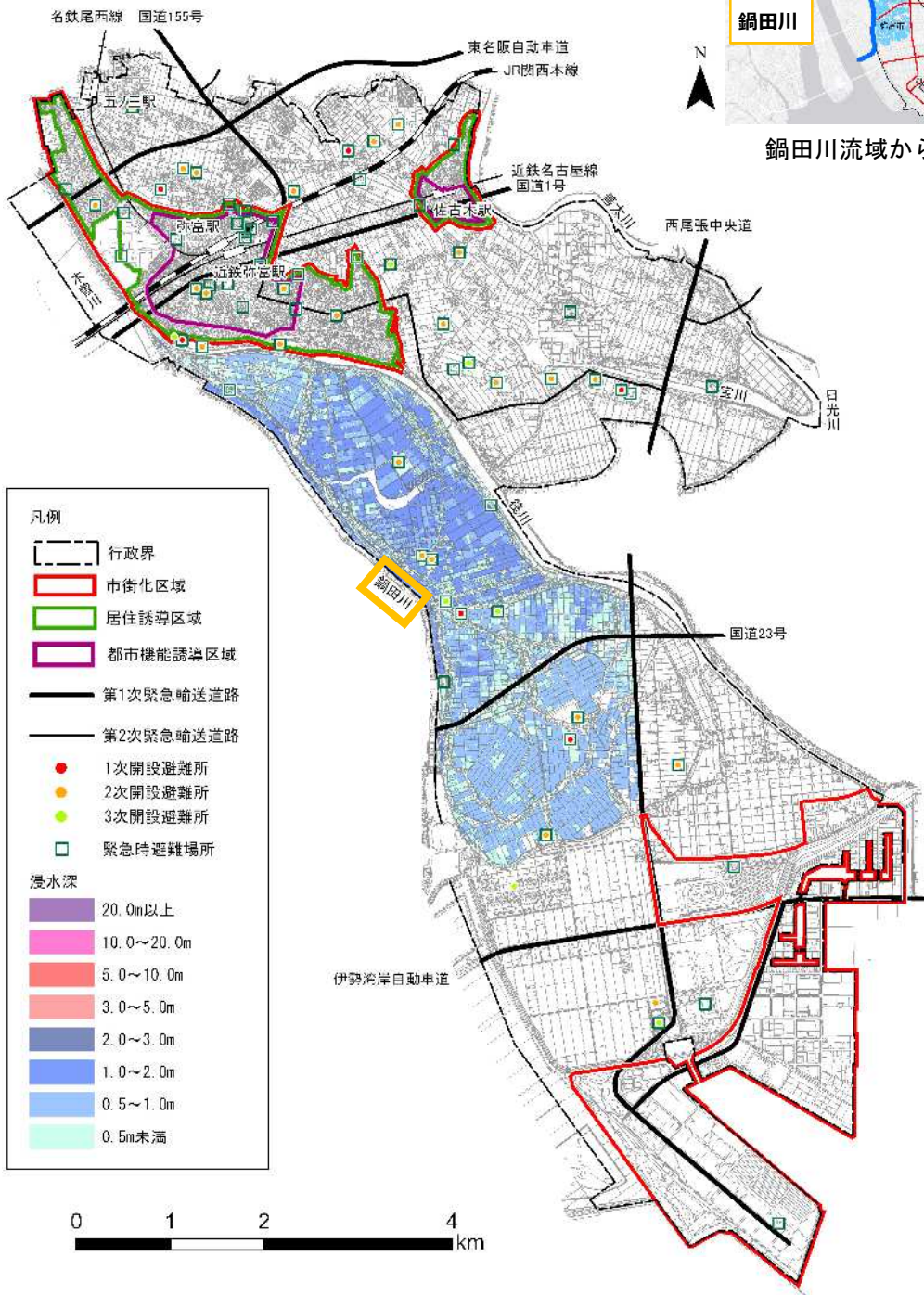
出典：愛知県 日光川流域洪水浸水予想図（R1.8.30公表）

(イ) 鍋田川流域

① 計画規模

鍋田川流域の洪水浸水予想図（計画規模）における浸水範囲は、市中部に広がっています。また、床上浸水が想定される浸水深0.5m以上の区域がみられます。

■ 洪水浸水深（鍋田川流域-計画規模）



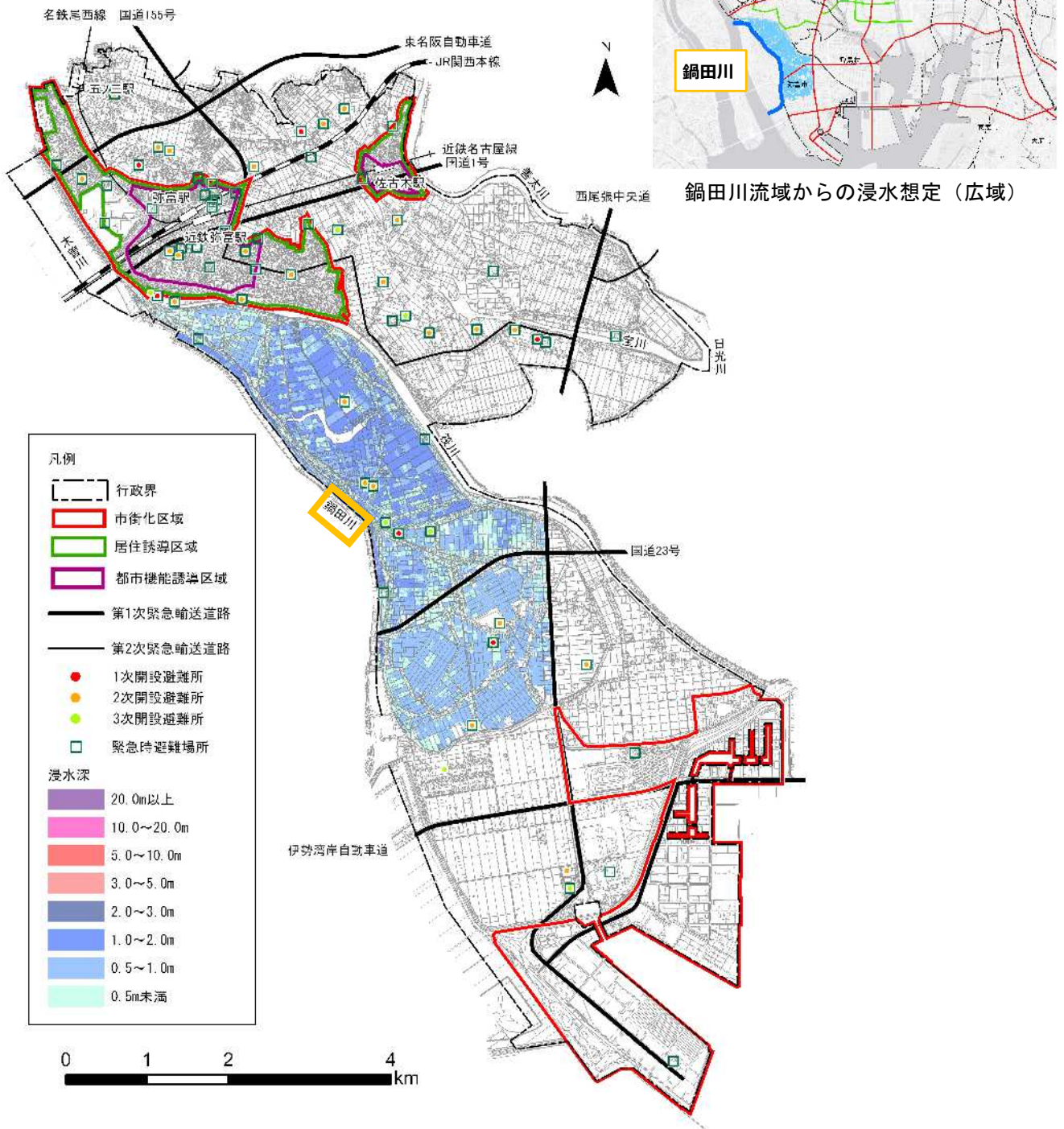
鍋田川流域からの浸水想定（広域）

出典：愛知県 鍋田川流域洪水浸水予想図（R4.3.25 公表）

## ②想定最大規模

鍋田川流域の洪水浸水予想図（想定最大規模）における浸水範囲は、市中部に広がっています。また、床上浸水が想定される浸水深0.5m以上の区域が広範囲で見られます。

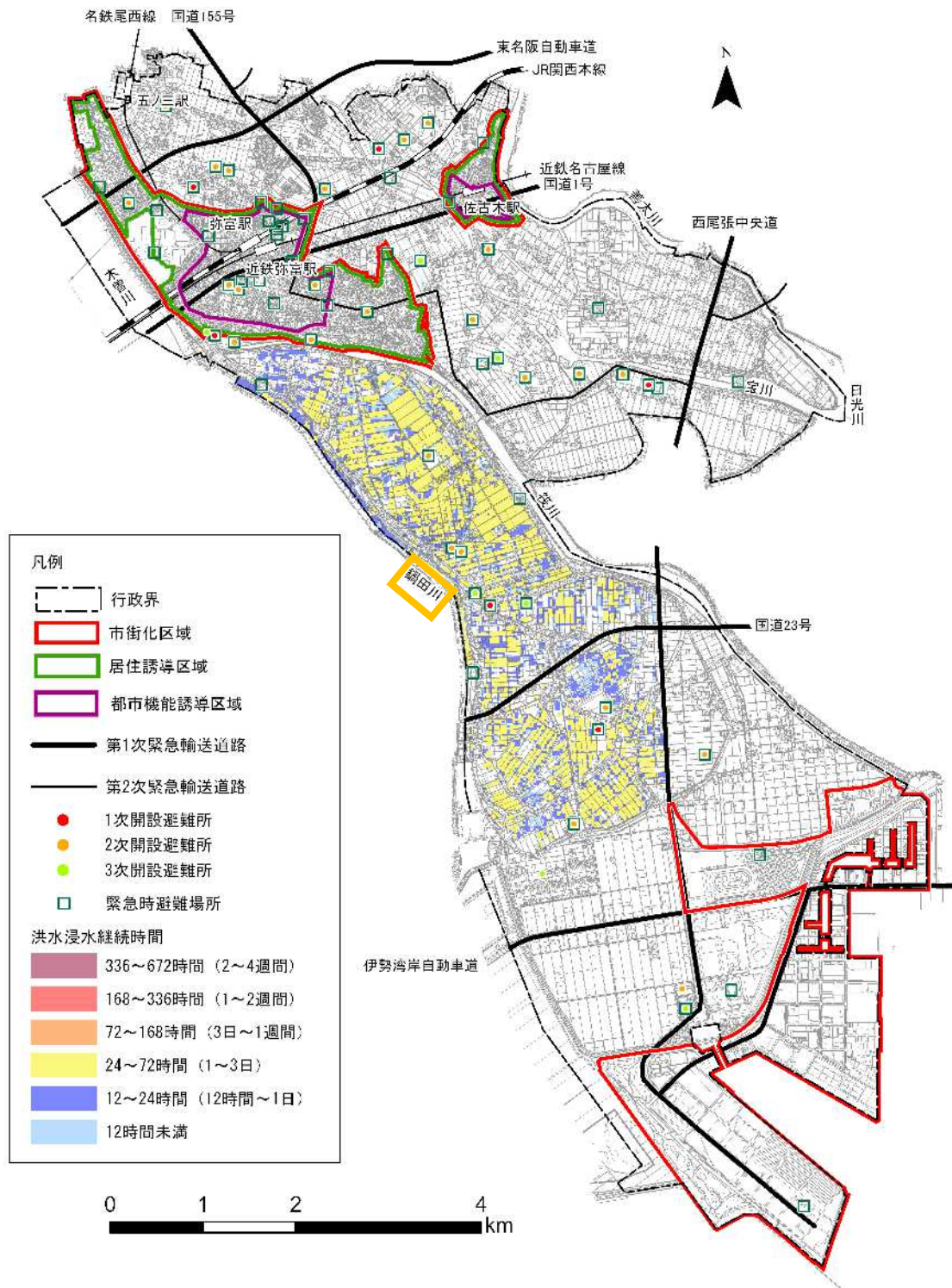
### ■洪水浸水深（鍋田川流域-想定最大規模）



出典：愛知県 鍋田川流域洪水浸水予想図（R4.3.25公表）

鍋田川流域の浸水継続時間をみると、市中部の広範囲で 24～72 時間（1～3 日）の浸水が想定されていますが、健康障害の発生や生命の危機が生じる恐れがある 3 日以上（72 時間以上）の浸水はみられません。

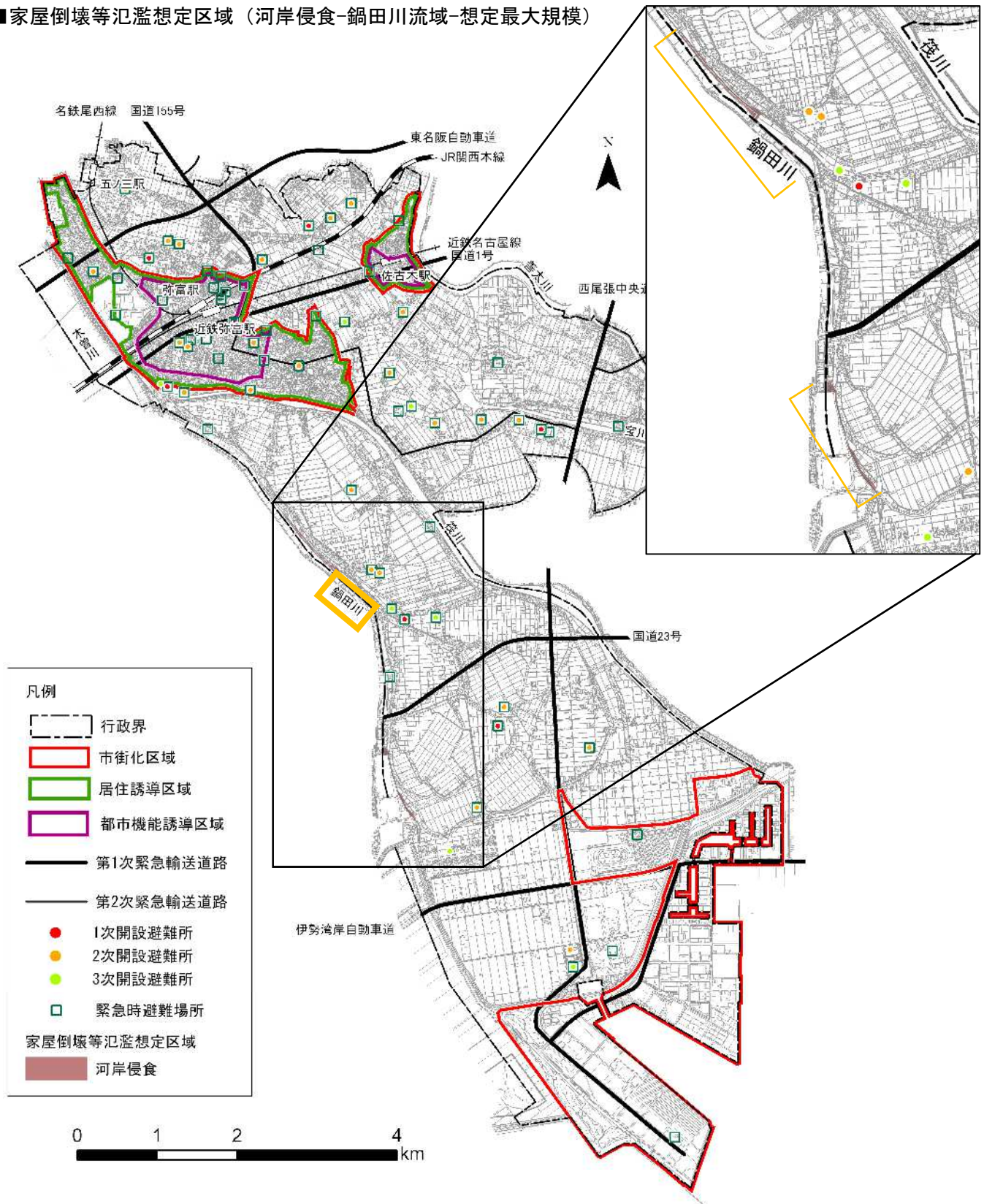
■洪水浸水継続時間（鍋田川流域-想定最大規模）



出典：愛知県 鍋田川流域洪水浸水予想図（R4.3.25公表）

鍋田川流域の家屋倒壊等氾濫想定区域（河岸侵食）は、市中部の鍋田川沿いにみられます。

■家屋倒壊等氾濫想定区域（河岸侵食-鍋田川流域-想定最大規模）

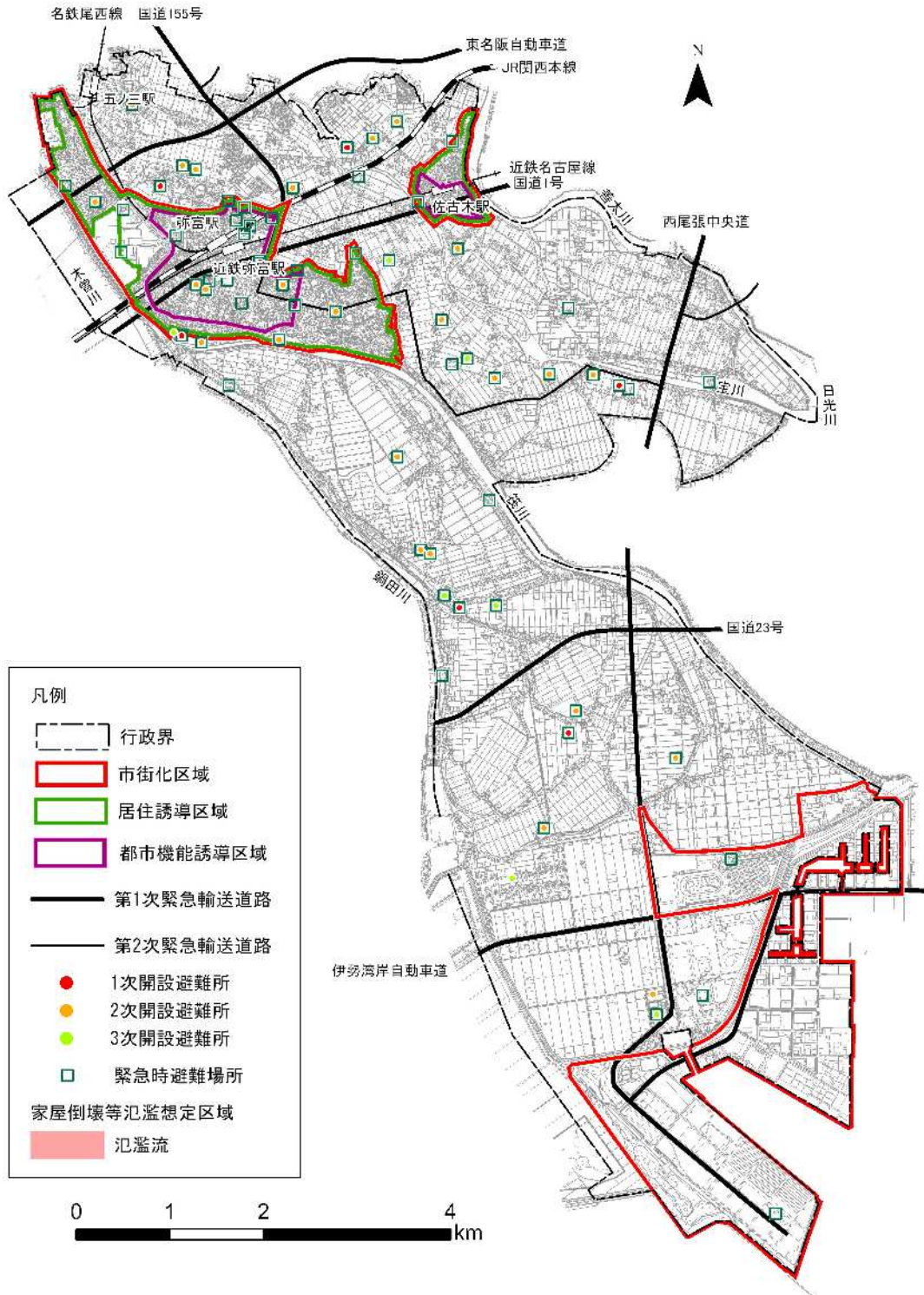


出典：愛知県 鍋田川流域洪水浸水予想図（R4.3.25公表）



鍋田川流域の家屋倒壊等氾濫想定区域（氾濫流）の発生は想定されていません。

■家屋倒壊等氾濫想定区域（氾濫流-鍋田川流域-想定最大規模）

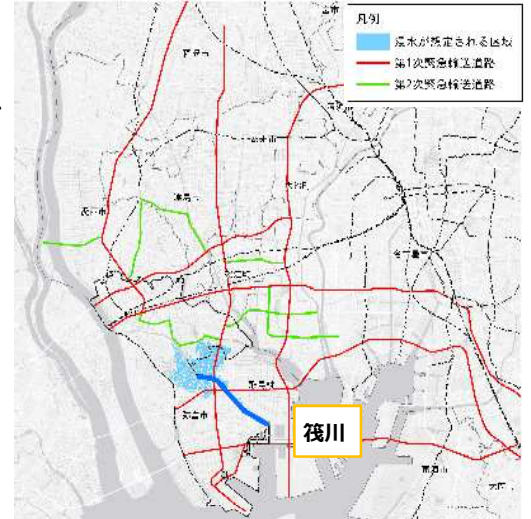


出典：愛知県 鍋田川流域洪水浸水予想図（R4.3.25 公表）

(ウ) 筏川流域

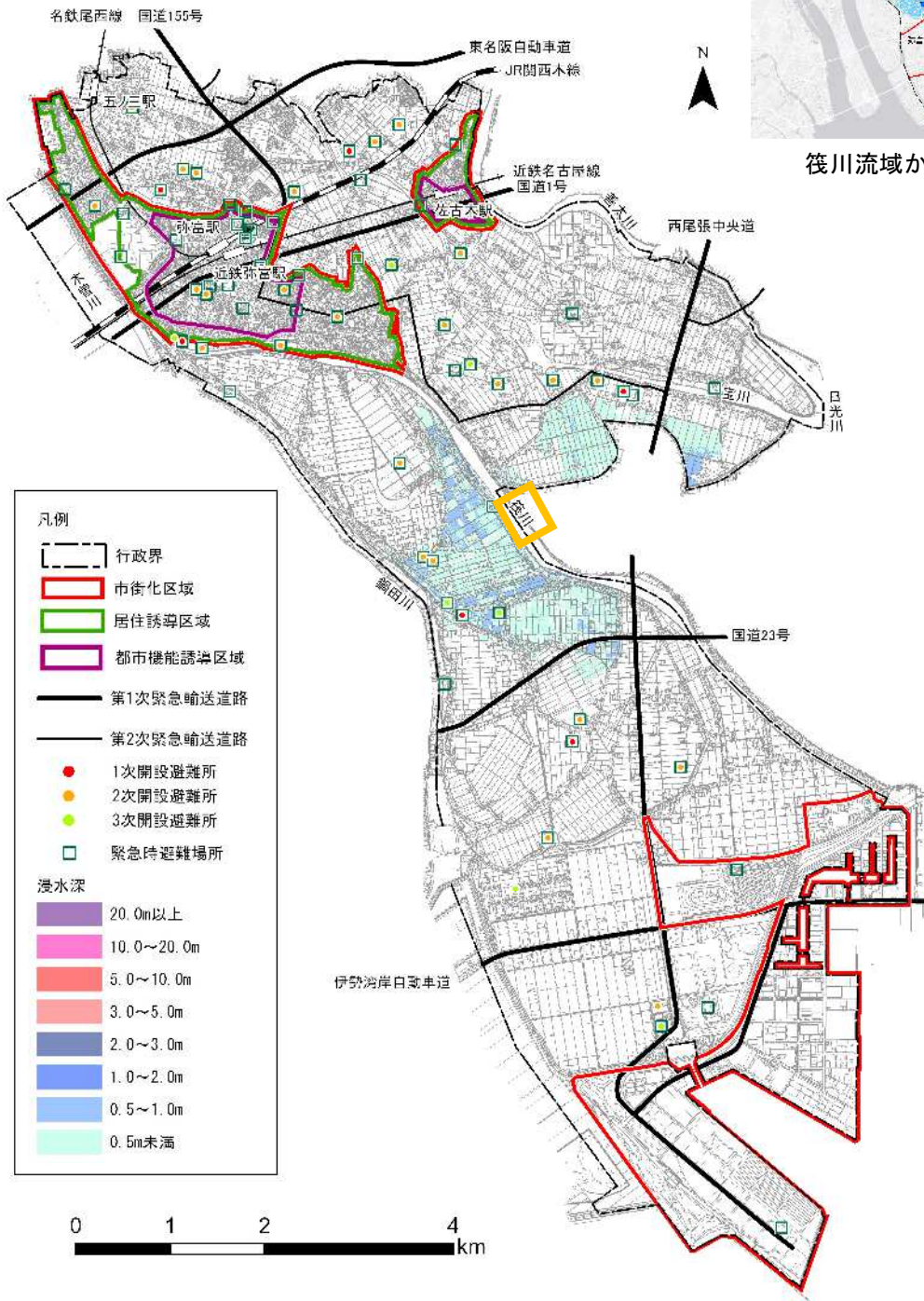
① 計画規模

筏川の洪水浸水予想図（計画規模）における浸水範囲は、国道23号より北側の市中部で見られます。また、床上浸水が想定される浸水深0.5m以上の区域が見られます。



筏川流域からの浸水想定（広域）

■ 洪水浸水深（筏川流域-計画規模）

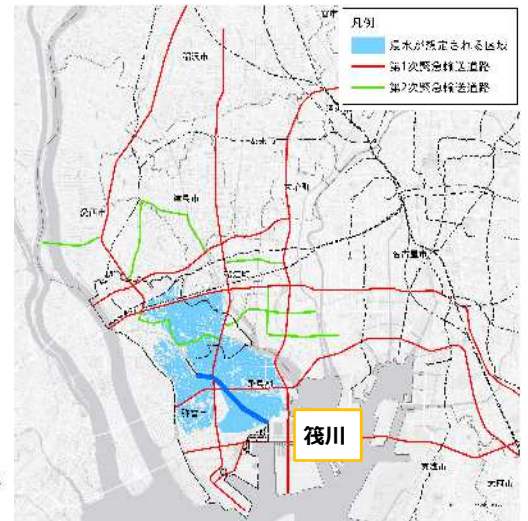
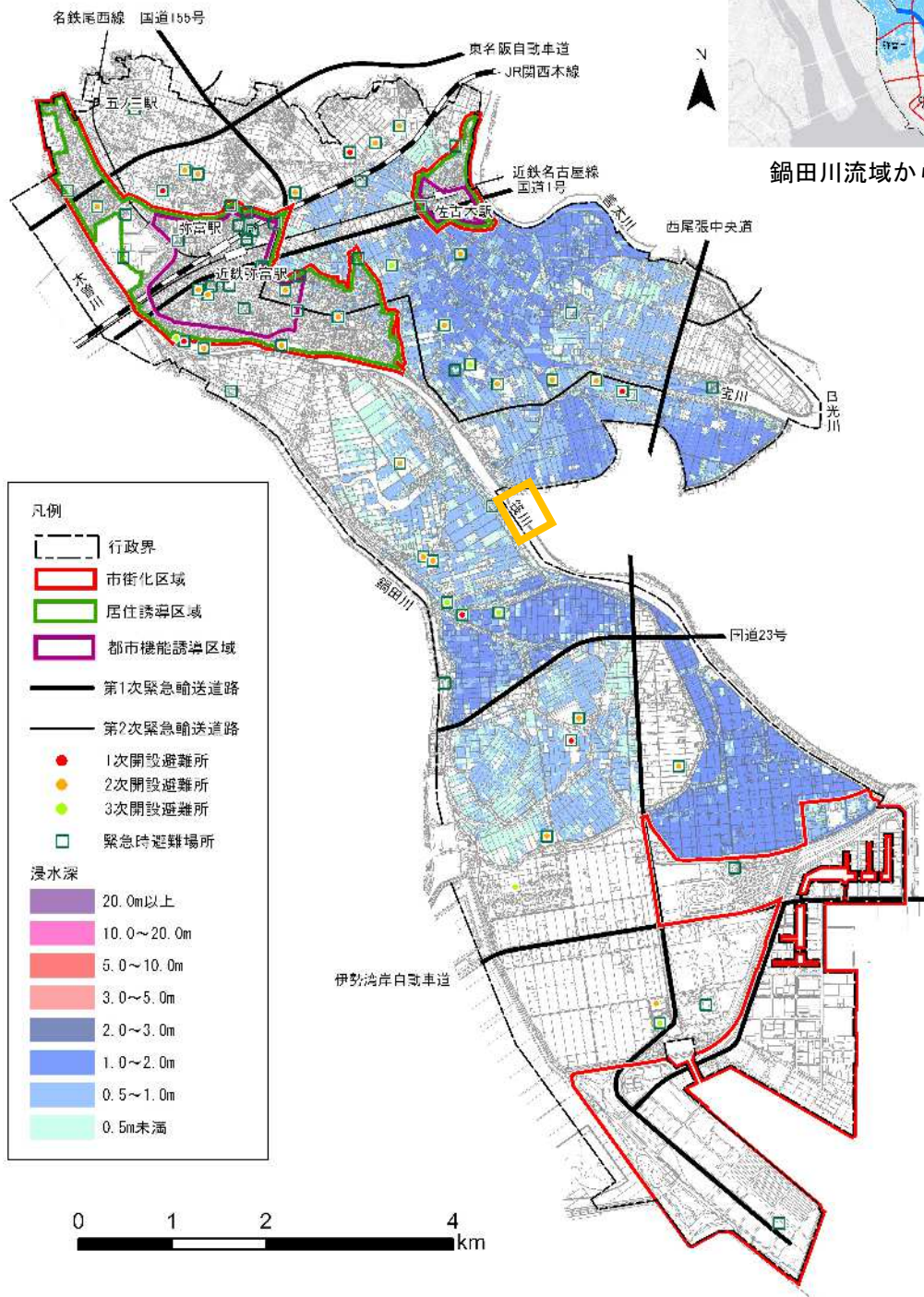


出典：愛知県 筏川流域洪水浸水予想図（R4.3.25公表）

## ②想定最大規模

筏川流域の洪水浸水予想図（想定最大規模）における浸水範囲は、JR 関西本線から伊勢湾岸自動車道にかけて広がっています。また、床上浸水が想定される浸水深0.5m以上の区域が広範囲で見られます。

### ■洪水浸水深（筏川流域-想定最大規模）

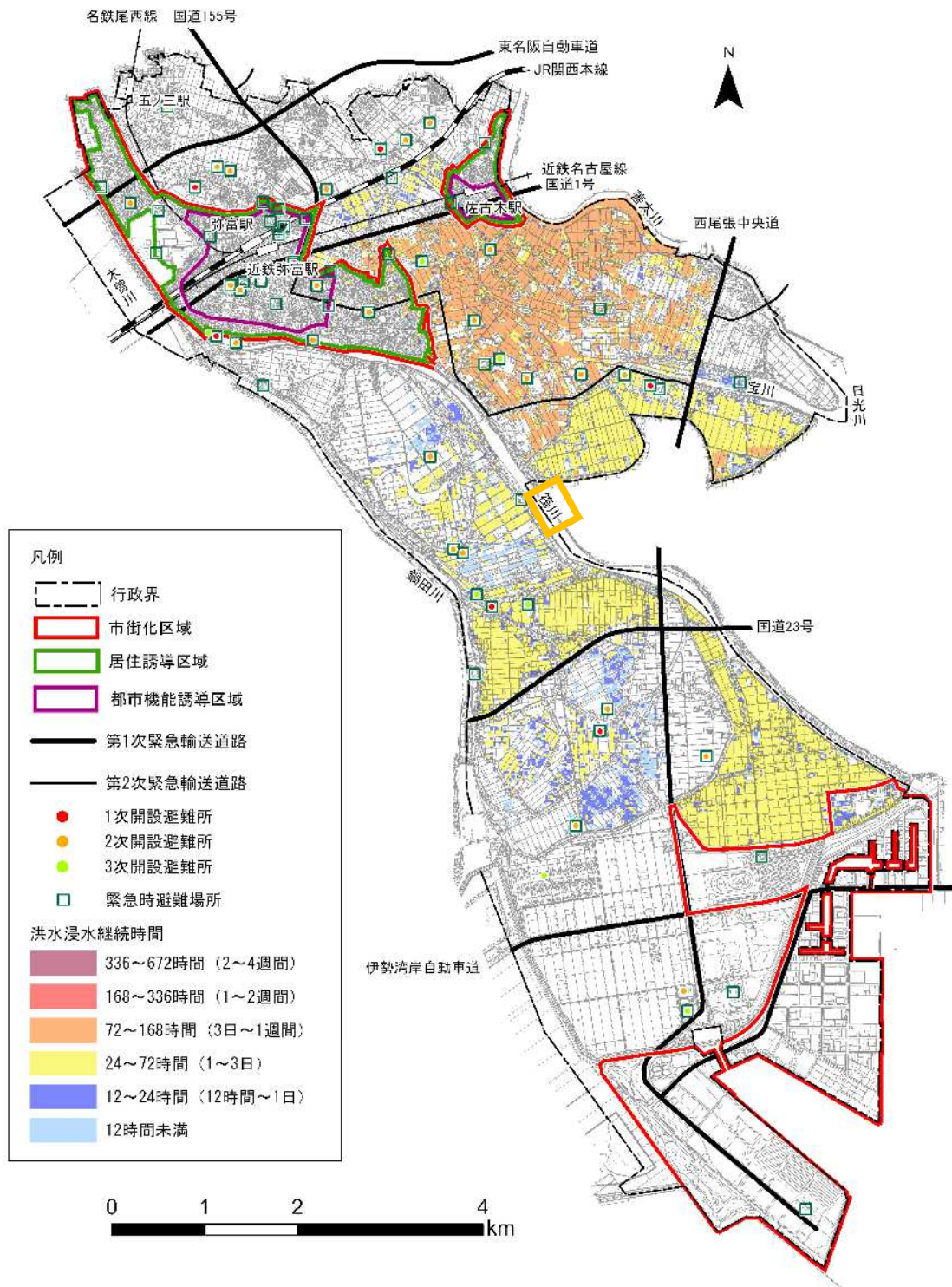


鍋田川流域からの浸水想定（広域）

出典：愛知県 筏川流域洪水浸水予想図（R4.3.25 公表）

筏川流域の浸水継続時間をみると、JR 関西本線から伊勢湾岸自動車道にかけての広範囲で24～72時間（1～3日）の浸水が想定されています。また、健康障害の発生や生命の危機が生じる恐れがある3日以上浸水が北部の市街化区域の一部や国道1号の南側の市街化調整区域で見られます。

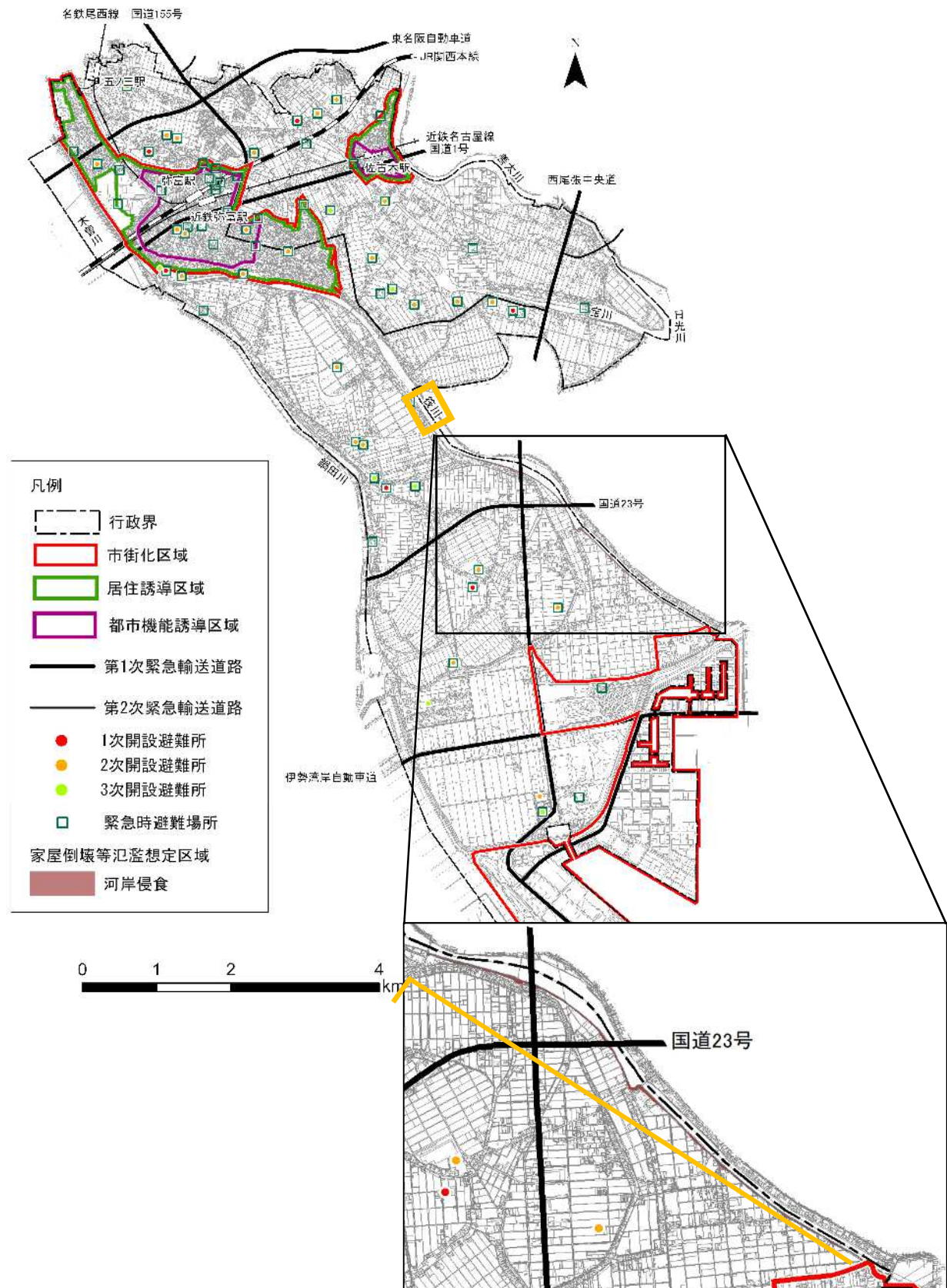
■洪水浸水継続時間（筏川流域-想定最大規模）



出典：愛知県 筏川流域洪水浸水予想図（R4.3.25公表）

筏川流域の家屋倒壊等氾濫想定区域（河岸侵食）は、筏川沿いの一部にみられます。

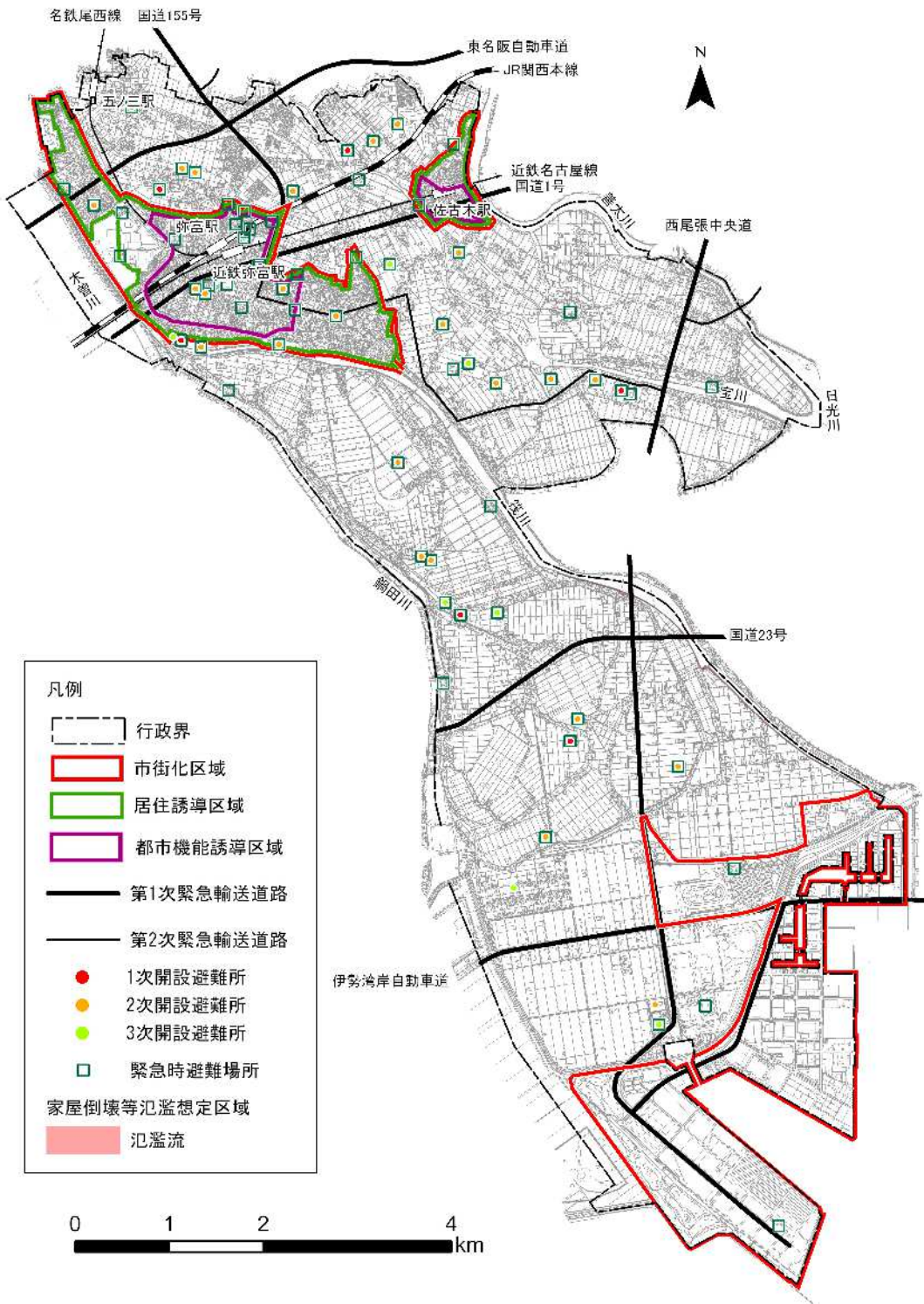
■家屋倒壊等氾濫想定区域（河岸侵食-筏川流域-想定最大規模）



出典：愛知県 筏川流域洪水浸水予想図（R4.3.25公表）

筏川流域の家屋倒壊等氾濫想定区域（氾濫流）の発生は想定されていません。

■家屋倒壊等氾濫想定区域（氾濫流-筏川流域-想定最大規模）



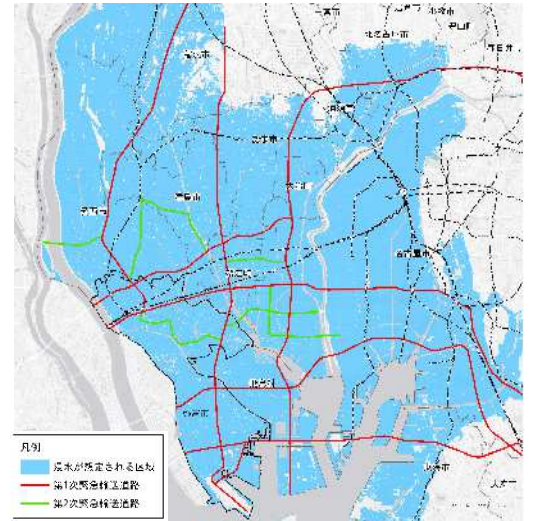
出典：愛知県 筏川流域洪水浸水予想図（R4.3.25公表）

### 3) 高潮浸水想定区域

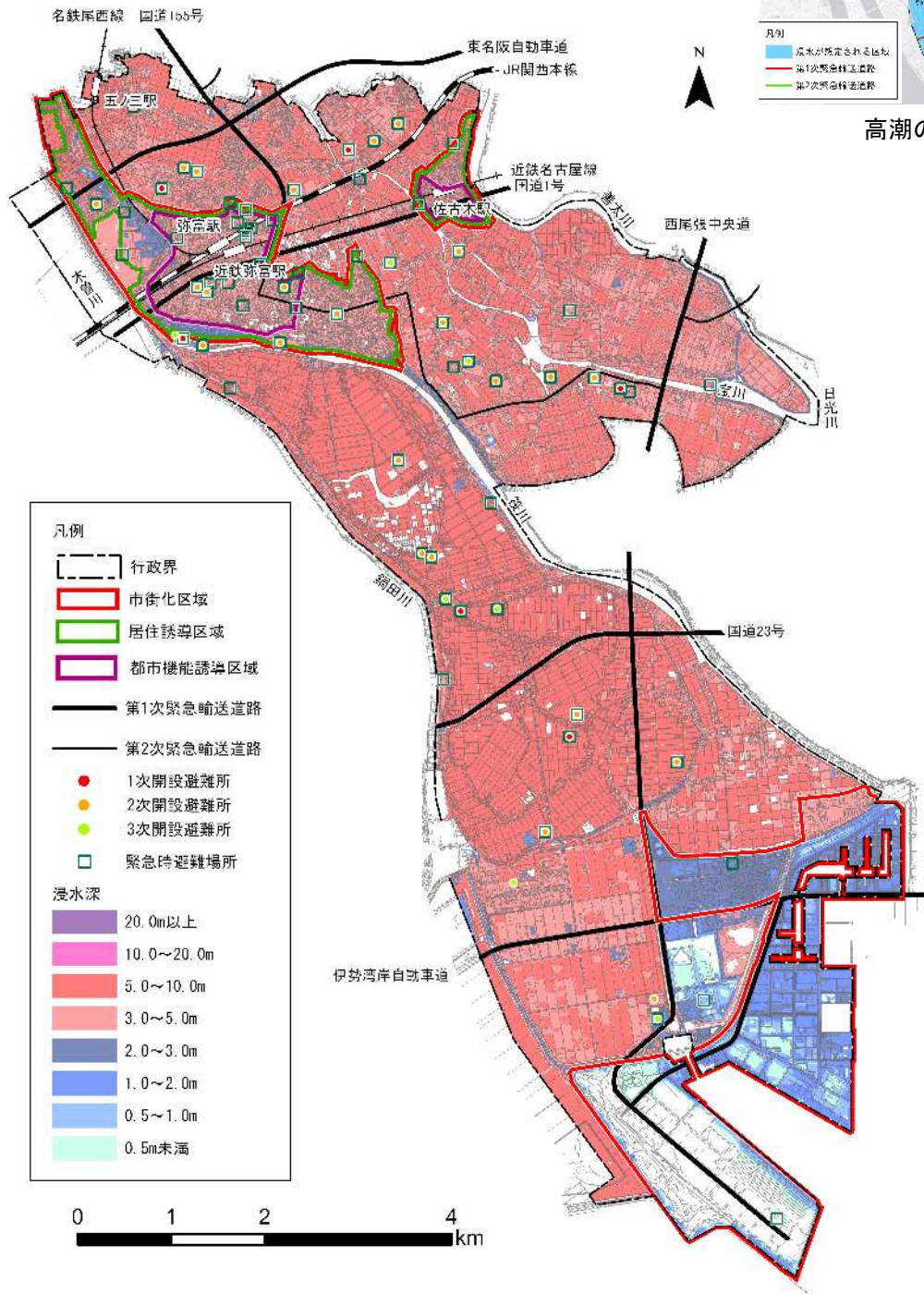
#### ① 想定最大規模（室戸台風規模・堤防等決壊あり）

高潮浸水想定区域（想定最大規模（室戸台風規模・堤防等決壊あり））は、ほぼ市全域に広がっており、垂直避難が困難な浸水深 3.0m 以上の区域が広範囲で見られます。

#### ■ 高潮浸水深（想定最大規模（室戸台風規模・堤防等決壊あり））



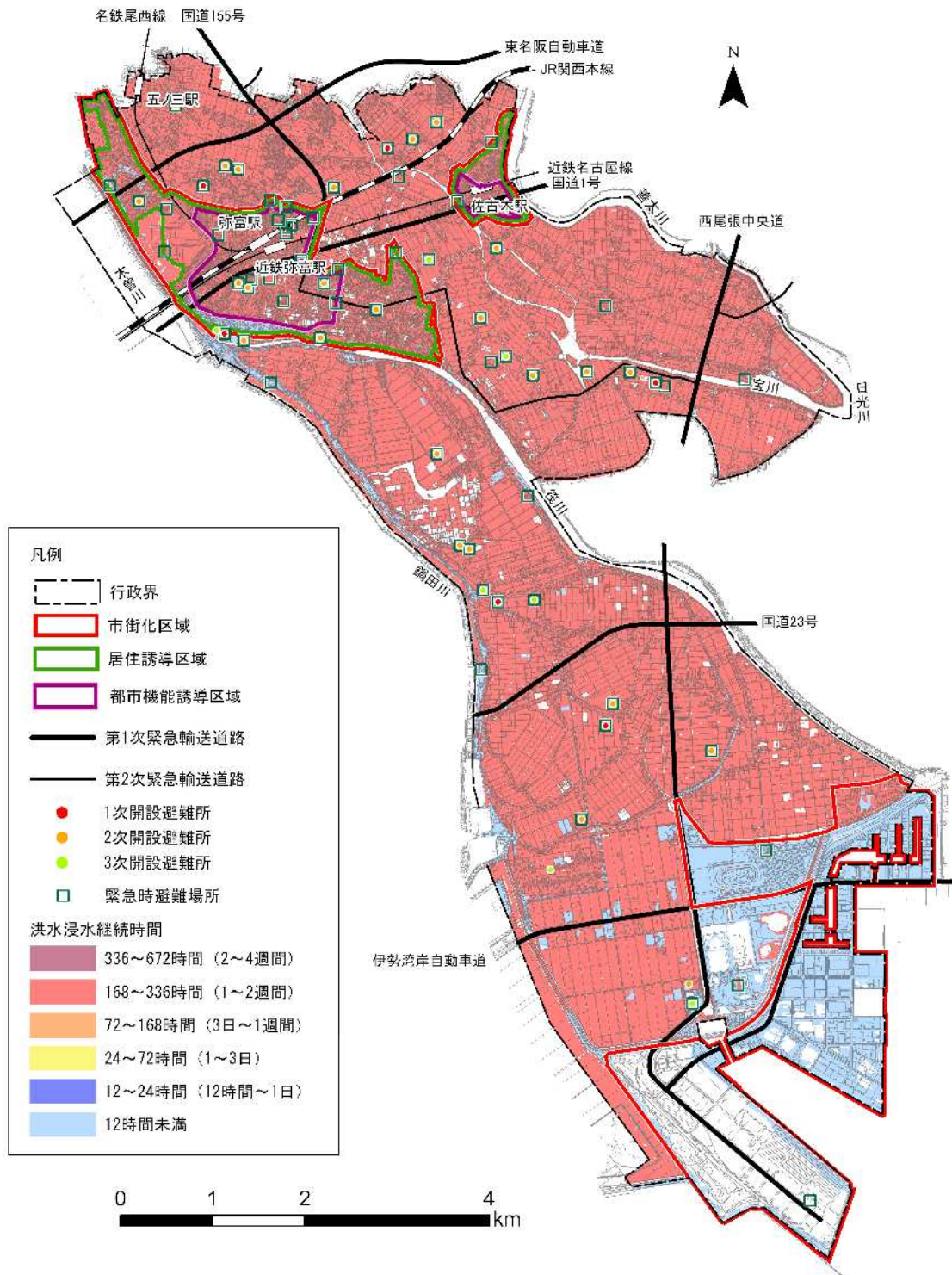
高潮の浸水想定（広域）



出典：愛知県 高潮浸水想定区域（R3.6.11 公表）

浸水継続時間をみると、健康障害の発生や生命の危機が生じる恐れがある 3 日以上の浸水が広範囲で見られます。

■高潮浸水継続時間（想定最大規模（室戸台風規模・堤防等決壊あり））

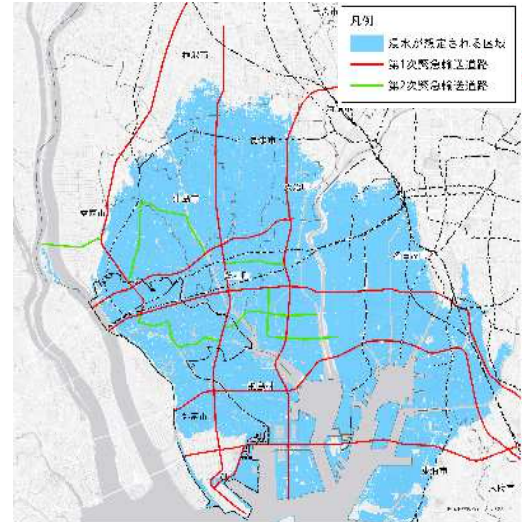


出典：愛知県 高潮浸水想定区域（R3.6.11公表）

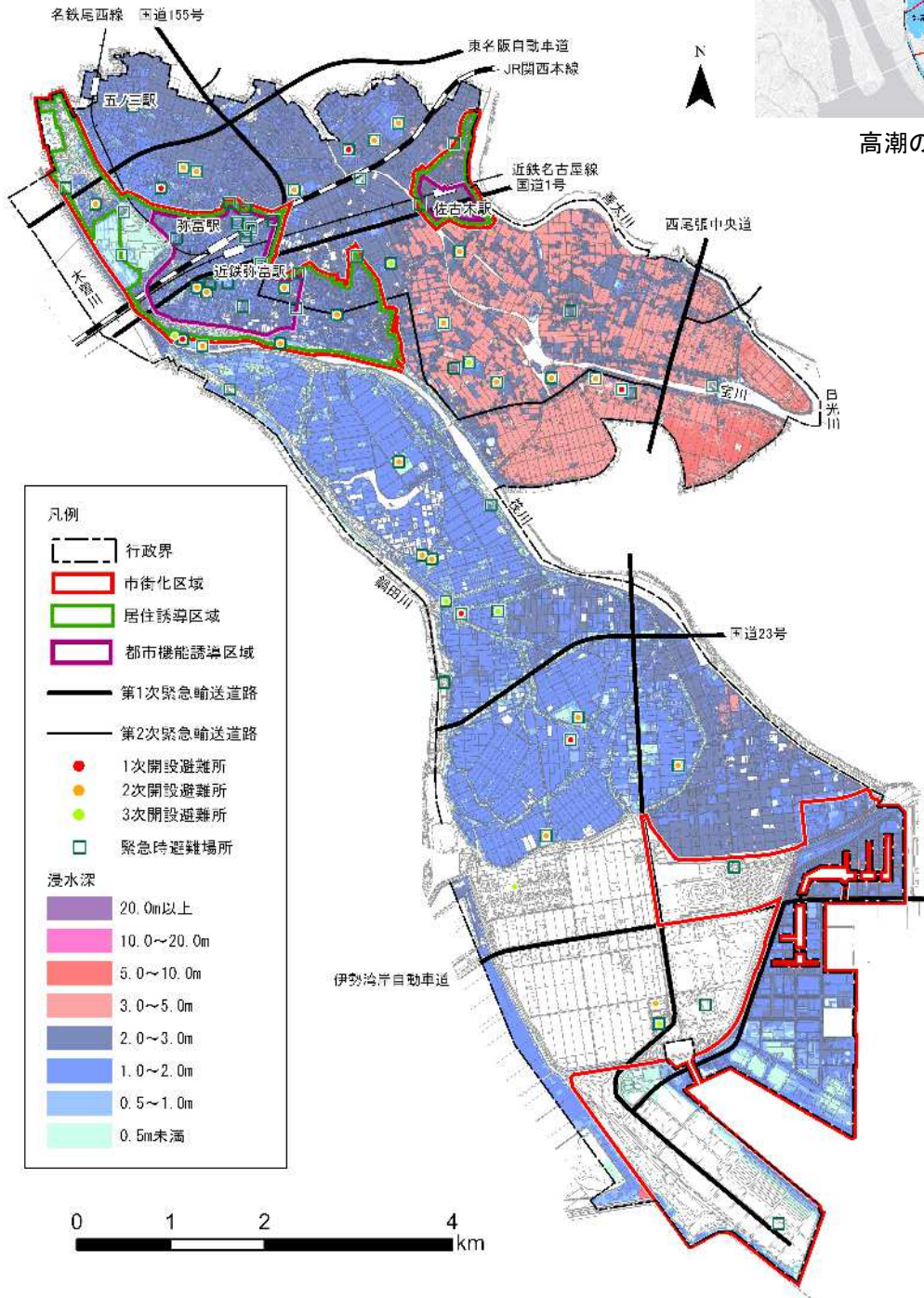


## ②室戸台風規模

高潮浸水予想区域（室戸台風規模・堤防等決壊なし）は、市南部の一部を除く、ほぼ市全域に広がっています。また、国道1号より南側の市東部では垂直避難が困難になる浸水深3.0m以上の区域が広範囲で見られます。



### ■高潮浸水深（室戸台風規模・堤防等決壊なし）

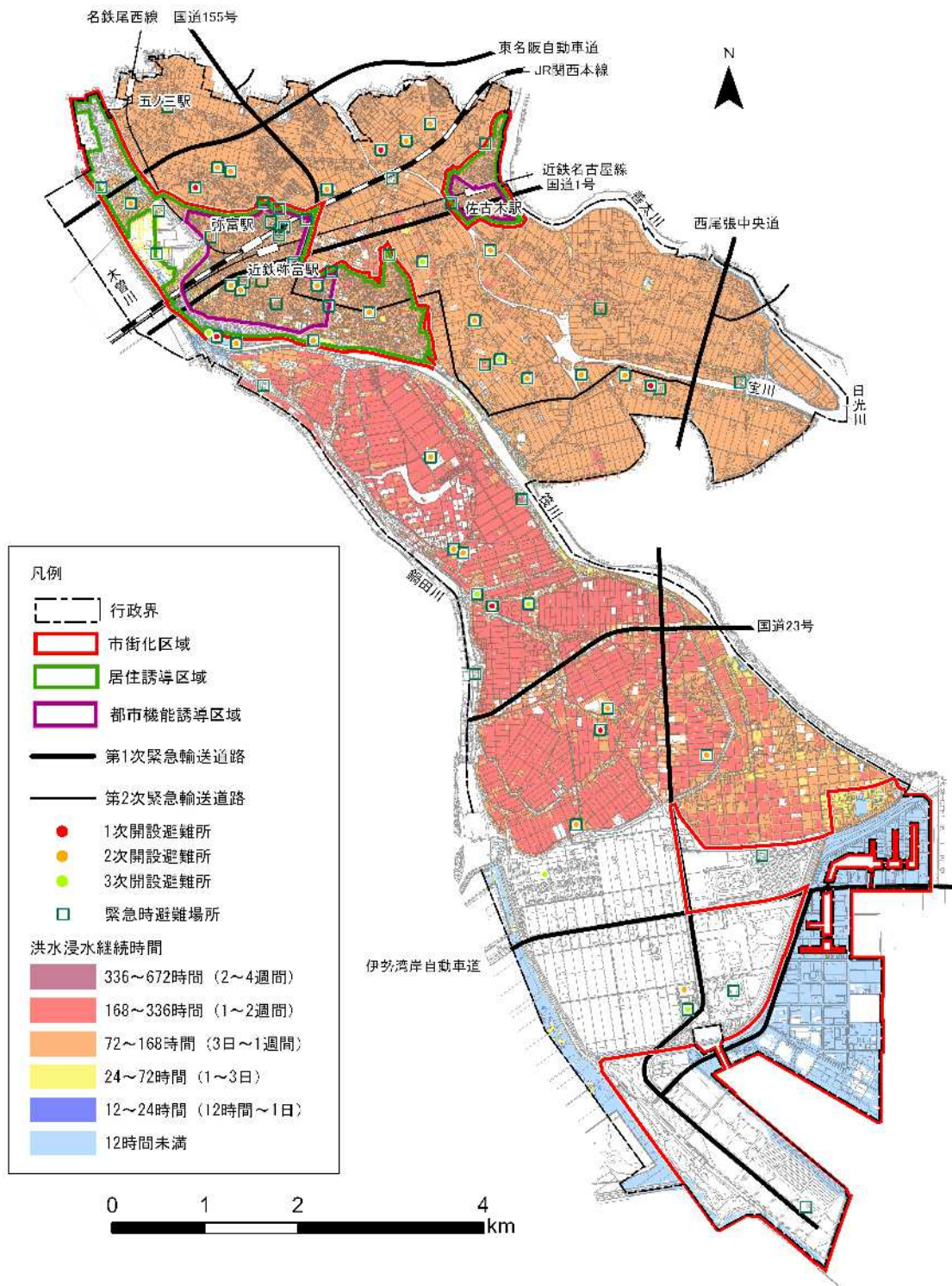


高潮の浸水想定（広域）

出典：愛知県 高潮浸水予想区域（R3.6.11公表）

浸水継続時間をみると、健康障害の発生や生命の危機が生じる恐れがある3日以上（72時間）の浸水が市南部の一部を除く広範囲で見られ、特に市中部では168～336時間（1～2週間）と長期の浸水が想定されています。

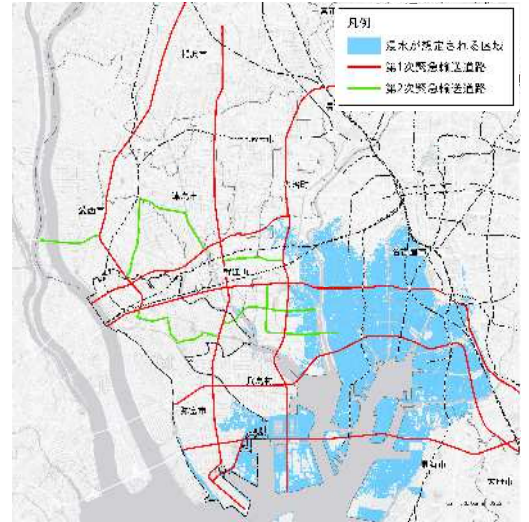
■高潮浸水継続時間（室戸台風規模・堤防等決壊なし）



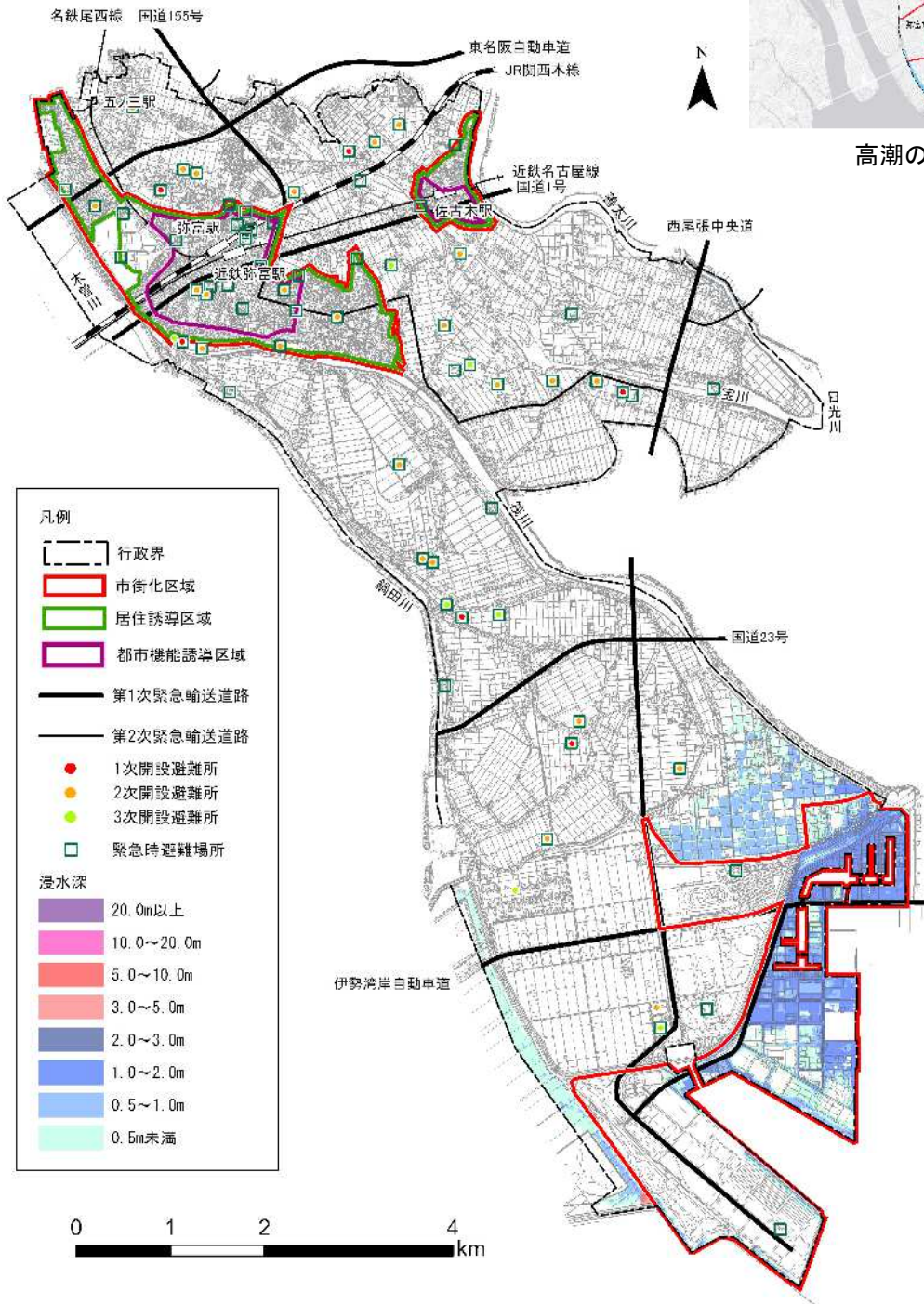
出典：愛知県 高潮浸水予想区域（R3.6.11公表）

### ③伊勢湾台風規模

高潮浸水予想区域（伊勢湾台風規模・堤防等決壊なし）は、市南部の一部にみられます。また、床上浸水が想定される浸水深0.5m以上の区域が臨海部の市街化区域周辺でみられます。



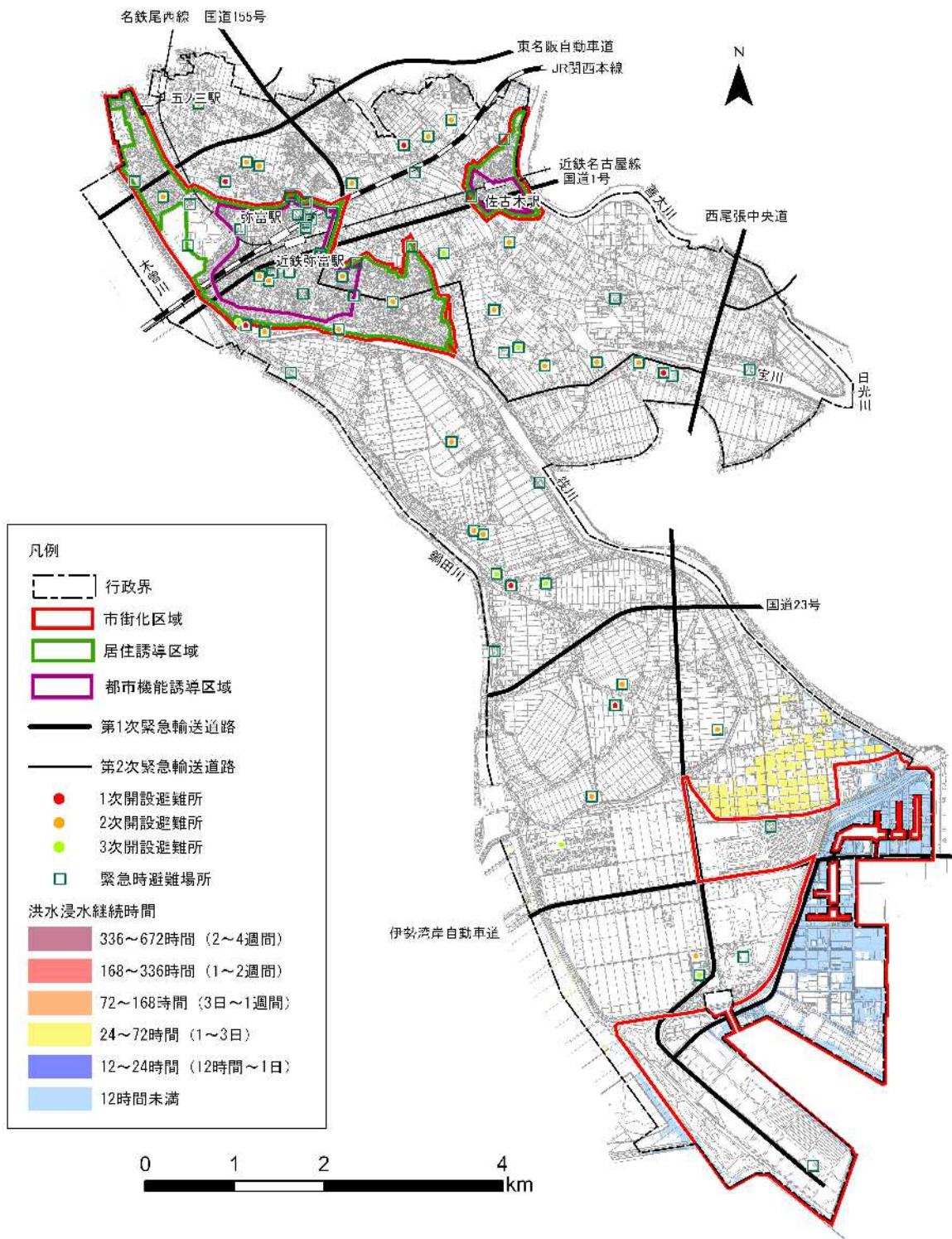
#### ■高潮浸水深（伊勢湾台風規模・堤防等決壊なし）



出典：愛知県 高潮浸水予想区域（R3.6.11公表）

浸水継続時間をみると、南部の市街化調整区域では24～72時間（1～3日）、臨海部の市街化区域では12時間未満の浸水が想定されていますが、健康障害の発生や生命の危機が生じる恐れがある3日以上浸水はみられません。

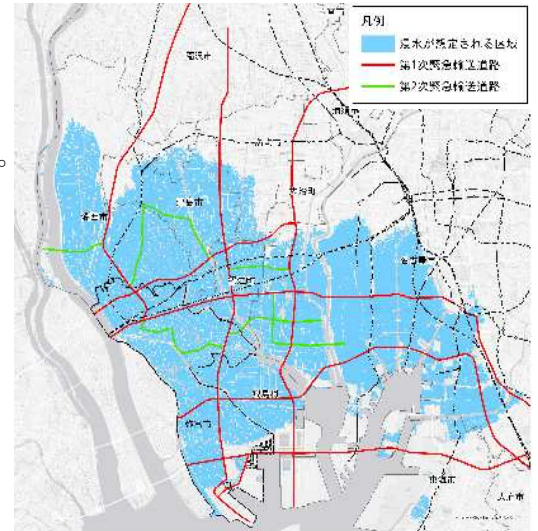
■高潮浸水継続時間（伊勢湾台風規模・堤防等決壊なし）



出典：愛知県 高潮浸水予想区域（R3.6.11公表）

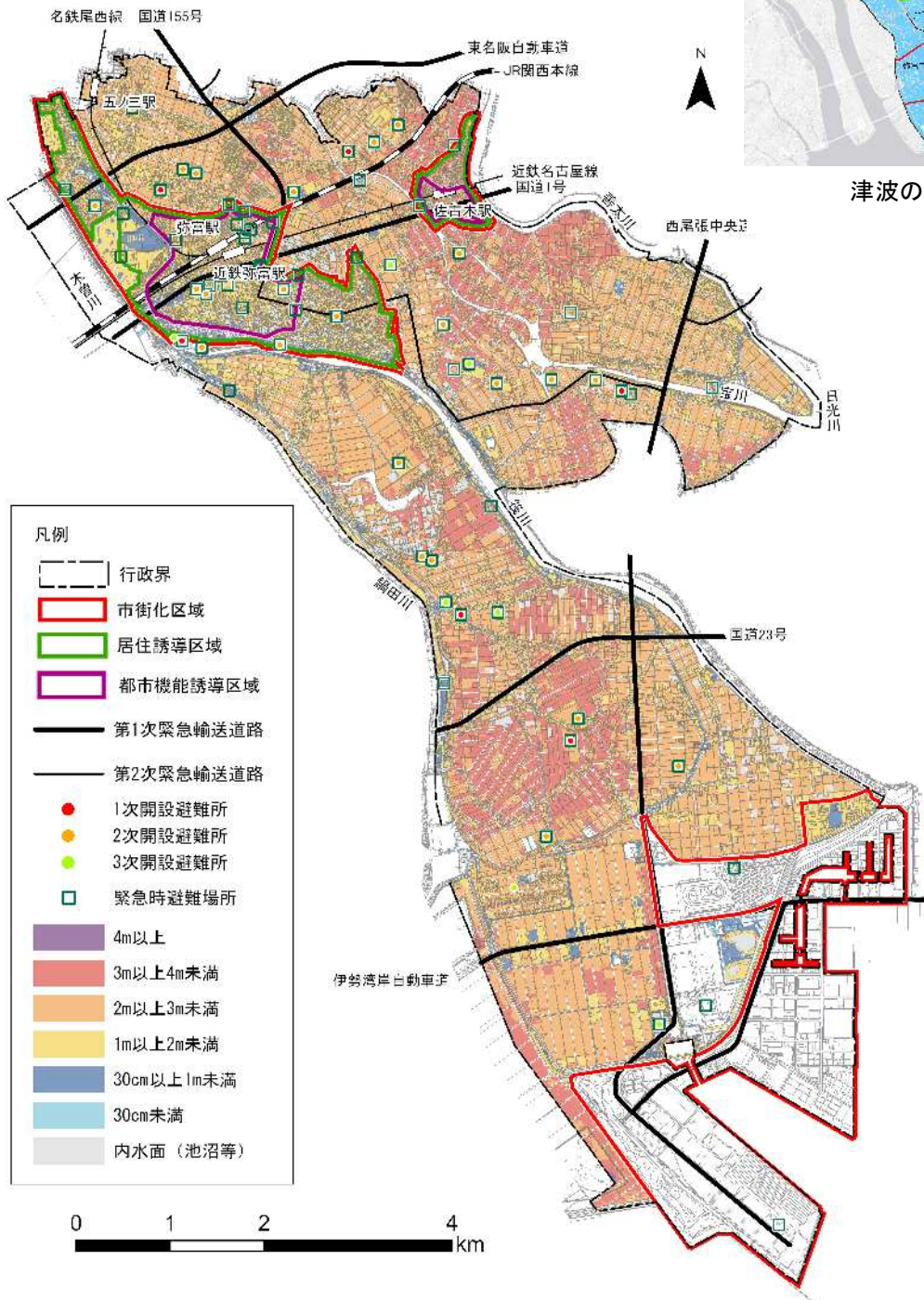
#### 4) 津波災害警戒区域

津波災害警戒区域は、臨海部の市街化区域周辺を除く、ほぼ市全域に広がっています。また、建物の被害が大きくなるとされる基準水位2m以上の区域が広範囲で見られます。



津波の浸水想定（広域）

#### ■津波災害警戒区域（基準水位）



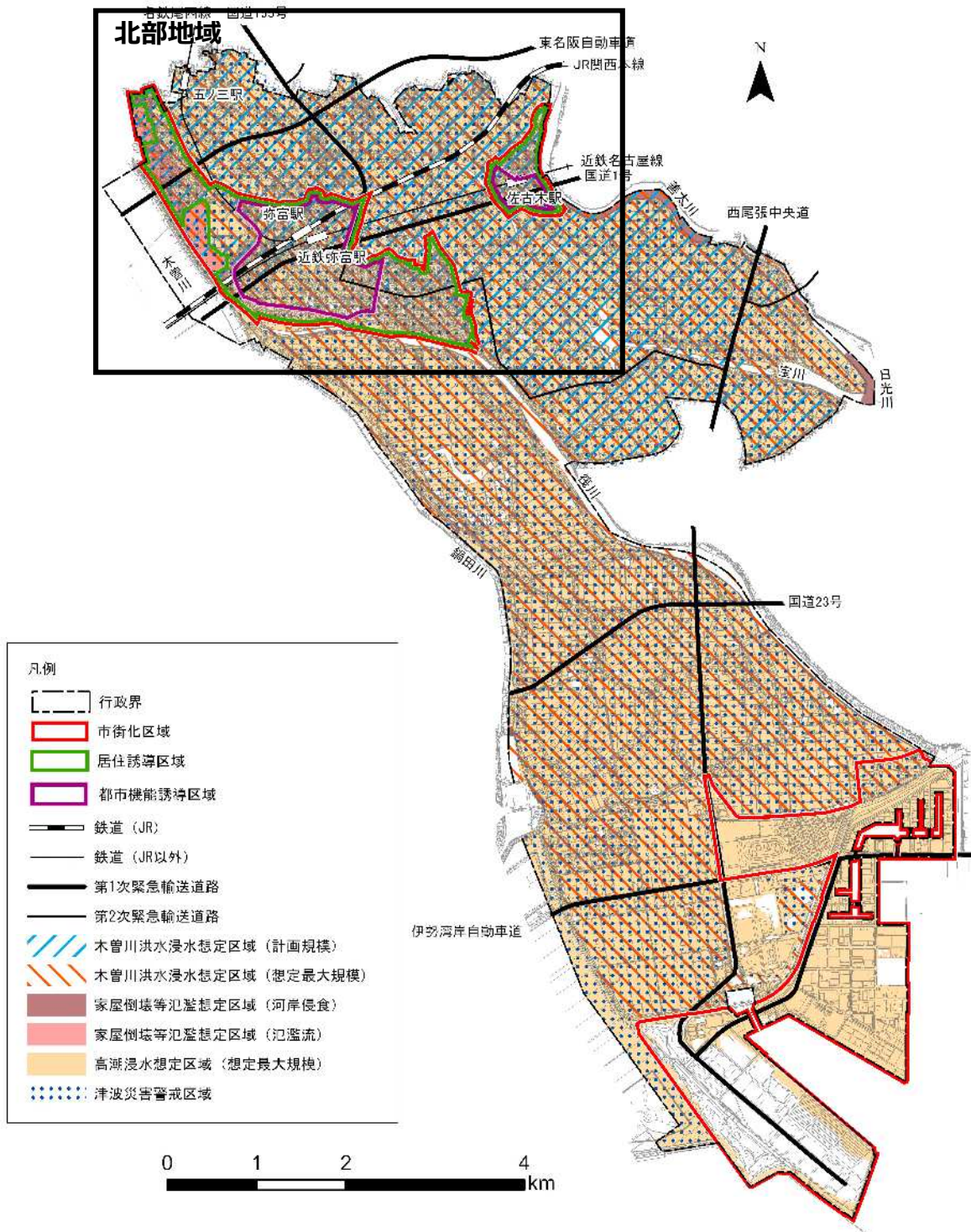
出典：愛知県 津波災害警戒区域（R1.7.30公表）

#### (4) 防災まちづくりの課題

##### 1) 災害リスクが高い地域の抽出

本市において想定されている各種災害ハザードのうち、最も被害が大きくなることが見込まれる木曾川の洪水浸水想定区域、家屋倒壊等氾濫想定区域（河岸浸食、氾濫流）、高潮浸水想定区域（想定最大規模）、津波災害警戒区域の指定状況を踏まえ、以下の1地区を災害リスクの高い地域として抽出します。

##### ■災害ハザードの重ね合わせ図



## 2) 災害リスクの分析

防災上の課題整理にあたって、本市において想定されている災害ハザードと都市情報を重ね合わせるにより、災害リスクを分析します。

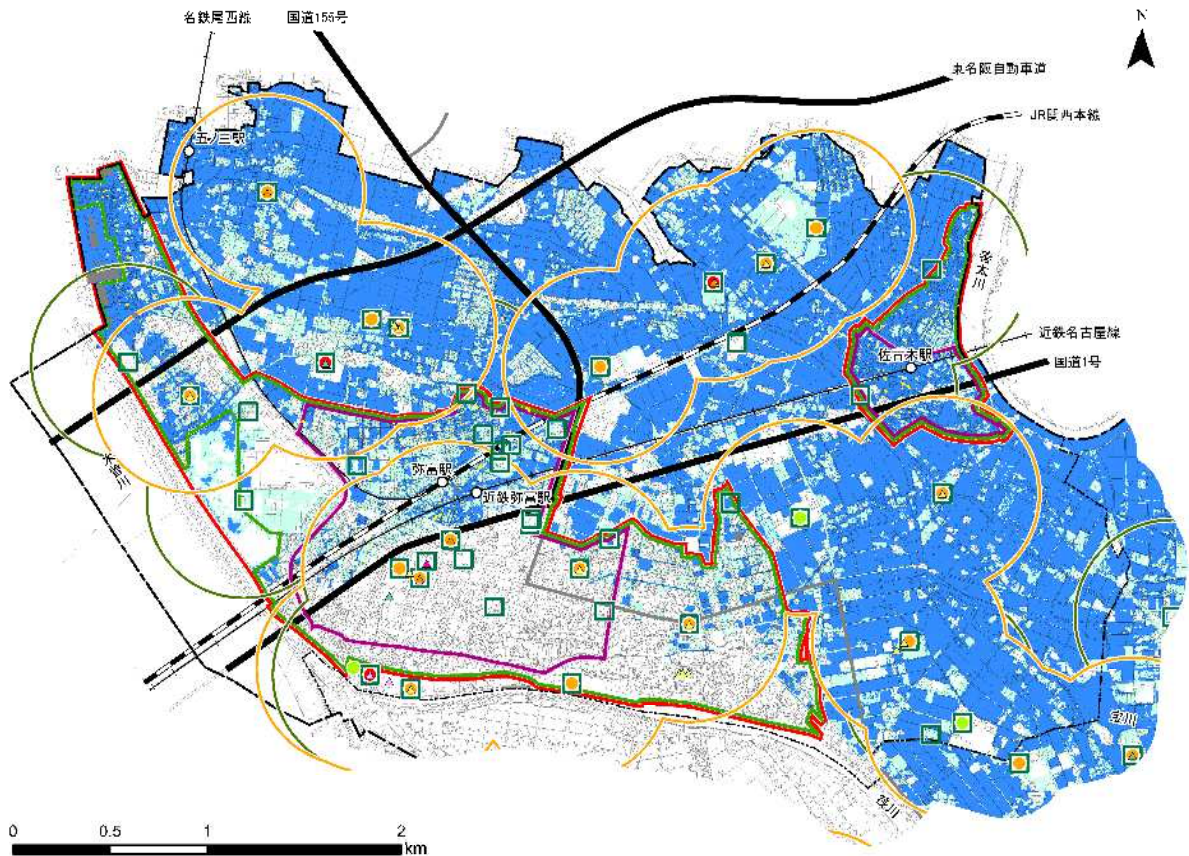
### ■課題整理にあたっての分析の視点

災害ハザード	都市情報	分析の視点
洪水浸水深	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建物</li> <li>・避難所、緊急時避難場所</li> <li>・徒歩圏</li> <li>・緊急輸送道路</li> <li>・都市機能</li> <li>・人口</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・垂直避難が困難で事前に避難が必要な建物を確認する</li> <li>・浸水により機能低下が発生する避難所、避難場所や都市機能を確認する</li> <li>・浸水想定区域から徒歩での避難が困難な地域を確認する</li> <li>・浸水により不通となる緊急輸送道路を確認する</li> <li>・浸水により被災等のリスクがある人口規模を確認する</li> </ul>
洪水浸水継続時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建物</li> <li>・避難所、緊急時避難場所</li> <li>・徒歩圏</li> <li>・緊急輸送道路</li> <li>・都市機能</li> <li>・人口</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長期浸水により孤立する地域を確認する</li> <li>・長期浸水により孤立し、機能低下が発生する避難所、避難場所や都市機能を確認する</li> <li>・長期浸水により不通となる緊急輸送道路を確認する</li> <li>・浸水により被災等のリスクがある人口規模を確認する</li> </ul>
家屋倒壊等氾濫想定区域 (河岸浸食、氾濫流)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建物</li> <li>・避難所、緊急時避難場所</li> <li>・徒歩圏</li> <li>・緊急輸送道路</li> <li>・都市機能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・河岸浸食や氾濫流により家屋等が倒壊・流出する恐れがある地域を確認する</li> <li>・河岸浸食や氾濫流により機能を失う恐れがある避難所、避難場所や都市機能を確認する</li> <li>・河岸浸食や氾濫流により流失する恐れがある緊急輸送道路を確認する</li> </ul>
高潮浸水深	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建物</li> <li>・避難所、緊急時避難場所</li> <li>・徒歩圏</li> <li>・緊急輸送道路</li> <li>・都市機能</li> <li>・人口</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・垂直避難が困難で事前に避難が必要な建物を確認する</li> <li>・浸水により機能低下が発生する避難所、避難場所や都市機能を確認する</li> <li>・浸水想定区域から徒歩での避難が困難な地域を確認する</li> <li>・浸水により不通となる緊急輸送道路を確認する</li> <li>・浸水により被災等のリスクがある人口規模を確認する</li> </ul>
高潮浸水継続時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建物</li> <li>・避難所、緊急時避難場所</li> <li>・徒歩圏</li> <li>・緊急輸送道路</li> <li>・都市機能</li> <li>・人口</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長期浸水により孤立する地域を確認する</li> <li>・長期浸水により孤立し、機能低下が発生する避難所、避難場所や都市機能を確認する</li> <li>・長期浸水により不通となる緊急輸送道路を確認する</li> <li>・浸水により被災等のリスクがある人口規模を確認する</li> </ul>
津波災害警戒区域	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建物</li> <li>・避難所、緊急時避難場所</li> <li>・徒歩圏</li> <li>・緊急輸送道路</li> <li>・都市機能</li> <li>・人口</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建物被害が大きい地域を確認する</li> <li>・垂直避難が困難で事前に避難が必要な建物を確認する</li> <li>・浸水により機能低下が発生する避難所、避難場所や都市機能を確認する</li> <li>・浸水想定区域から徒歩での避難が困難な地域を確認する</li> <li>・浸水により不通となる緊急輸送道路を確認する</li> <li>・浸水により被災等のリスクがある人口規模を確認する</li> </ul>

【洪水浸水深（木曽川-計画規模）】

- ・2階への垂直避難が困難になる浸水深3.0m以上の区域はみられません、広範囲で1階床上が浸水する浸水深0.5m以上の区域がみられます。
- ・東名阪自動車道の北側などは、避難所の徒歩圏外となっていますが、垂直避難が困難な平屋の住宅が点在しています。
- ・近鉄弥富駅の南側や市街化調整区域の一部を除き、多くの避難所や都市機能が浸水すると想定されています。
- ・緊急輸送道路の国道155号の一部で浸水が想定されています。東名阪自動車道の道路構造は盛土または高架となっているため、浸水により不通となるリスクは少ないですが、その他の緊急輸送道路は浸水により不通となるリスクがあります。

■洪水浸水深（木曽川-計画規模）



居住誘導区域内人口：24,289人  
 浸水する居住誘導区域内人口  
 0.5~3.0m：6,093人  
 3.0m~：0人

※浸水する居住誘導区域内人口はR2  
 国勢調査人口を基に浸水する区域  
 で面積按分し、算出

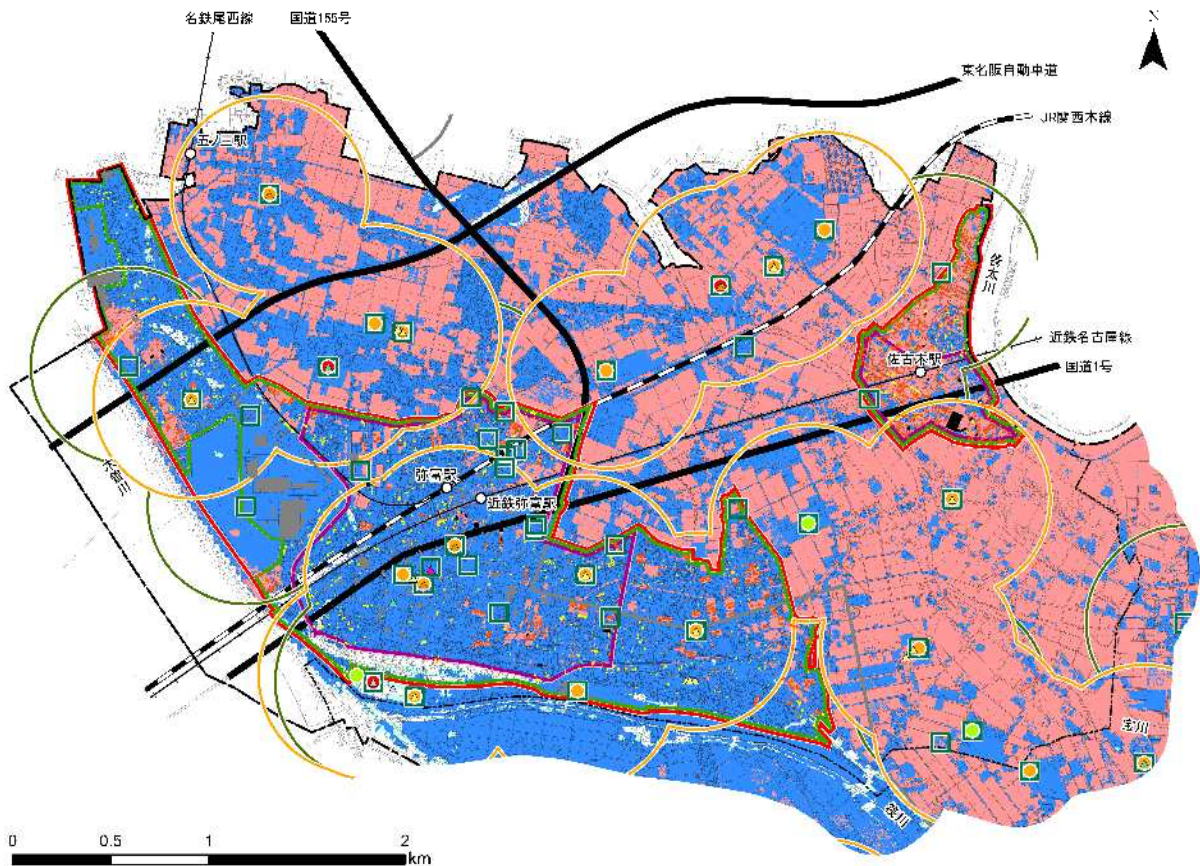
凡例		都市機能		浸水深	
行政界	第1次緊急輸送道路	市役所・支庁	3.0m以上	0.5~3.0m	0.5m未満
地域界	第2次緊急輸送道路	その他公共施設	垂直避難が困難な建物	住宅平屋	住宅2階以上
市街化区域	1次開設避難所	福祉施設	住宅2階以上	その他平屋	その他2階以上
居住誘導区域	2次開設避難所	児童福祉施設			
都市機能誘導区域	3次開設避難所	生涯学習施設			
鉄道（JR）	避難所500m圏域				
鉄道（JR以外）	緊急時避難場所				
	緊急時避難場所500m圏域				



【洪水浸水深（木曽川-想定最大規模）】

- ・ほぼ全域に1階床上が浸水する浸水深0.5m以上の区域が広がっており、佐古木駅周辺の市街化区域や市街化調整区域では2階への垂直避難が困難になる浸水深3.0m以上の区域がみられます。
- ・弥富駅北側や佐古木駅周辺、東名阪自動車道の北側、筏川の北側などは、避難所の徒歩圏外となっていますが、垂直避難が困難な住宅がみられます。特に、佐古木駅周辺では垂直避難が困難な住宅が密集しています。
- ・筏川沿いの一部を除き、ほぼ全ての避難所や都市機能が浸水すると想定されています。
- ・緊急輸送道路の全区間が浸水すると想定されています。東名阪自動車道の道路構造は盛土または高架となっているため、浸水により不通となるリスクは少ないですが、その他の緊急輸送道路は浸水により不通となるリスクがあります。

■洪水浸水深（木曽川-想定最大規模）



居住誘導区域内人口：24,289人  
 浸水する居住誘導区域内人口  
 0.5~3.0m：18,800人  
 3.0m~：4,798人

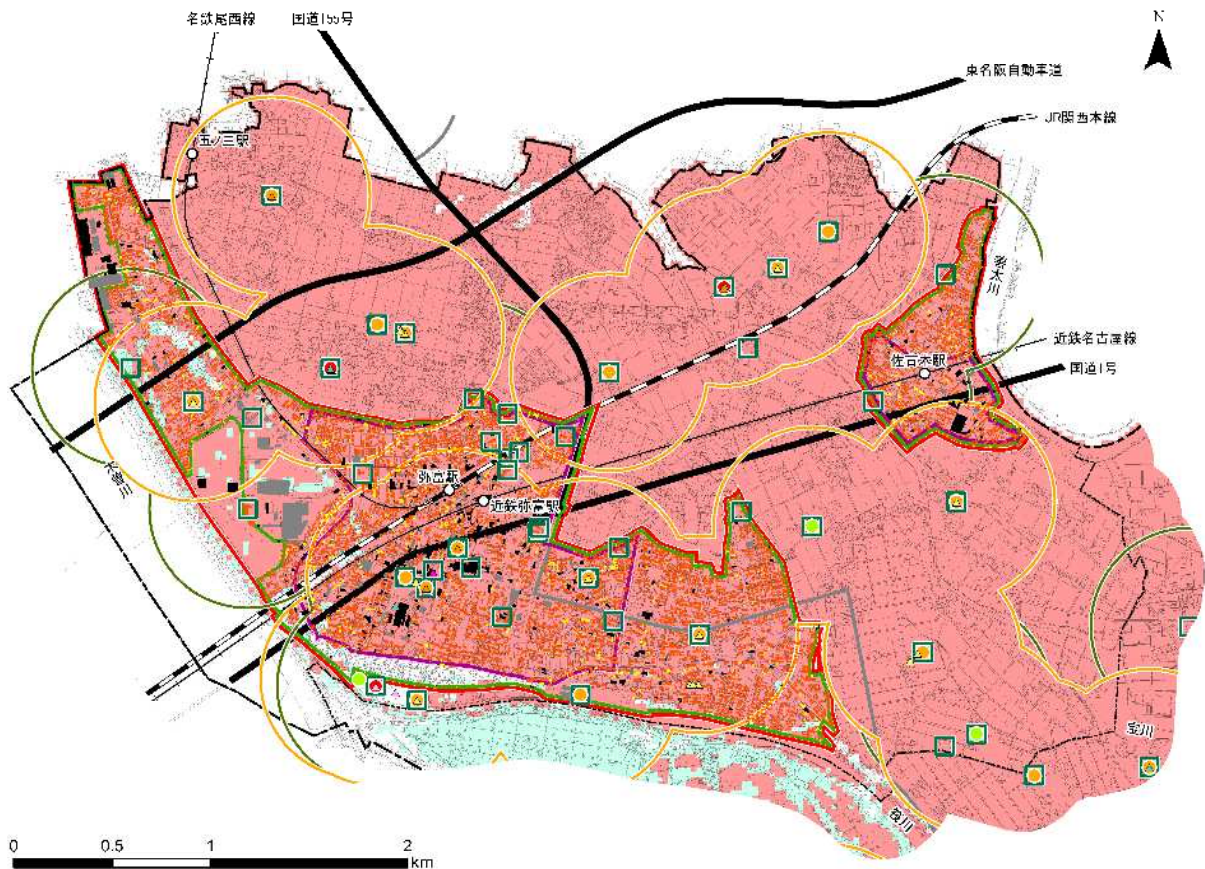
※浸水する居住誘導区域内人口はR2  
 国勢調査人口を基に浸水する区域  
 で面積按分し、算出

凡例		都市機能	浸水深
行政界	第1次緊急輸送道路	市役所・支庁	3.0m以上
地域界	第2次緊急輸送道路	その他公共施設	0.5~3.0m
市街化区域	1次開設避難所	福祉施設	0.5未満
居住誘導区域	2次開設避難所	児童福祉施設	垂直避難が困難な建物
都市機能誘導区域	3次開設避難所	生涯学習施設	住宅平屋
鉄道（JR）	避難所500m圏域		住宅2階以上
鉄道（JR以外）	緊急時避難場所		その他平屋
	緊急時避難場所500m圏域		その他2階以上

【洪水浸水継続時間（木曾川-想定最大規模）】

- ・健康障害の発生や生命の危機が生じる恐れがある3日以上浸水がほぼ全域に広がっています。
- ・弥富駅北側や佐古木駅周辺、東名阪自動車道の北側、筏川の北側などは、避難所の徒歩圏外となっていますが、長期（3日以上）浸水する住宅が密集しています。
- ・筏川沿いの一部を除き、ほぼ全ての避難所や都市機能が3日以上浸水すると想定されています。
- ・緊急輸送道路の全区間が3日以上浸水すると想定されています。東名阪自動車道の道路構造は盛土または高架となっているため、浸水により不通となるリスクは少ないですが、その他の緊急輸送道路は長期の浸水により不通となるリスクがあります。

■洪水浸水継続時間（木曾川-想定最大規模）



居住誘導区域内人口：24,289人  
 浸水する居住誘導区域内人口  
 3日以上：23,318人

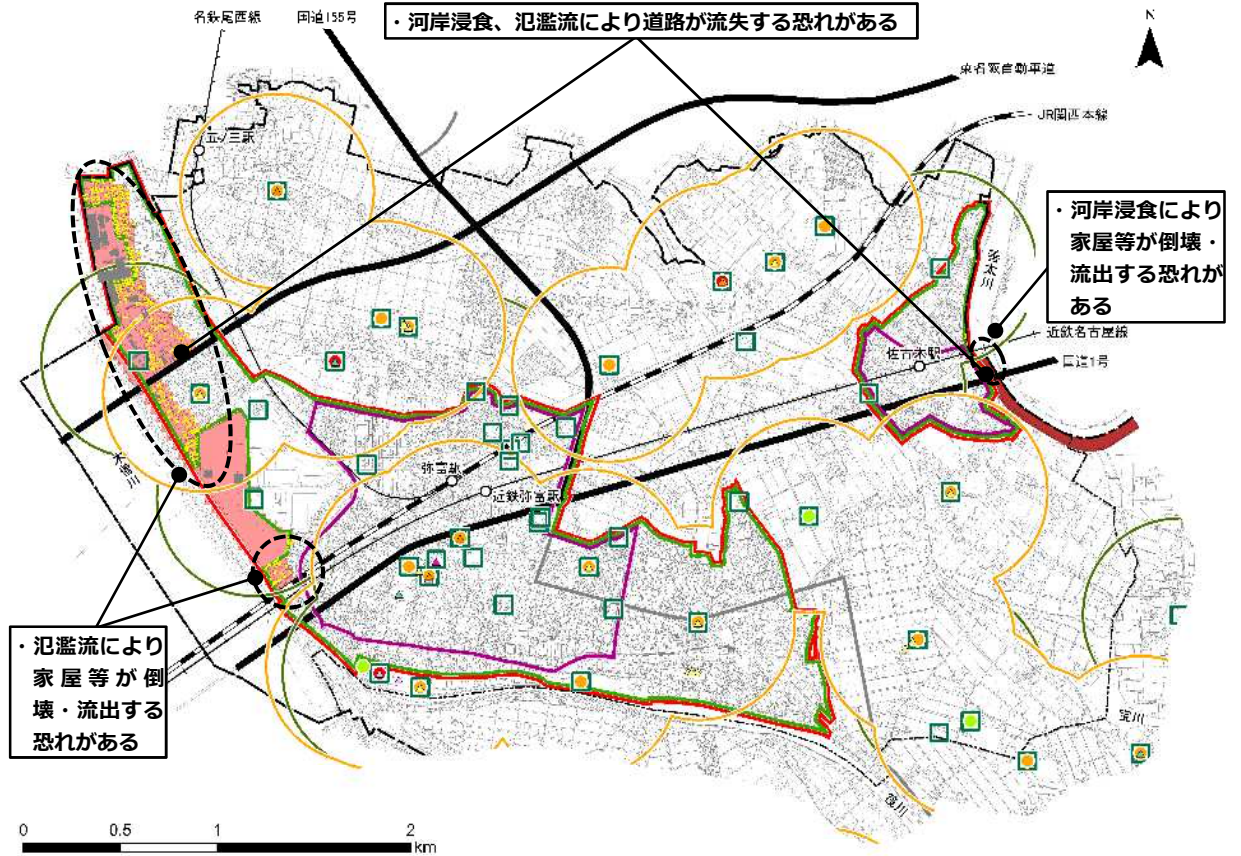
※浸水する居住誘導区域内人口はR2  
 国勢調査人口を基に浸水する区域  
 で面積按分し、算出

凡例		都市機能	洪水浸水継続時間
行政界	第1次緊急輸送道路	市役所・支所	3日以上
地域界	第2次緊急輸送道路	その他公共施設	3日未満
市街化区域	1次開設避難所	福祉施設	長期（3日以上）浸水する建物
居住誘導区域	2次開設避難所	児童福祉施設	住宅平屋
都市機能誘導区域	3次開設避難所	生涯学習施設	住宅2階以上
鉄道（JR）	避難所500m圏域		その他平屋
鉄道（JR以外）	緊急時避難場所		その他2階以上
	緊急時避難場所500m圏域		

【家屋倒壊等氾濫想定区域（河岸浸食、氾濫流-想定最大規模）】

- ・善太川沿いの市街化区域外縁部の一部では河岸浸食により家屋等が倒壊・流出する恐れがある区域がみられます。
- ・木曽川沿いの市街化区域内では氾濫流により家屋等が倒壊・流出する恐れがある区域がみられます。
- ・河岸浸食、氾濫流の区域に含まれる避難所や都市機能はみられません。
- ・河岸浸食により国道1号の一部区間が流失する恐れがあります。
- ・氾濫流により東名阪自動車道の一部区間が流失する恐れがあります。

■家屋倒壊等氾濫想定区域（河岸浸食、氾濫流-想定最大規模）

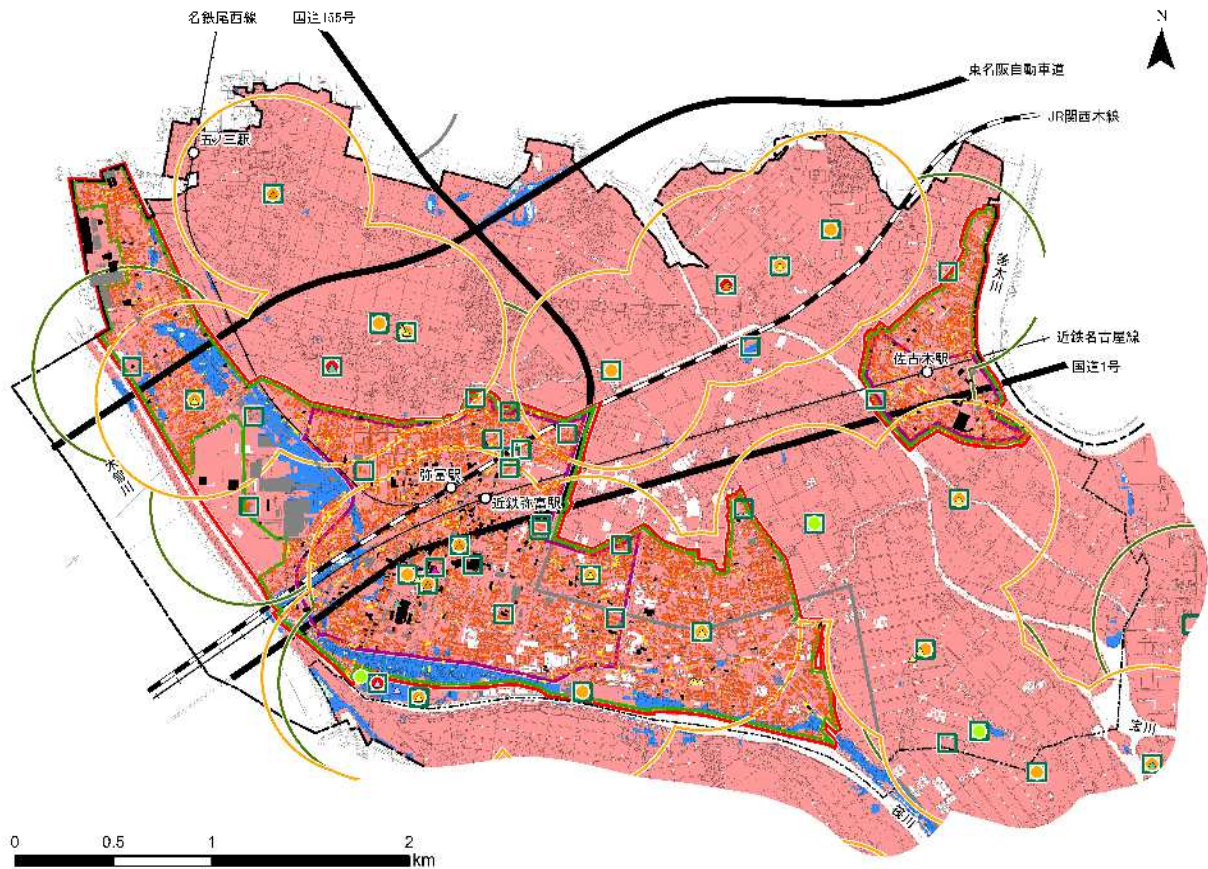


凡例		都市機能		家屋倒壊等氾濫想定区域	
行政界	第1次緊急輸送道路	市役所・支所	河岸浸食	氾濫流	倒壊の恐れがある建物
地域界	第2次緊急輸送道路	その他公共施設	居住誘導区域	氾濫流	住宅
市街化区域	1次開設避難所	福祉施設	都市機能誘導区域	氾濫流	その他
居住誘導区域	2次開設避難所	児童福祉施設	鉄道（JR）	氾濫流	
都市機能誘導区域	3次開設避難所	生涯学習施設	鉄道（JR以外）	氾濫流	
鉄道（JR）	避難所500m圏域			氾濫流	
鉄道（JR以外）	緊急時避難場所			氾濫流	
	緊急時避難場所500m圏域			氾濫流	

【高潮浸水深（想定最大規模）】

- ・名鉄尾西線の西側や筏川沿いの一部を除き、ほぼ全域に2階への垂直避難が困難になる浸水深3.0m以上の区域がみられます。
- ・弥富駅北側や佐古木駅周辺、東名阪自動車道の北側、筏川の北側などは、避難所の徒歩圏外となっていますが、垂直避難が困難な住宅が密集しています。
- ・全ての避難所や津波・高潮緊急時避難場所、都市機能が浸水すると想定されています。
- ・緊急輸送道路の全区間が浸水すると想定されています。東名阪自動車道の道路構造は盛土または高架となっているため、浸水により不通となるリスクは少ないですが、その他の緊急輸送道路は浸水により不通となるリスクがあります。

■高潮浸水深（想定最大規模）



居住誘導区域内人口：24,289人  
 浸水する居住誘導区域内人口  
 0.5~3.0m：1,344人  
 3.0m~：21,957人

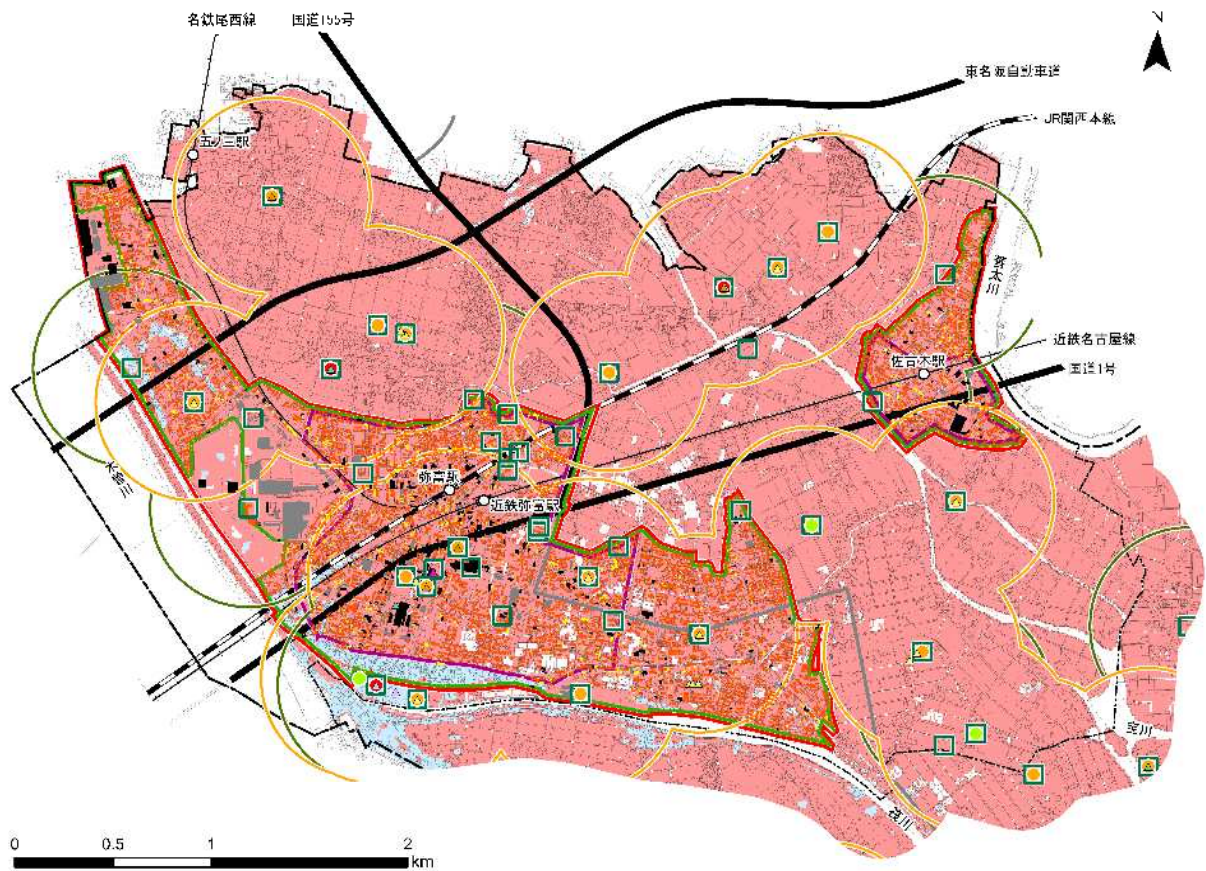
※浸水する居住誘導区域内人口はR2  
 国勢調査人口を基に浸水する区域  
 で面積按分し、算出



【高潮浸水継続時間（想定最大規模）】

- 健康障害の発生や生命の危機が生じる恐れがある3日以上浸水がほぼ全域に広がっています。
- 弥富駅北側や佐古木駅周辺、東名阪自動車道の北側、筏川の北側などは、避難所の徒歩圏外となっていますが、長期（3日以上）浸水する住宅が密集しています。
- 筏川沿いの一部を除き、ほぼ全ての避難所や津波・高潮緊急時避難場所、都市機能が3日以上浸水すると想定されています。
- 緊急輸送道路の全区間が3日以上浸水すると想定されています。東名阪自動車道の道路構造は盛土または高架となっているため、浸水により不通となるリスクは少ないですが、その他の緊急輸送道路は長期の浸水により不通となるリスクがあります。

■高潮浸水継続時間（想定最大規模）



居住誘導区域内人口：24,289人  
 浸水する居住誘導区域内人口  
 3日以上：22,577人

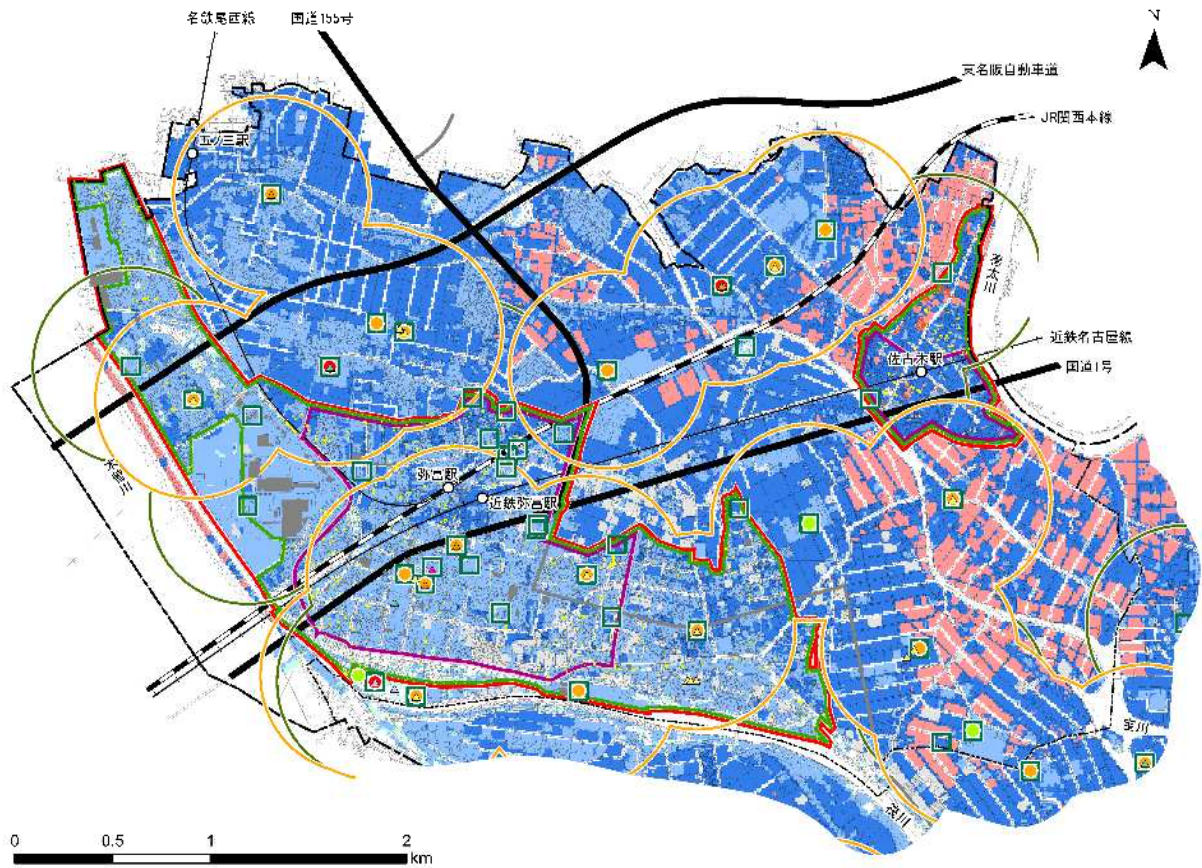
※浸水する居住誘導区域内人口はR2  
 国勢調査人口を基に浸水する区域  
 で面積按分し、算出

凡例		都市機能		高潮浸水継続時間	
行政界	第1次緊急輸送道路	市役所・支所	3日以上	3日未満	長期（3日以上）浸水する建物
地域界	第2次緊急輸送道路	その他公共施設	住宅平屋	住宅2階以上	
市街化区域	1次開設避難所	福祉施設	その他平屋	その他2階以上	
居住誘導区域	2次開設避難所	児童福祉施設			
都市機能誘導区域	3次開設避難所	生涯学習施設			
鉄道（JR）	避難所500m圏域				
鉄道（JR以外）	緊急時避難場所				
	緊急時避難場所500m圏域				

【津波災害警戒区域（基準水位）】

- ・ 弥富駅周辺の市街化区域の一部や佐古木駅周辺の市街化区域、市街化調整区域の広範囲で建物の被害が大きくなるとされる浸水深 2.0m 以上の区域がみられます。また、佐古木駅周辺の市街化区域の一部や市街化調整区域では 2 階への垂直避難が困難になる浸水深 3.0m 以上の区域がみられます。
- ・ 弥富駅北側や佐古木駅周辺、東名阪自動車道の北側などは、避難所の徒歩圏外となっていますが、垂直避難が困難な住宅が点在しています。
- ・ 全ての避難所や津波・高潮緊急時避難場所、都市機能が浸水すると想定されています。
- ・ 緊急輸送道路の全区間が浸水すると想定されています。東名阪自動車道の道路構造は盛土または高架となっているため、浸水により不通となるリスクは少ないですが、その他の緊急輸送道路は浸水により不通となるリスクがあります。

■津波災害警戒区域（基準水位）



居住誘導区域内人口：24,289 人

浸水する居住誘導区域内人口  
0.5~2.0m：13,467 人  
2.0m~：6,091 人

※浸水する居住誘導区域内人口はR2  
国勢調査人口を基に浸水する区域  
で面積按分し、算出



※基準水位について、0.5mの区分データが無いため、1階床上が浸水する基準を0.3~1.0mとする

3) 災害リスク分析の整理

本市における災害リスク分析の結果を整理します。

**洪水 高潮 津波**  
 ・避難所、緊急時避難場所の徒歩圏外となっており、徒歩での避難が困難

**洪水**  
 ・計画規模で床上浸水（浸水深0.5m以上）が発生する恐れがある  
 ・氾濫流により家屋等が倒壊・流出する恐れがある

**洪水 高潮**  
 ・想定最大規模で3m以上の浸水により垂直避難が困難となる恐れがある  
 ・浸水が3日以上継続し、健康障害の発生や生命の危機が生じる恐れがある

**洪水**  
 ・氾濫流により道路が流失する恐れがある

**洪水**  
 ・氾濫流により家屋等が倒壊・流出する恐れがある

**洪水 高潮 津波**  
 ・浸水により道路が不通となる恐れがある

**洪水 高潮 津波**  
**【全域】**  
 ・避難所や緊急時避難場所が浸水し、使用できなくなる恐れがある  
 ・都市機能が浸水し、機能が低下する恐れがある

**洪水 高潮 津波**  
 ・浸水により道路が不通となる恐れがある

**洪水 高潮 津波**  
 ・避難所の徒歩圏外となっており、徒歩での避難が困難

**洪水**  
 ・河岸浸食により家屋等が倒壊・流出する恐れがある

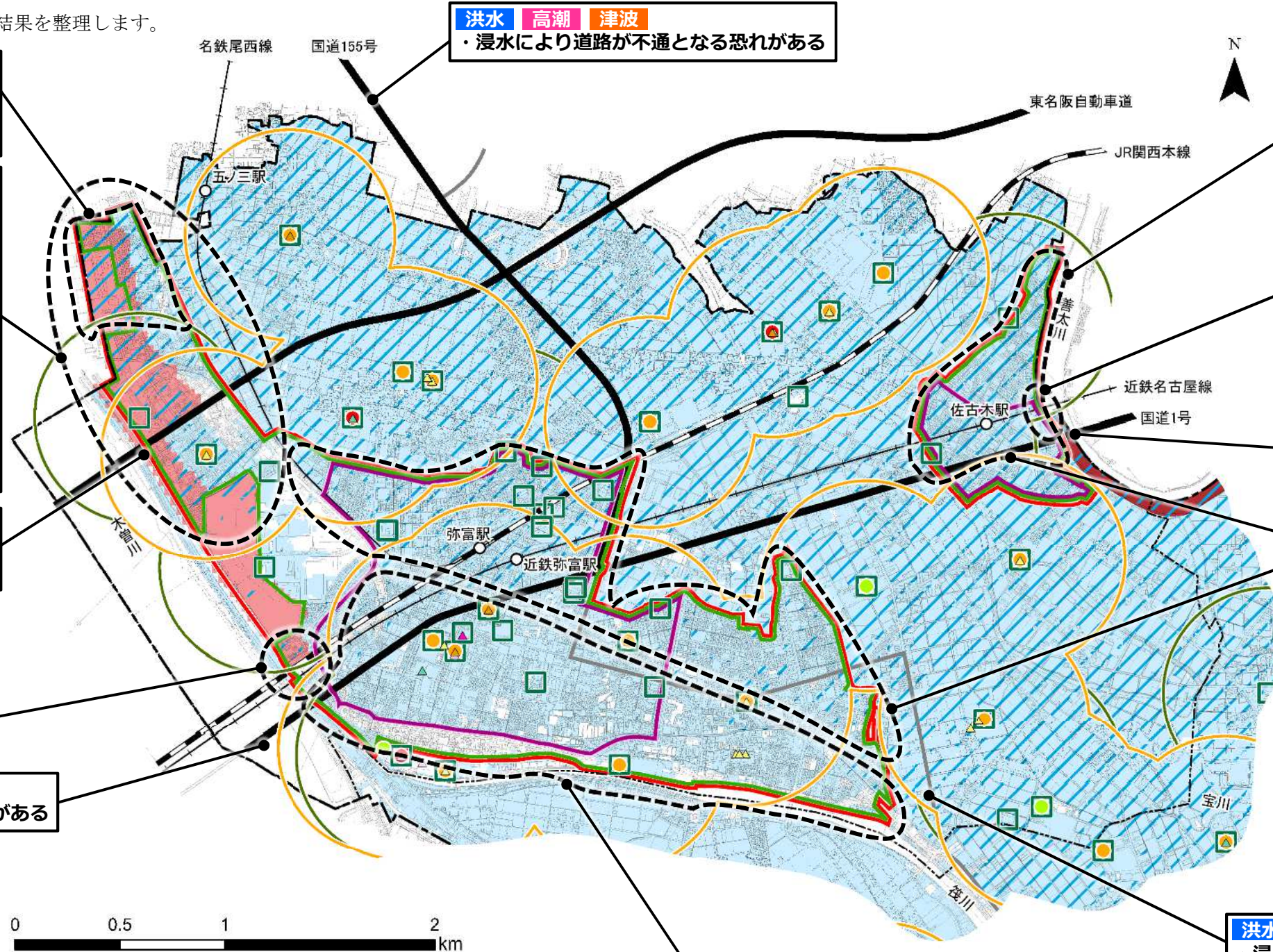
**洪水**  
 ・河岸浸食により道路が流失する恐れがある

**洪水**  
 ・計画規模で床上浸水（浸水深0.5m以上）が発生する恐れがある

**洪水 高潮**  
 ・想定最大規模で3m以上の浸水により垂直避難が困難となる恐れがある  
 ・浸水が3日以上継続し、健康障害の発生や生命の危機が生じる恐れがある

**津波**  
 ・津波により建物への大きな被害が発生する恐れがある

**洪水 高潮 津波**  
 ・浸水により道路が不通となる恐れがある



**洪水 高潮**  
 ・想定最大規模で3m以上の浸水により垂直避難が困難となる恐れがある  
 ・浸水が3日以上継続し、健康障害の発生や生命の危機が生じる恐れがある

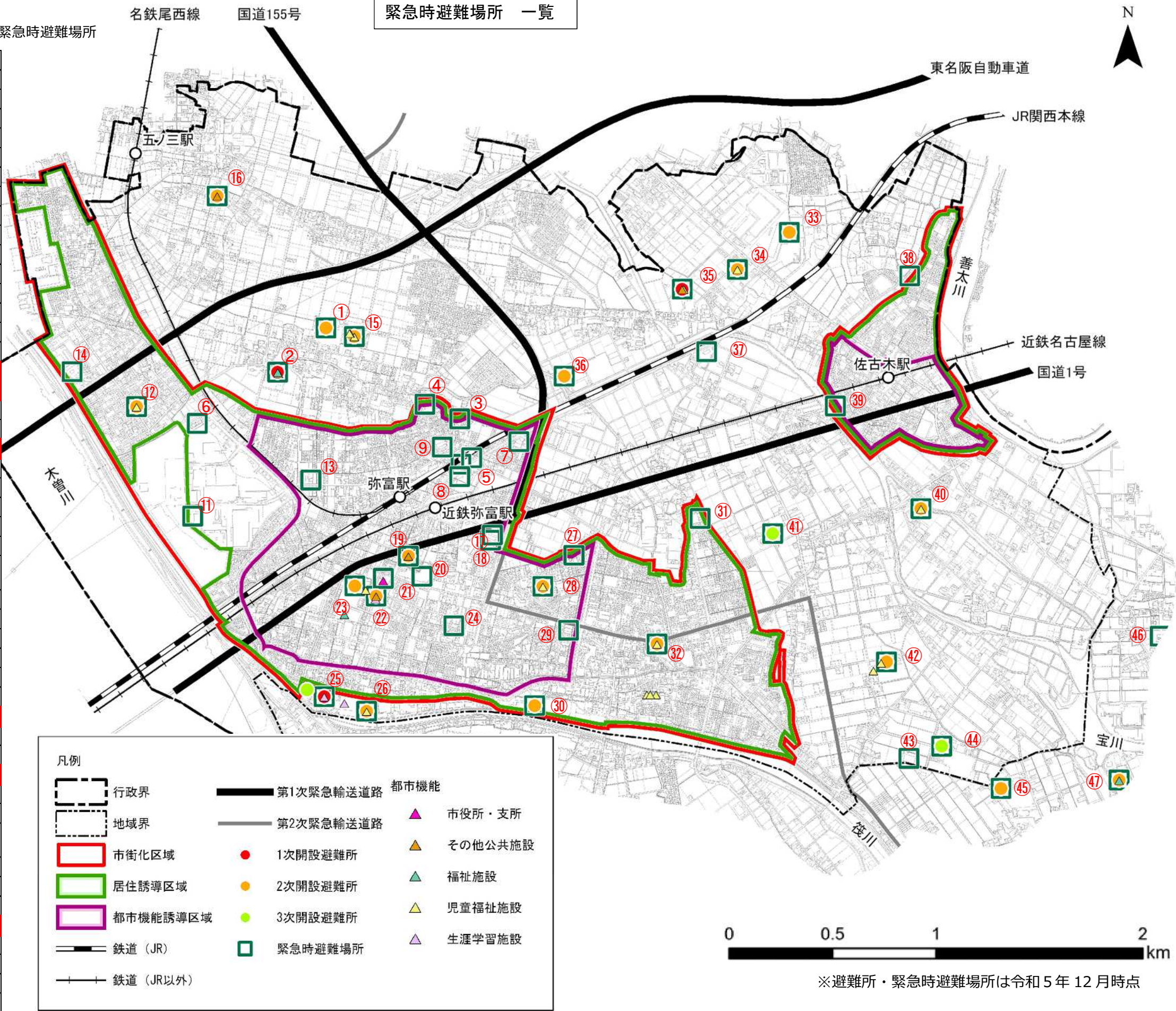
凡例		都市機能		洪水浸水深（計画規模）	
	行政界		市役所・支所		0.5m以上
	地域界		その他公共施設		洪水・高潮浸水深（想定最大規模）
	市街化区域		福祉施設		3.0m以上
	居住誘導区域		児童福祉施設		家屋倒壊等氾濫想定区域
	都市機能誘導区域		生涯学習施設		河岸浸食
	鉄道（JR）				氾濫流
	鉄道（JR以外）				
	第1次緊急輸送道路				
	第2次緊急輸送道路				
	1次開設避難所				
	2次開設避難所				
	3次開設避難所				
	避難所500m圏域				
	緊急時避難場所				
	緊急時避難場所500m圏域				

※洪水・高潮浸水継続時間（3日以上）、津波災害警戒区域は北部地域全域で想定

緊急時避難場所 一覧

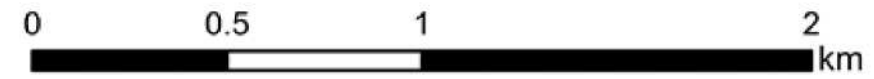
□: 津波の基準水位に対して、新たに追加された緊急時避難場所

番号	名称	避難場所	収容人数
1	弥生小学校	校舎(2-3階,屋上)	5,786人
2	総合福祉センター	2階	1,578人
3	ルネス リヴェール	通路(3階)	16人
4	エントピア弥生	通路・階段踊り場(3-4階)	26人
5	ルネスY. Y	通路(3階)	30人
6	国際ペットカルチャー	教室・バルコニー(3階)	170人
7	ルネス弥富	通路(3階)	32人
8	リハブルヤトミ	通路・階段踊り場(3-10階)	324人
9	レジデンス弥富	通路・階段踊り場(3-6階)	314人
10	ロフティ弥富	通路・階段踊り場(3-10階)	312人
11	川崎重工工業(株) 弥富寮	通路・屋上(3-10階)	1,318人
	川崎重工工業(株) 立体駐車場	3階・屋上	736人
12	西部保育所	2階・屋上	565人
13	U.H.palace	通路、階段踊り場(3-6階)	56人
14	木曾川用水総合管理所	3階、4階(屋上部)	209人
15	弥生保育所(弥生児童館)	各2階	891人
16	農村多目的センター	2階	421人
17	ハレス佐藤2	通路・階段踊り場(3-6階)	285人
18	ハレス佐藤1	通路・階段踊り場(3-4階)	138人
19	産業会館	2階	209人
20	ウイングプラザ パディー	屋上駐車場	8,108人
21	弥富市役所 立体駐車場	2階・屋上	2,740人
22	弥富まちなか交流館	2-3階	2,180人
23	桜小学校	校舎2-3階・展望室	3,934人
24	はびね弥富	通路(3-4階) テラス(4階)	260人
25	総合社会教育センター	公民館(2階-屋上) 体育館(2-3階)	5,846人
26	南部保育所	2階	610人
27	ルネス ソシア	3階	50人
28	桜保育所	2階・屋上	1,007人
29	ラフレシール・オーブ	通路・階段踊り場(3-6階)	150人
30	日の出小学校	2-3階・屋上	4,572人
31	ロゼリア	通路・階段踊り場(3-6階)	72人
32	ひので保育所	2階	906人
33	白鳥小学校	北棟(2-3階,屋上)、南棟(2階)	3,070人
34	白鳥保育所	2階・屋上	900人
35	白鳥コミュニティセンター	2階	605人
36	弥富北中学校	校舎(2階・3階・屋上)	3,758人
37	海部土地改良区会館	EVホール(3階) 倉庫(4階)	96人
38	特別養護老人ホーム おふくろの家	3-4階	339人
39	スベリア佐古木	通路・階段踊り場(3-11階)	606人
40	十四山保育所	2階・屋上	1,302人
41	あいち海部農業協同組合	2階・スロープ	630人
42	十四山西部小学校	校舎(2階)	1,022人
43	長寿の里・十四山	談話コーナー(3-4階)、屋上	900人
44	海翔高校	校舎(3-4階・屋上)	1,752人
45	十四山中学校	校舎(2-3階・屋上)	4,171人
46	野村胃腸科	屋上	200人
47	十四山総合福祉センター	2階	900人



凡例

行政界	第1次緊急輸送道路	都市機能
地域界	第2次緊急輸送道路	市役所・支所
市街化区域	1次開設避難所	その他公共施設
居住誘導区域	2次開設避難所	福祉施設
都市機能誘導区域	3次開設避難所	児童福祉施設
鉄道 (JR)	緊急時避難場所	生涯学習施設
鉄道 (JR以外)		



※避難所・緊急時避難場所は令和5年12月時点



### 3. 防災上の課題のとりまとめ

災害リスク分析の結果を踏まえ、本市における防災上の課題を整理します。

#### 課題①おおむね全域で想定される浸水に対して、事前の広域避難が必要

本市においては、洪水および高潮による浸水、特に想定最大規模の洪水、高潮では市のおおむね全域での浸水が想定されています。居住誘導区域内の浸水が想定される区域において、垂直避難が困難な住宅の分布や避難所の浸水がみられ、健康障害の発生や生命の危機が生じる恐れがある3日以上浸水が継続する区域もあるため、事前に浸水が想定されない市外への広域避難が必要となります。

#### 課題②事前避難が出来なかった場合等において、垂直避難対策が必要

洪水、高潮の浸水に対しては浸水が想定されない区域への事前避難が基本となりますが、事前避難できない場合があることや津波による浸水では事前避難が困難です。こうした場合に自宅の浸水が想定されない階や近くの緊急時避難場所等への垂直避難、想定される長期の浸水に対する備蓄等の事前準備が必要となります。

#### 課題③家屋倒壊等氾濫想定区域内に住宅が立地しており、事前の水平避難が必要

本市においては、木曾川及び善太川沿いに家屋倒壊等氾濫想定区域がみられ、家屋等の倒壊、流出が懸念されています。こうした住宅では、災害情報を収集し、避難場所等の安全な場所への事前の水平避難が必要となります。

#### 課題④浸水が想定される公共施設での浸水対策が必要

市内の洪水、高潮、津波による浸水が想定される区域において、公共施設の立地がみられます。こうした浸水する公共施設には保育所や福祉施設等、要配慮者利用施設も含まれており浸水対策が必要となります。

## 4. 防災まちづくりの考え方及び取組方針

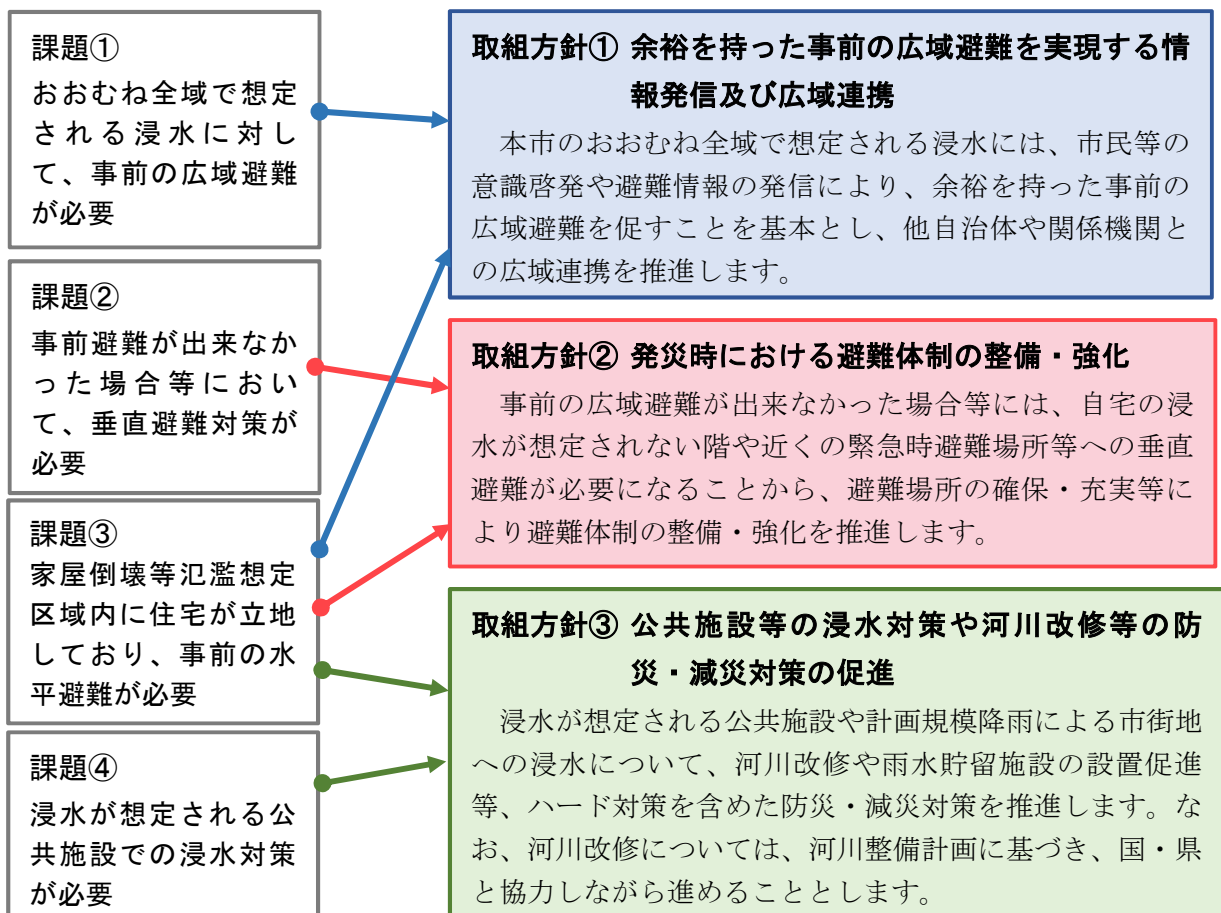
防災上の課題の整理を踏まえ、防災まちづくりの考え方及び取組方針を定めます。

### (1) 防災まちづくりの考え方

本市においては、市全域に災害ハザードが広がっており、健康障害の発生や生命の危機が生じる恐れがある3日以上浸水も想定されています。また、洪水、高潮、津波における想定最大規模の浸水は海部地域をはじめ名古屋市西部でも想定されています。このため、市内にとどまらず、浸水が想定されない市外への広域避難を検討することが災害対策の基本となります。広域避難の実現に向けては、市民一人ひとりの災害情報の収集や事前避難行動（自助）、地域における防災活動（共助）が必須となります。市の役割（公助）として、広域連携の推進や災害リスクに関する積極的な情報発信、市民等に対する事前の避難への意識啓発や地域における防災活動の支援等を行うことで公助により自助、共助の取組の推進を支援します。また、河川改修をはじめとするハード対策（公助）についても、各河川整備計画に基づき、国、県と協力しながら計画規模降雨に対応した整備等による浸水被害の低減を促進していきます。本計画で位置づけた居住誘導区域では災害リスクが想定されているものの、市全域が浸水するため、災害リスクがある区域を居住誘導区域から除外することが現実的ではなく、こうした自助・共助・公助による対応を行うことで、居住誘導区域の指定を引き続き継続します。

### (2) 取組方針

防災まちづくりの考え方を踏まえ、防災上の課題に対応する取組方針を定めます。



## 5. 具体的な取組

取組方針に基づく具体的な取組を弥富市地域強靱化計画から抜粋し、以下に整理します。本計画の目標年度は令和 17（2035）年度ですが、以下に示す取組については弥富市地域防災計画や木曽川流域治水プロジェクトなどに留意しながら、継続的に実施します。なお、取組は本市の全域で想定される洪水、高潮、津波による浸水に対応して進めていくことを基本とします。

取組方針	分類	具体的な取組施策	実施主体
<b>取組方針①</b>  余裕を持った事前の広域避難を実現する情報発信及び広域連携	広域連携	<b>■広域避難体制の確立</b> ・広範囲の浸水の長期間継続することが想定され、多数の避難者が発生するおそれがあることから、広域避難について推進します。	国 県 市
		<b>■災害対応能力の向上</b> ・自治体間の応援協定の締結や受援計画の策定など受援体制の整備を推進します。	市
		<b>■物資調達・受援体制の構築</b> ・産官民の連携等により、物資調達・受援体制を構築し、迅速かつ効率的な対応に向けて実効性を高める施策を推進します。	県 市 民間
		<b>■大規模災害時の広域連携の推進</b> ・大規模災害の発生に伴う救助支援、物資の供給、災害廃棄物処理等について、行政や関係団体及び民間企業の広域的な連携体制や応援体制を構築します。	国 県 市 民間
		・西尾張市町村災害対策連絡協議会等の市町村間の協調・連携に係る取組を推進します。	西尾張市町村
		<b>■災害時における燃料の確保</b> ・市役所、消防署や医療機関等において必要とする非常用発電設備用の石油燃料や緊急車両への燃料を確保するため、石油業協同組合など燃料供給事業者との協定に基づく連携を行います。	市 民間
		<b>■帰宅困難者等支援対策の推進</b> ・弥富駅周辺で発生する帰宅困難者による混乱を避けるため、駅周辺関係事業者との連携による避難所等への円滑な受入・誘導體制を推進します。	市 民間
		<b>■代替輸送手段の確保等</b> ・大規模災害時において、遠距離を移動する必要がある帰宅困難者の帰宅支援のため、鉄道不通時の代替輸送手段の確保等について、公共交通事業者等と協議します。	県 市 民間
		<b>■電力・ガス等供給の災害対応力強化</b> ・停電情報等の共有を迅速で正確に行うため、電力会社とホットラインの構築を行います。	市 民間
		<b>■上水道の機能確保のための広域的な応援体制の確立</b> ・大規模自然災害発生時に速やかに対応するため、広域的な応援体制を確立します。	市 海部南部水道企業団

取組方針	分類	具体的な取組施策	実施主体	
		<p>■応急給水及び上水道復旧体制等の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>他都市からの給水車を円滑に受け入れる体制を確保するとともに、応急措置や復旧を行う要員及び資機材の確保のため、関係業者の協力と内部体制の整備を行います。</li> </ul>	市 海部南部水道企業団	
		<p>■災害拠点病院等の防災・減災機能の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>災害時に必要となる医療機能を提供できるように対策を進めるとともに広域災害時における災害医療体制を確保します。さらに、災害拠点病院が医療機能を万全に提供できるよう対策を講じます。</li> </ul>	国 県 市 民間	
	情報発信		<p>■ハザードマップの作成・周知啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>最新の洪水浸水想定区域図が公表された場合、早期に洪水ハザードマップを作成し、住民への周知啓発を行います。</li> <li>津波ハザードマップのさらなる周知・活用や防災情報の利活用を行い、津波対策を行います。</li> <li>主体的な避難を促すため、ハザードマップ等による地域の災害リスクの周知など、早期避難につながる取組を推進します。</li> </ul>	市 地域
			<p>■防災知識の普及</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>防災知識を普及させるため、住民、教育機関等へ出前講座を実施します。</li> </ul>	市 民間 地域
			<p>■市民への確実な情報の伝達・多様な情報提供手段の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市民一人ひとりへ迅速・確実に災害情報が伝達できるよう、住民への情報伝達手段として、同報系防災行政無線、防災メール、ホームページ、SNS等を整備していますが、さらなる普及啓発を行います。</li> <li>災害時に必要な情報を確実に収集・伝達するために、情報伝達手段の多重化を推進します。</li> </ul>	市 地域
			<p>■適時・適切・確実な情報の発信</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>避難指示等の発令については、空振りをおそれず、早めに出すことを基本とし、住民に対して適時・適切・確実に情報を提供します。また、高齢者、障害者、妊婦、乳幼児等の要支援者に対しても避難指示等の情報が確実に伝達されるよう適切な措置を講じます。</li> </ul>	市 地域

取組方針	分類	具体的な取組施策	実施主体
<p style="text-align: center;">取組方針②</p> <p style="text-align: center;">発災時における避難体制の整備・強化</p>	<p style="writing-mode: vertical-rl;">避難体制の整備・強化</p>	<p>■地域防災力・企業防災力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域防災力や企業防災力を向上させるため、学区・地区防災会等による防災訓練・初期消火訓練における防災訓練・消防訓練を充実・強化させます。</li> </ul>	<p>市 海部南部消防署 地域 民間</p>
		<p>■避難所運営体制の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自治会や自主防災会等との協力・連携体制を構築し、地域が主体的に避難所の管理運営を行えるよう意識啓発に取り組みます。</li> </ul>	<p>市 地域</p>
		<p>■防災コミュニティの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域における防災活動の中心となる防災リーダーの養成を継続的に養成します。</li> </ul>	<p>市 地域</p>
		<p>■地域コミュニティの活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自治会活動の活性化を図るとともに、役割やその重要性について啓発し、自治会への加入を促進する。併せて、女性等の生活に配慮した地域コミュニティの活性化を図ります。</li> </ul>	<p>市 地域</p>
		<p>■備蓄の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>家庭内での食料・飲料水等の備蓄量の増強を図るため、防災啓発イベント、自主防災会の訓練・講習会等で啓発を行います。</li> </ul>	<p>市 地域 民間</p>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>本市の備蓄計画に基づき、避難所への避難者及び避難所外避難者に食料、飲料水等を提供するため、公的備蓄を維持・充実します。</li> </ul>	<p>市</p>
		<p>■要支援者利用施設の洪水時避難確保計画の策定促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>洪水時の逃げ遅れがないよう要支援者利用施設の洪水時避難確保計画が未策定の施設について、計画策定を促進します。</li> </ul>	<p>市</p>
		<p>■要支援者等への支援体制の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>災害時において避難行動要支援者の安否確認や避難誘導等が円滑に行えるよう、日頃から避難行動要支援者の把握に努めるとともに地域と連携して支援体制の整備に取り組みます。</li> </ul>	<p>市 地域</p>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>要支援者の避難生活の支援を図るため、社会福祉施設等の運営事業者と受入れに関する協定を締結するとともに、すでに協定を行った施設とは受入体制の効率的な運用方法を協議します。</li> </ul>	<p>市 民間</p>
		<p>■要支援者の一時的受入体制の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>指定避難所における長期避難生活が困難となる高齢者や障害者などの要支援者が二次的に避難する場所を確保するため、社会福祉施設等への受入体制の整備を推進します。</li> </ul>	<p>市 民間</p>
<p>■応急救護所の機能充実等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>災害時における迅速な医療救護活動を実施するため、応急救護所等の機能充実を推進します。また、学区自治会等と連携した応急救護所開設訓練の実施箇所数を増加させます。</li> </ul>	<p>市 地域</p>		

取組方針	分類	具体的な取組施策	実施主体
		<b>■逃げ遅れ対策の実施</b> ・公共施設における逃げ遅れの発生等を防ぐため、各施設で避難訓練の実施を推進します。	市
		<b>■津波避難対策の推進</b> ・津波災害が生じるおそれがある地域については、緊急時避難場所の指定を推進します。 ・避難に際しては、夜間時や液状化などを考慮して徒歩での避難を前提に、避難経路・避難方法を整理し、実効できる環境を整えるとともに、自力徒歩で避難することが難しい避難行動要支援者などが避難する場合等、別手段での避難も検討します。	市 地域
		・JR、名鉄弥富駅及び近鉄弥富駅は、多くの通勤、通学などの利用者が集まる鉄道施設ですが、津波災害警戒区域及び高潮浸水想定区域に指定されているため、浸水時に備えた駅利用者等の一時避難場所が必要となります。弥富駅周辺は鉄道により南北に分断されており、一時避難場所へ鉄道敷を跨ぐ安全な避難経路を確保する必要があること、また逃げ遅れた人に一時滞在空間の確保ができるよう弥富駅自由通路整備及び橋上駅舎整備を推進します。	市 鉄道事業者
		<b>■防災拠点等の災害対応力の強化</b> ・防災拠点として位置付けのある公共施設等については、その防災上の機能及び用途に応じ、想定される地震・津波等に対して、必要な防災対策を着実に推進します。	国 県市

取組方針	分類	具体的な取組施策	実施主体
<p style="text-align: center;">取組方針③</p> <p style="text-align: center;">公共施設等の浸水対策や河川改修等の防災・減災対策の促進</p>	<p style="text-align: center;">防災・減災対策</p>	<p>■河川改修の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>洪水等による災害の防止または軽減を図るため、河川改修を推進します。</li> </ul>	<p style="text-align: center;">国 県 市</p>
		<p>■河川・海岸堤防等の耐震化等の促進・推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>津波等による浸水を防ぐため、堤防の耐震化等を促進します。</li> </ul>	<p style="text-align: center;">国 県</p>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>河川の河口部や海岸にある水閘門等が地震後も操作が可能となるよう、耐震補強等を促進します。</li> <li>地震後の地域の排水機能を確保するため、排水機場及び幹線排水路等の耐震対策及び更新・整備を促進します。</li> <li>河川・海岸堤防、水閘門、排水機場等の耐震化、老朽化対策等を推進します。</li> <li>排水機場及び幹線排水路等は、常に施設機能の効果を発揮させる必要があるため、計画的な整備・維持管理を行います。</li> </ul>	<p style="text-align: center;">国 県 市 土地改良区</p>
		<p>■浸水等の被害軽減対策の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>河川・海岸堤防等の耐震化など地震・津波による浸水対策を着実に推進するとともに、長期湛水が想定される区域における効率的かつ効果的な湛水排除を実施するための事前対策や体制を排水計画として策定します。</li> </ul>	<p style="text-align: center;">国 県 市 土地改良区</p>
	<p style="text-align: center;">避難・浸水対策</p>	<p>■道路の災害対策の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>災害時において、救助・救急活動が円滑に実施されるよう、発災時においても円滑な交通確保に寄与する緊急輸送道路等の橋梁の地震対策を推進します。</li> </ul>	<p style="text-align: center;">国 県 市</p>
	<p>■災害時の医療提供のためのルート確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>救援救助、緊急物資輸送等ルートを早期確保し、支援物資物流を確保するため、緊急輸送道路等の橋梁の地震対策や道路啓開に向けた連携強化、放置車両対策を推進します。</li> </ul>	<p style="text-align: center;">国 県 市</p>	
	<p>■道路の災害対応力の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>災害時におけるライフラインとして機能する幹線道路等の整備並びに舗装の老朽化対策を推進します。</li> </ul>	<p style="text-align: center;">市</p>	
	<p>■災害時における陸・海の輸送ルートの機能確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域産業活性化のための産業インフラとして、また、災害時におけるライフラインとして機能する幹線道路の整備を推進します。</li> </ul>	<p style="text-align: center;">市</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害発生時における鉄道利用者の乗客の安全確保及び輸送力の維持を図るとともに、交差する一般道路などへの被害防止を図るため、橋梁、駅舎の耐震化対策を引き続き促進します。</li> </ul>	<p style="text-align: center;">民間</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>脆弱性を確認するために主要交通を担う道路の点検を実施するとともに、代替路の選定を推進します。</li> <li>橋梁やトンネル等の道路施設は、法令に基づく5年に1回の点検を実施し、点検結果に基づき補修を実施します。</li> </ul>	<p style="text-align: center;">市  国 県 市</p>	

取組方針	分類	具体的な取組施策	実施主体
		<p><b>■避難所施設の老朽化対策及び耐震化の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>避難者の安全な避難生活を確保するため、避難所に指定されている学校施設等は災害時に避難所としての役割も果たすことから、熱中症対策としての空調設備整備、トイレの洋式化や床のドライ化、天井材や外壁・窓等の非構造部材の落下防止対策、照明器具のLED化など、国の進める学校施設の耐震化、防災機能強化、老朽化対策など長寿命化改良事業を始めとする様々な手法を活用して実施します。</li> </ul>	市
		<p><b>■津波避難対策の推進（再掲）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>JR、名鉄弥富駅及び近鉄弥富駅は、多くの通勤、通学などの利用者が集まる鉄道施設ですが、津波災害警戒区域及び高潮浸水想定区域に指定されているため、浸水時に備えた駅利用者等の一時避難場所が必要となります。弥富駅周辺は鉄道により南北に分断されており、一時避難場所へ鉄道敷を跨ぐ安全な避難経路を確保する必要があること、また逃げ遅れた人に一時滞在空間の確保ができるよう弥富駅自由通路整備及び橋上駅舎整備を推進します。</li> </ul>	市 鉄道事業者
		<p><b>■孤立地域等の発生防止</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>海拔ゼロメートル地帯における広域防災拠点整備として、ヘリコプター離着陸適地の整備を促進します。</li> </ul>	県
		<p><b>■水道施設の老朽化対策等の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>安全・安心な給水の確保のため、水道施設の老朽化対策と合わせて耐震化を推進します。</li> </ul>	市 海部南部水道企業団



## 6. 評価指標

本計画の防災まちづくりに関する進捗状況の評価・検証するために評価指標を設定します。評価指標は取組方針に基づく具体的な取組の実施状況とし、評価する際は居住誘導区域の取組の実施状況を勘案します。加えて、時間をかけて着実に都市の安全性・災害への対応力を高めていくことを目指し、取組の効果を測る指標を設定します。

評価指標（取組の実施状況）		現状値 （年度）	目標値 （年度）	出典
取組方針① 余裕を持った事前の 広域避難を実現する 情報発信及び広域連 携	■広域連携の協定数 （他自治体、市外の 民間事業者との協 定数合計）	16 (2023)	↑ 現状値から 増加を 目指す (2035)	弥富市地域防災計画
	■安全・防災メール 登録者数	5,237人 (2023)	6,000人 (2028)	弥富市地域強靱化計画
取組方針② 発災時における避難 体制の整備・強化	■防災訓練を実施し た自主防災組織の 数	17 (2022)	60 (2028)	弥富市地域強靱化計画
	■避難行動要支援者 台帳登録者数	2,022人 (2023)	2,300人 (2028)	弥富市地域強靱化計画
取組方針③ 公共施設等の浸水対 策や河川改修等の防 災・減災対策の促進	■河川整備率	約37% (2021)	約51% (2025)	木曾川流域治水プロジ ェクト（全区間）
	■農業用排水機場の 耐震化及び更新・ 整備数	4 機場 (2020)	6 機場 (2032)	弥富市地域強靱化計画

取組の実施  
効果の発現

取組の効果を測る指標 （白鳥・弥生・桜・日の出小学校区）	現状値 （年度）	目標値 （2035年度）	出典
■災害時の避難路・避難場所を 知っている人の割合	80.1% (2022)	↑ 徐々に増加 を目指す	市民意識調査 アンケート
■直近1年間に、防火・防災訓練に 参加した人の割合	10.3% (2022)	↑ 徐々に増加 を目指す	市民意識調査 アンケート
■防災対策の推進についての市民満足度	0.76 (2022)	↑ 徐々に増加 を目指す	市民意識調査 アンケート

※広域連携の協定数の現況値の内訳は他自治体:15、市外の民間事業者:1

※取組の効果を測る指標は、「第2次弥富市総合計画後期基本計画及び第2期弥富市まち・ひと・しごと創生総合戦略（改訂版）策定に向けた市民意識調査アンケート」結果を集計

※取組の効果を測る指標のうち「防災対策の推進についての市民満足度」は最大値を+10点、最小値を-10点とし、回答の平均値を算出